主な検疫有害動植物種の選定の根拠とするリスクアナリシスの結果

PRA結果（横浜植物防疫所）に基づき植物防疫課が整理

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
落花生	栽植用種子	アジア	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目 マメゾウムシ科	中	中	①落花生のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は栽植用種子として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
落花生	栽植用種子	アジア	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①落花生の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は栽植用種子として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
落花生	栽植用種子	アジア	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	中	中	①落花生のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は種子として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
落花生	栽植用種子	アジア	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①落花生の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
落花生	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①落花生のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また、貯蔵中にも再寄生することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
落花生	豆類	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	極低	極低	①落花生の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は消費用として輸入され、本種の移動は成虫の歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
落花生	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
落花生	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
落花生	豆類	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
落花生	豆類	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	中	中	①落花生のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は消費用として輸入されるが、本種は落花生を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
落花生	豆類	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①落花生の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④落花生は消費用として輸入されるが、本種は落花生を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
大豆	豆類	全地域	細菌	Curtobacterium flaccumfaciens pv. flaccumfaciens(インゲンマメ萎ちよう細菌病菌)		無視	無視	①大豆の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④大豆は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
大豆	豆類	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	無視	無視	①幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
大豆	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①大豆の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④大豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
大豆	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
大豆	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
大豆	豆類	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
大豆	豆類	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	無視	無視	①幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
大豆	豆類	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
大豆	豆類	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
大豆	豆類	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	無視	無視	①わた属のマイナーな害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①わた属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また、貯蔵中にも再寄生することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④わた属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵生産物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
わた属	雑品	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①わた属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また、貯蔵中にも再寄生することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④わた属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵生産物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①わた属の主要な害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①わた属の主要な害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①わた属の主要な害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
わた属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①わた属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	無視	無視	①わた属の主要な害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	無視	無視	①わた属のマイナーな害虫であり、生育中の種子を加害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
わた属	雑品	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①わた属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④わた属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵生産物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
レンズ豆	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目 マメゾウムシ科	中	中	①レンズ豆のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④レンズ豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されてれおり、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目 メイガ科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が地際部から茎内に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌（Bacillus thuringiensis）や食虫性センチュウ（Steinernema sp.）を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	高	高	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450−2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
レタス	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	中	中	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
レタス	栽植用種子	大洋州	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
レタス	栽植用種子	大洋州	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
レタス	栽植用種子	大洋州	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
レタス	栽植用種子	大洋州	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	無視	無視	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
レタス	野菜	北アメリカ	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目ハムシ科	中	中	①②③輸入検査でのレタスからの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは消費用として輸入され、本種は飛翔により長距離を移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200−1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
レタス	野菜	北アメリカ	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③レタスの結球部のすき間に寄生し、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④レタスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
レタス	野菜	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を産み付けるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	野菜	北アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	高	高	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を産み付けるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④レタスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450−2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	野菜	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
レタス	野菜	北アメリカ	線虫	Nacobbus aberrans（ニセネコブセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	無視	無視	①本種はレタスの主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
レタス	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	極低	極低	①レタスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
レタス	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①レタスの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④レタスは消費用として輸入されるが、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ルピナス	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ルピナス属の主要な害虫であるが、本種が乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50−100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①りんごのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Gymnosporangium clavipes		中	中	①りんごのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は絶対寄生菌であるが、冬期はびゃくしんを宿主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんご等の日本の重要作物に、枝や果実の奇形を起こすことで重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。チリ、チェコにおいて検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Gymnosporangium juniperi-virginianae		高	高	①りんごの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は絶対寄生菌であるが、冬期はびゃくしんを宿主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①りんご等の日本の重要作物に、非常に深刻な落葉や、果実に褐色の壊死病斑を生じることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。COSAVE、IAPSCとJUNACも検疫有害植物に指定している。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		高	高	①りんご属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は潜在感染することがあるため、既存の管理に耐えて生き続ける可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	細菌	Apple rubbery wood phytoplasma		中	中	①りんごの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されるが、伝搬方式が接木伝搬のみであるため、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②伝搬方式が接ぎ木伝搬のみであるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①日本の主要な作物であるりんごに、枝の垂れ下がりや主幹の伸長停止等の生育異常を引き起こし、果実への被害としては、りんごで10–30%、なしで15–50%程度減収するとの報告があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②NAPPOやCOSAVAではquarantine pestと位置づけている。健全樹・苗の使用、熱処理による無病苗の作出がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Phytoplasma mali		高	高	①りんごの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スイス、トルコなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のりんご等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のリンゴキジラミにより虫媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるりんごに、葉や果実に変色、変形を引き起こし、りんごに対し、大きさ、重量が半分以上減少したとの報告がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②抗生物質、耐性品種の利用が報告されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Phytoplasma pyri		中	中	①りんごのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主である西洋なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スイスなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生の西洋なし等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のナシキジラミにより虫媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物である西洋なしに、枝、葉、果実などの奇形を引き起こす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②ベクターなどの防除、耐性品種の利用が報告されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	細菌	Erwinia amylovora(火傷病菌)		高	高	①りんご属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなる訪花昆虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるりんご等のなし亜科植物は日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のりんご等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は訪花昆虫により伝播するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①りんご等のなし亜科植物に葉、茎の変色、しおれ、枯死等を引き起こし、りんごの果樹園では35%の減収を起こした例もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が報告されている。エジプト、EU、オーストラリア、旧ソビエト、中国、チリ、トルコ、ノルウェー、ハンガリー、ブラジル、旧ユーゴ、ルーマニア、チェコ共和国で検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
りんご属	重要農作物	全地域	ウイル	Carnation ringspot virus		高	高	①りんご属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、米国、ブラジル、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種の宿主植物であるカーネーションは多年生植物であり、且つ、本種は土壌中に残ることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、昆虫、土壌中の糸状菌等では伝染しないが、感染植物との接触、または汚染された土壌から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①カーネーション等の日本の重要作物に、葉の輪紋症状や花の奇形を生じさせる等、重大な被害を生じさせる可能性があり、また、他のウイルスとの複合感染により収量を減少させることから、直接的影響は高い。 (参考)②チリ、中国、ハンガリー、韓国、スリランカ、米国及びイギリスにおいて検疫有害動植物に指定されている。米国では本種発生国から輸入されるカーネーションは原則として隔離検査対象となっている。ELISA法の導入により、近年は経済的被害が減少している。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	ウイル	Cherry rasp leaf virus		高	高	①りんごの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるさくらんぼは日本で広く栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝搬するため定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくらんぼやりんごに収量減等を引き起こし、枯死することもあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②チェコでは本種を輸入禁止対象病害虫としている。感染樹の除去が有効である。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目 ミバエ科	中	中	①りんご属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目 ミバエ科	低	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80–100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Aphis pomi	カメムシ目アブラムシ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小昆虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア、フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①日本の主要な作物であるりんごに対して葉、生長点、花、果実を加害し、煤病、変形、変色等により果実外観の悪化、収量の低下を引き起こすため、直接的影響は高い。 （参考）②エジプトで検疫有害動植物に指定されている。化学的、生物的防除法、抵抗性品種、IPMが存在。日本にはAphis属が180種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実表面に微小な卵を産み付けることから、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるぶどう、りんごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は200個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫及び蛹で、樹上に残った枯葉、芽等で越冬できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ぶどう等の果実を食害し、傷を付けることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、越冬場所の除去による耕種的防除法が有効とされている。りんごではチャノコカクモンハマキなど、日本には本種と同様の被害を与えるハマキガ科の害虫が数種、存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①りんご属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①りんご属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera zonata	ハエ目ミバエ科	低	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、インド等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①ももの果実を加害し重大な被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②チェコでは本種を輸入禁止対象病害虫としている。耕種的、物理的、化学的防除法や雄除去法がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis rosa	ハエ目 ミバエ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト及びさくら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むと考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト及びさくら属等、日本の主要作物の生果実に重大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はチェコ、シンガポール、マルタでは検疫有害動物に指定されており、EPPO、JUNAC（アンデス地域共同体）、およびOIRSA（中米地域植物防疫機関）において検疫上重要視されている。トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除法が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200–900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2，3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物となるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Cydia pomonella（コドリンガ）	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①りんご属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実内部で生育するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③250–300個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は最大2年間休眠する能力を有することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの主要な害虫であり、収穫量を減収させたり、果実を落下させることもあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、中国は本種を輸入禁止対象害虫にしている。化学的、耕種的、フェロモントラップ等がある。日本ではナシヒメシンクイ等の多くのハマキガ科は本種と同部位を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	中	中	①りんご属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Grapholita funebrana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が果実に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③同属の雌成虫は一度に平均145個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は中距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①さくらんぼの主要害虫であり、果実を食害し大きな被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②フェロモン剤によるトラッピングや交信撹乱、化学的防除等がが開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Grapholita prunivora	チョウ目ハマキガ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④地上の落ち葉内や幹の裂け目に作った繭の中で終令幼虫で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご生果実を食害し、表皮をコルク状にするなどの重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに記載されており、またCOSAVEでも重要検疫害虫とされている。化学的防除及びフェロモンを用いた生物的防除があり、総合的防除も確立されている。国内では同属のナシヒメシンクイがりんごを食害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Malacosoma americanum	チョウ目 カレハガ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔することから定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①寄主植物の葉を暴食するが、経済的影響は少ないため直接的影響は中程度。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。日本には同属のオビカレハが分布する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目 ドクガ科	中	中	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は枝に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目 マルカイガラムシ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるももなどに寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	低	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①りんごの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis pomonella	ハエ目 ミバエ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④越冬、休眠するとの記載はないが、もも、さくらんぼ、りんご等寄主範囲が広いため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により1.5km移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①りんごの果実内部を食害する重要な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②COSAVE、EPPO及びOIRSAで重要害虫として取り扱われており、EU、インドネシア、中国で輸入禁止対象害虫となっている。耕種的防除のほか、化学的防除が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	一定期間、1.5℃以下の低温処理すれば死滅する旨の記述あり。	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①りんごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
りんご属	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①りんごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
りんご属	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目 ロンギドルス科	中	中	①りんご属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りんご属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は Grapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	
りゅうきゅう	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目 メイガ科	高	高	①りゅうきゅうべんけい属植物の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が地際部から茎内に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④りゅうきゅうべんけい属植物は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌(Bacillus thuringiensis)や食虫性センチュウ(Steinernema sp.)を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
らん科	切り花	アジア	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①らん科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体の内部に産卵することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④らん科切り花は消費用として輸入されるが、本種は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
ラン科	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①ラン科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ラン科は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ラン科	重要農作物	全地域	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ラン科の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ラン科は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ラン科	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①パフィオペディルム属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ラン科は植栽用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ラン科	重要農作物	全地域	節足動物	Xylosandrus morigerus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①ラン科のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体内部に寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ラン科は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるちゃは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③樹木内の孔道に数日にわたって複数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるちゃを加害することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雌成虫は中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ちゃの苗では加害されると枯死することが示唆されており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ニュージーランドでは検疫害虫となっている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ヨーロッパ木イチゴ	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目ゾウムシ科	無視	無視	①本種はヨーロッパ木イチゴのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫・成虫とも根・葉であり（卵・蛹はホスト根回り周辺の土中）、生果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ヨーロッパ木イチゴ	生果実	北アメリカ	ウイルス	Cherry rasp leaf virus		無視	無視	①ヨーロッパ木イチゴのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ヨーロッパ木イチゴ生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ヨーロッパ木イチゴ	生果実	北アメリカ	ウイルス	Raspberry leaf curl virus		無視	無視	①ヨーロッパ木イチゴの主要な病原体であるが、生果実に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ヨーロッパ木イチゴ	生果実	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①ヨーロッパ木イチゴのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ヨーロッパ木イチゴ生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ヨーロッパ木イチゴ	生果実	北アメリカ	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①本種はヨーロッパ木イチゴの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実内に食入することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ヨーロッパ木イチゴ生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200−900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2，3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ヨーロッパ木イチゴ	生果実	北アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目ゾウムシ科	無視	無視	①本種はヨーロッパ木イチゴのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫・成虫とも根・葉であり（卵・蛹はホスト根回り周辺の土中）、生果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ゆり属	重要農作物	全地域	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		高	高	①ゆり属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ゆり属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。スイセンなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ゆり属	栽植用球根	全地域	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		高	高	①ゆりの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ゆり属は球根として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。スイセンなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ゆり属	切り花	アジア	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		無視	無視	①ゆり属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ゆり属切り花は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	–		–		無視	–					否	
ユーカリ属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Ctenarytaina eucalypti	カメムシ目キジラミ科	低	中	①ユーカリノキ属（Eucalyptus pulverulenta、E. globulus）の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に微細な卵を産み付けるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ユーカリノキ属は消費用として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①寄主植物であるユーカリノキ属植物は主に九州、四国、本州中・南部で植栽されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②フランス、イタリア、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物の葉の表面の葉柄に沿って多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるユーカリノキ属を寄主植物とし越冬もするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種は日本の公園樹、庭園樹、街路樹等で植栽されているユーカリノキ属に加害する可能性があり、直接的影響は高い。 （参考）②防除方法として天敵の利用が報告されている。	日本の一部（関東以西等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ユーカリ属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ユーカリノキ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ユーカリノキ属は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
やえなり	豆類	全地域	細菌	Curtobacterium flaccumfaciens pv. flaccumfaciens(インゲンマメ萎ちよう細菌病菌)		無視	無視	①やえなりの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④やえなりは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
やえなり	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①やえなりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また、貯蔵中にも再寄生することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④やえなりは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
やえなり	豆類	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	中	中	①②③輸入検査でやえなり種子からの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④やえなりは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
やえなり	豆類	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	低	低	①やえなりの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④やえなりは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
モロコシ属	栽植用種子	北アメリカ	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		高	高	①モロコシ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、モロコシ属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
モロコシ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
モロコシ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
モロコシ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
モロコシ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	中	中	①モロコシ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④モロコシ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
もみ属	重要農作物	全地域	節足動物	Gnathotrichus sulcatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	高	①もみ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④もみ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は最高60個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種の防除法として、総合的病害虫管理（IPM）が利用されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
もみ属	重要農作物	全地域	節足動物	Monochamus scutellatus	コウチュウ目カミキリムシ科	中	高	①もみ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は樹皮につけた傷の中に卵を産み付け、幼虫が樹皮下に内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④もみ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②カナダに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法としては化学的防除法及び耕種的防除法があるが、環境への影響により現在は耕種的防除法が利用されている。日本ではまつ属の害虫として同属のマツノマダラカミキリがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
もみ属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①もみ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④もみ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
もみ属	重要農作物	全地域	節足動物	Orthotomicus erosus	コウチュウ目 キクイムシ科	中	中	①もみ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④もみ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、中国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属に寄生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①まつ属の重要な害虫であるが、主に伐採樹を加害するため、直接的影響は中程度。 （参考）②耕種的防除法が知られる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
メロン	野菜	北アメリカ	細菌	Acidovorax avenae subsp. citrulli（スイカ果実汚斑細菌病菌）		無視	無視	①メロンの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④メロンは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
メロン	野菜	北アメリカ	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①ウリ科の主要な病原体であるが、メロンへの感染は不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④メロンは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
メロン	野菜	北アメリカ	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①メロンの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が果実を外部から食害し、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④メロンは消費用として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
メロン	野菜	北アメリカ	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①メロンの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の成虫は外部から果実を食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④メロンは消費用として輸入されるが、本種は飛翔により長距離を移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200-1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	
メロン	野菜	北アメリカ	節足動物	Diaphania nitidalis	チョウ目 ツトガ科	中	高	①メロンの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実内部に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④メロンは消費用として輸入されるが、本種成虫は飛翔により長距離を移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種は米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、葉、茎、芽、花等に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④きゅうりは施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として天敵(Bacillus thuringiensis)利用や耕種的防除等の組み合わせとともに薬剤散布が有効である。日本では同属のワタヘリノメイガがウリ科、アオイ科野菜の害虫として記録されている。	日本の一部(沖縄県等) (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	なし	要	
メロン	野菜	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	中	中	①メロンのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を果実に産み付けるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④メロンは消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
メロン	野菜	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①メロンのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④メロンは消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
メロン	野菜	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、メロンへの寄生は不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④メロンは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
民芸品	雑品	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	極低	極低	①②③輸入検査での民芸品からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④民芸品は消費用として輸入され、本種の移動は成虫の歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
民芸品	雑品	全地域	節足動物	Sinoxylon conigerum	コウチュウ目ナガシンクイムシ科	中	中	①②③輸入検査での民芸品からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④民芸品は消費用として輸入され、本種は中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるたけ類は全国に分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、イタリア、ブラジル、スペインに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を生み付けると考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠越冬する能力を有するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①主に枯死したあるいは樹勢の衰えたたけ類を加害することから、直接的影響は中程度。 (参考)②本種は木材梱包材の害虫として知られる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	日本に主に存在するたけ(Phyllostachys属)を寄主とするかは不確実性を伴う。	要	
みやましきみ属	切り花	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①②③輸入検査でのみやましきみ属切花からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④みやましきみ属切花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
水草	栽植用植物	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①Aeschynomene属、Aglaonema属、Begonia属、Coleus属、Dracaena属、Euphorbia属、Mentha属の水草のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④水草は苗として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
みずき属	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①みずき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④みずき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①マンゴウの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①マンゴウのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法(被害果実の収集、廃棄)、化学的防除法(ベイトスプレー)がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	中	高	①マンゴウの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	高	高	①マンゴウの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記載はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒している。EU、チェコ、シンガポールにおいて輸入禁止対象有害動物に指定されている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	中	中	①マンゴウのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80-100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①マンゴウのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①マンゴウの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①マンゴウの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①マンゴウのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①マンゴウの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 （参考）②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
マンゴウ	生果実	北アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①マンゴウの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④マンゴウ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①まつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Dendroctonus brevicomis	コウチュウ目 キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEPPOのA1リストに掲載されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Dendroctonus ponderosae	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種の防除法として、耕種的防除法、化学的防除法、機械的防除法等が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Dendroctonus valens	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法として、耕種的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Gnathotrichus sulcatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は最高60個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種の防除法として、総合的病害虫管理（IPM）が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ips calligraphus	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属に寄生し、幼虫が樹内で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な樹木である、まつ属の生きた立木に重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本では同属のマツノムツバキクイムシ、ヤツバキクイムシ、カラマツヤツバキクイムシがまつ属を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ips pini	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ips sexdentatus	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布することから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④全ての態で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、衰弱木を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②EUでは一部の地域への本種の移動の際には検疫証明書への追記を必要としており、トルコでは輸入を禁止している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①おうしゅうくろまつの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	中	中	①ショートリーフパインのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではもも の吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Monochamus scutellatus	コウチュウ目カミキリムシ科	中	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は樹皮につけた傷の中に卵を産み付け、幼虫が樹皮下に内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②カナダに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法としては化学的防除法及び耕種的防除法があるが、環境への影響により現在は耕種的防除法が利用されている。日本ではまつ属の害虫として同属のマツノマダラカミキリがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①ロッジポールパインのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Orthotomicus erosus	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①まつ属の重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、中国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属に寄生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	中	①まつ属の重要な害虫であるが、主に伐採樹を加害するため、直接的影響は中程度。 （参考）②耕種的防除法が知られる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①まつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
まつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ラディアータまつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④まつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ポプリ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	低	低	①②③輸入検査でのポプリからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ポプリは消費用として輸入され、本種は、中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ホップ	重要農作物	全地域	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		中	中	①ホップのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ホップは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。スイセンなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ホップ	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ホップの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ホップは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ホップ	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①ホップの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は植物体に作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ホップは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ホップ	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①ホップのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ホップは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ホップ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①ホップのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ホップは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
北洋材	木材	ロシア	節足動物	Ips calligraphus	コウチュウ目 キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④北洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は風により長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属に寄生し、幼虫が樹内で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な樹木である、まつ属の生きた立木に重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本では同属のマツノムツバキクイムシ、ヤツバキクイムシ、カラマツヤツバキクイムシがまつ属を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
北洋材	木材	ロシア	節足動物	Ips sexdentatus	コウチュウ目 キクイムシ科	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④北洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるまつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④全ての態で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①まつ属の主要な害虫であり、衰弱木を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②EUでは一部の地域への本種の移動の際には検疫証明書への追記を必要としており、トルコでは輸入を禁止している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
北洋材	木材	ロシア	節足動物	Orthotomicus erosus	コウチュウ目 キクイムシ科	高	高	①まつ属の重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④北洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、中国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属に寄生することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	中	①まつ属の重要な害虫であるが、主に伐採樹を加害するため、直接的影響は中程度。 （参考）②耕種的防除法が知られる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
北洋材	木材	ロシア	節足動物	Scolytus multistriatus	コウチュウ目 キクイムシ科	中	中	①はこやなぎ属、かし属及びしなのき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④北洋材は消費用として輸入されるが、成虫は風により長距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、にれは日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、中国、米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なにれに寄生し、幼虫が樹内で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、にれの衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②耕種的防除法及び化学的防除法の併用が有効とされる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
北洋材	木材	ロシア	節足動物	Scolytus scolytus	コウチュウ目 キクイムシ科	中	中	①はこやなぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④北洋材は消費用として輸入されるが、成虫は風により長距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スペイン等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫が多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種ははこやなぎ属の樹内部に寄生することから、年間を通じ生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②本種の防除法として、抵抗性品種の導入、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
ほうれん草	重要農作物	全地域	ウイルス	Sowbane mosaic virus		中	中	①ほうれん草のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ほうれん草は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるほうれん草は全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はフランス、イタリア及び米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は種子伝搬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染、花粉伝染及び日本既発生アブラムシにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①日本の主要作物であるほうれん草にモザイク症状を生じさせるが、その症状は強くないことから、直接的影響は中程度。 (参考)②媒介虫の発生を抑える目的で、防除が試みられている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ほうれん草	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	高	高	①ほうれん草の主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ほうれん草は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ほうれん草	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ほうれん草の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ほうれん草は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ほうれん草	重要農作物	全地域	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	高	高	①ほうれん草の主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ほうれん草は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
ほうれん草	重要農作物	全地域	線虫	Nacobbus aberrans（ニセネコブセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①ほうれん草の主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ほうれん草は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょを加害する主要な線虫であり、寄主植物の根部に寄生し、ゴールを生じさせる。作物によっては90%近くの減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②台湾において本種はハイリスクの検疫有害動物となっている。化学的防除法、耕種的防除法がとられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
ほうせんか	栽植用植物	アジア	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目メイガ科	中	中	①ほうせんか属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉が異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ほうせんか属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌（Bacillus thuringiensis）や食虫性センチュウ（Steinernema sp.）を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性										
							評価	理由	評価	理由	評価	理由		評価	理由				
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		無視	無視	①ペルシャグルミの主要な病原体であるが、核子に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ペルシャグルミのマイナーな害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ペルシャグルミのマイナーな害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ペルシャグルミのマイナーな害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Cydia pomonella(コドリンガ)	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ペルシャクルミの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は核子内に食入し、乾燥等により影響を受けるとの情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ペルシャグルミは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③250-300個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は最大2年間休眠する能力を有することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの主要な害虫であり、収穫量を減収させたり、果実を落下させることもあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア、中国は本種を輸入禁止対象害虫にしている。化学的、耕種的、フェロモントラップ等がある。日本ではナシヒメシンクイ等の多くのハマキガ科は本種と同部位を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目ゾウムシ科	無視	無視	①ペルシャグルミのマイナーな害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①ペルシャグルミのマイナーな害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	無視	無視	①ペルシャグルミの主要な害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①ペルシャグルミの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、また、核子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ペルシャグルミ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Rhagoletis completa	ハエ目 ミバエ科	無視	無視	①ペルシャグルミの主要な害虫であるが、核子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ペラルゴニ	栽植用植物	ヨーロッパ	ウイルス	Artichoke Italian latent virus		中	中	①ペラルゴニューム属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④媒介線虫Longidorus apulusは我が国未発生のため、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①宿主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種はぶどうなどの多年生植物に感染することが報告されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②アーティーチョークでは種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。また、線虫伝染も報告されているが、媒介する線虫Longidorus apulusは我が国未発生である。	中	極高	①日本の主要な果樹であるぶどうにファンリーフ様の症状を生じ、収量減の被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアでは本種を侵入を特に警戒している病害虫に指定している。本種の防除法として、ウイルスフリー苗を使用すること、媒介線虫を防除する方法が有効である。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	①アーティチョークでは種子伝染することが報告されているが、ペラルゴニュームでの報告はない。 ②媒介する線虫Longidorus apulusは我が国未発生であることから、本種の伝搬は限られる。	要	
ペラルゴニ	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①ペラルゴニューム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ペラルゴニューム属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150–200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ペラルゴニ	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①ペラルゴニューム属のマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ペラルゴニューム属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ペラルゴニ	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ペラルゴニューム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ペラルゴニューム属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ペラルゴニ	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①ペラルゴニューム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉上に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ペラルゴニューム属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ペゴニア属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目メイガ科	高	高	①ペゴニア属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が球根内部に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ペゴニア属は球根として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌(Bacillus thuringiensis)や食虫性センチュウ(Steinernema sp.)を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	球根に対する食害様式が不明であるため、根部に対する食害様式で評価した。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ベゴニア属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目メイガ科	高	高	①ベゴニアの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が地際部から茎内に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ベゴニア属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のベゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌(Bacillus thuringiensis)や食虫性センチュウ(Steinernema sp.)を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはベゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	球根に対する食害様式が不明であるため、根部に対する食害様式で評価した。	要	
ベゴニア属	栽植用植物	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ベゴニアの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ベゴニア属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		高	高	①さくら属の重要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③宿主植物に潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種は風により伝搬するため、宿主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		無視	無視	①くるみ属、りんご属及びさくら属の主要な病原体であるが、土壌伝染することから、木材を経路として入り込む可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	–		–		無視	–				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
米材	木材	北アメリカ	細菌	Xylella fastidiosa		無視	無視	①かえで属及びさくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
米材	木材	北アメリカ	ウイルス	Cherry rasp leaf virus		無視	無視	①さくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
米材	木材	北アメリカ	ウイルス	Cherry rusty mottle disease		無視	無視	①さくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
米材	木材	北アメリカ	ウイルス	Peach rosette mosaic virus		無視	無視	①ももの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
米材	木材	北アメリカ	ウイルス	Sowbane mosaic virus		無視	無視	①さくら属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Anarsia lineatella	チョウ目キバガ科	中	中	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入され、成虫は中距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主である、さくら属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、中国、米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はさくら属の枝の樹皮内で幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な樹木である、さくら属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①アプリコットのマイナーな害虫であるが、本種は葉や果実を加害するが主幹には寄生しないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Dendroctonus ponderosae	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①とうひ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種の防除法として、耕種的防除法、化学的防除法、機械的防除法等が利用されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Dendroctonus pseudotsugae	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①とがさわら属の重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、からまつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は最高160個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	中	①本種はからまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は中程度。 (参考)②本種の防除法として、耕種的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Dendroctonus rufipennis	コウチュウ目キクイムシ科	高	高	①とうひ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、とうひ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は50～180個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、とうひ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種はとうひ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種の防除法として、耕種的防除法、化学的防除法、機械的防除法が利用されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Dendroctonus valens	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①②③輸入検査での米材からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の産卵数に関する情報はないが、同属他種から類推して繁殖能力は極めて高いと思われる。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②本種の防除法として、耕種的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	とうひ属で発見されたとの記述はあるが、寄主として記載されていないことから侵入の可能性については不確実性を伴う。	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Gnathotrichus sulcatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	高	①もみ属、からまつ属、とうひ属等の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は最高60個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種の防除法として、総合的病害虫管理(IPM)が利用されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Ips pini	コウチュウ目 キクイムシ科	中	中	①とうひ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	無視	無視	①本種はももの主要な害虫であるが、主幹に寄生しないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	中	中	①ものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①本種はかし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入され、本種は歩行により短距離移動すると考えられるため、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物であるいちごに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が利用可能である。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④米材は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫の短距離歩行に限られていることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるももなどに寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	無視	無視	①本種はさくら属及びくるみの主要な害虫であるが、主幹に寄生しないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Scolytus multistriatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①かし属及びさくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④米材は消費用として輸入されるが、成虫は風により長距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主である、にれは日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、中国、米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、にれに寄生し、幼虫が樹内で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、にれの衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法の併用が有効とされる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
米材	木材	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ものマイナーな害虫であるが、本種は寄主植物の葉のみを加害し、木材を加害することはないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
プロテア属	切り花	大洋州	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①②③輸入検査でのプロテア属切り花からの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④プロテア属切り花は消費用として輸入され、本種は風により移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
プロテア属	切り花	大洋州	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①②③輸入検査でのプロテア属切り花からの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④プロテア属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は米国で頻繁に検査で発見されているが、定着には至っていないため、定着の可能性の評価結果には不確実性を伴う。	要	
プロテア属	切り花	大洋州	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①②③輸入検査でのプロテア属切り花からの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④プロテア属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
プロテア属	切り花	大洋州	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①②③輸入検査でのプロテア属切り花からの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④プロテア属切り花は消費用として輸入され、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
プロテア属	切り花	大洋州	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	極低	極低	①②③輸入検査でのプロテア属切り花からの発見事例があるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④プロテア属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
プロテア属	切り花	大洋州	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①②③輸入検査でのプロテア属切り花からの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④プロテア属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ブラックベリー	生果実	北アメリカ	ウイルス	Raspberry leaf curl virus		無視	無視	①ブラックベリーの主要な病原体であるが、生果実に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ぶな属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①ぶな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶな属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		高	高	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		高	高	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は潜在感染することがあるため、既存の管理に耐えて生き続ける可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、もも の葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Phytoplasma mali		中	中	①ぶどう属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スイス、トルコなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のりんご等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のリンゴキジラミにより虫媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるりんごに、葉や果実に変色、変形を引き起こし、りんごに対し、大きさ、重量が半分以上減少したとの報告がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②抗生物質、耐性品種の利用が報告されている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	細菌	Grapevine flavescence doree phytoplasma		中	中	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①宿主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫となるヨコバイ（Scaphoideus titanus）が日本に分布していないため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①日本の重要作物であるぶどうに、葉や果実の黄化や奇形、植物全体の枯死等を引き起こす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに設定している。健全な苗の使用、ベクターの防除が有効である。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	細菌	Xylella fastidiosa		高	高	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなるヨコバイやアワフキムシが日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のオオヨコバイやホソアワフキにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう、ももなどの日本の主要農作物に収量減、果実の小型化等の重大な被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコでは栽培地検査を要求している。健全樹の使用が有効。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	ウイルス	Artichoke Italian latent virus		中	中	①ぶどう属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種はぶどうなどの多年生植物に感染することが報告されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②アーティーチョークでは種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。また、線虫伝染も報告されているが、媒介する線虫Longidorus apulusは我が国未発生である。	中	極高	①日本の主要な果樹であるぶどうにファンリーフ様の症状を生じ、収量減の被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種を侵入を特に警戒している病害虫に指定している。本種の防除法として、ウイルスフリー苗を使用すること、媒介線虫を防除する方法が有効である。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	①アーティチョークでは種子伝染することが報告されているが、ペラルゴニュームでの報告はない。 ②媒介する線虫Longidorus apulusは我が国未発生であることから、本種の伝搬は限られる。	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	ウイルス	Carnation ringspot virus		中	中	①ぶどう属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、米国、ブラジル、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種の宿主植物であるカーネーションは多年生植物であり、且つ、本種は土壌中に残ることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、昆虫、土壌中の糸状菌等では伝染しないが、感染植物との接触、または汚染された土壌から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①カーネーション等の日本の重要作物に、葉の輪紋症状や花の奇形を生じさせる等、重大な被害を生じさせる可能性があり、また、他のウイルスとの複合感染により収量を減少させることから、直接的影響は高い。 （参考）②チリ、中国、ハンガリー、韓国、スリランカ、米国及びイギリスにおいて検疫有害動植物に指定されている。米国では本種発生国から輸入されるカーネーションは原則として隔離検査対象となっている。ELISA法の導入により、近年は経済的被害が減少している。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	ウイルス	Grapevine chrome mosaic virus		高	高	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クロアチアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①日本の重要作物であるぶどうに果実の欠失、植物全体の枯死等重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②健全な苗の使用が有効である。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	土壌伝染については線虫が媒介している可能性がある。	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	ウイルス	Peach rosette mosaic virus		高	高	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②接ぎ木や種子から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な農作物であるもも、ぶどう等に収量減、枯死等の影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②チェコでは輸入禁止対象に指定されている。健全な苗の使用が有効である。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	ウイルス	Raspberry ringspot virus		高	高	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、さくらんぼ等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①いちごなどの日本の重要作物にえそ斑点、輪点、えそを生じ、やがて感染植物はわい化し枯死に至るなどの重大な被害を生じる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU及びトルコでは禁止対象の有害植物に指定。チェコでは栽培地検査対象に指定。防除法は健全苗の使用、媒介線虫の防除など。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	線虫による伝搬も行うが、我が国に存在する線虫により伝搬することが可能であるかについては不明である。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	ウイルス	Sowbane mosaic virus		中	中	①ぶどう属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるほうれん草は全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はフランス、イタリア及び米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は種子伝搬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染、花粉伝染及び日本既発生アブラムシにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①日本の主要作物であるほうれん草にモザイク症状を生じさせるが、その症状は強くないことから、直接的影響は中程度。 (参考)②媒介虫の発生を抑える目的で、防除が試みられている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		高	高	①ぶどう属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。すいせんなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目コナジラミ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏に卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35–50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるぶどう、りんごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は200個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫及び蛹で、樹上に残った枯葉、芽等で越冬できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ぶどう等の果実を食害し、傷を付けることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、越冬場所の除去による耕種的防除法が有効とされている。りんごではチャノコカクモンハマキなど、日本には本種と同様の被害を与えるハマキガ科の害虫が数種、存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目 ヒメハダニ科	中	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 (参考)②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata(チチュウカイミバエ)	ハエ目 ミバエ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis rosa	ハエ目 ミバエ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト及びびさくら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むと考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト及びびさくら属等、日本の主要作物の生果実に重大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はチェコ、シンガポール、マルタでは検疫有害動物に指定されており、EPPO、JUNAC(アンデス地域共同体)、およびOIRSA(中米地域植物防疫機関)において検疫上重要視されている。トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除法が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、卵を産みつけられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①ぶどう属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物であるいちごに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が利用可能である。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	中	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①ぶどう属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①ぶどう属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目 ハダニ科	高	高	①ぶどう属の重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 (参考)②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう属	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目 ロンギドルス科	高	高	①ぶどう属の主要な害虫で、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は Grapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	
ぶどう属	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①ぶどう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	細菌	Xylella fastidiosa		無視	無視	①ぶどうの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目 ミバエ科	中	中	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目 ヒメハダニ科	中	高	①ぶどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種は歩行及び風により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 (参考)②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata(チチュウカイミバエ)	ハエ目 ミバエ科	高	高	①ぶどうの特に主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目 ゾウムシ科	無視	無視	①本種はぶどうのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫、成虫とも根・葉であり(卵、蛹は寄主根回り周辺の土中)、生果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①ぶどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70−120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう	生果実	中・南アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		無視	無視	①ぶどうの主要な病原体であるが、生果実に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ぶどう	生果実	北アメリカ	細菌	Xylella fastidiosa		無視	無視	①ぶどうの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ぶどう	生果実	北アメリカ	ウイルス	Peach rosette mosaic virus		無視	無視	①ぶどうの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	中	中	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目 ミバエ科	中	中	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目 ミバエ科	高	高	①ぶどうの特に主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は主に歩行により移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①本種はぶどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実の表面を加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目 ゾウムシ科	無視	無視	①本種はぶどうのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫、成虫とも根・葉であり(卵、蛹はホスト根回り周辺の土中)、生果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	低	中	①ぶどうの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を外部から食害する。収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①ぶどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①ぶどうの害虫としての情報は不確実であり(data-mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぶどう	生果実	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①ぶどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ぶどう生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ふだんそう属	雑品	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	極低	極低	①②③輸入検査でのふだんそう属からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ふだんそう属は消費用として輸入されるが、本種は短距離歩行すると考えられることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①びわの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
びわ	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①びわのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
びわ	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		低	低	①バラ科の主要な病原体であるが、びわへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
びわ	重要農作物	全地域	細菌	Erwinia amylovora(火傷病菌)		高	高	①びわの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入され、ベクターとなる訪花昆虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるりんご等のなし亜科植物は日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④多年生のりんご等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は訪花昆虫により伝播するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①りんご等のなし亜科植物に葉、茎の変色、しおれ、枯死等を引き起こし、りんごの果樹園では35%の減収を起こした例もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が報告されている。エジプト、EU、オーストラリア、旧ソビエト、中国、チリ、トルコ、ノルウェー、ハンガリー。ブラジル、旧ユーゴ、ルーマニア、チェコ共和国で検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法(被害果実の収集、廃棄)、化学的防除法(ベイトスプレー)がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	中	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒している。EU、チェコ、シンガポールにおいて輸入禁止対象有害動物に指定されている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	中	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80-100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①びわの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata(チチュウカイミバエ)	ハエ目 ミバエ科	中	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis rosa	ハエ目 ミバエ科	中	中	①びわのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト及びさくら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むと考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト及びさくら属等、日本の主要作物の生果実に重大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はチェコ、シンガポール、マルタでは検疫有害動物に指定されており、EPPO、JUNAC(アンデス地域共同体)、およびOIRSA(中米地域植物防疫機関)において検疫上重要視されている。トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除法が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
びわ	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①びわの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④びわは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ひよこ豆	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①ひよこ豆の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また、貯蔵中にも再寄生することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ひよこ豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ひよこ豆	豆類	全地域	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	高	①ひよこ豆の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ひよこ豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるとうもろこしは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離を飛翔移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ロシア、ポーランド、ウクライナ等で検疫有害動物となっている。また、カナダでも重要検疫有害動物とされている。化学的防除等の防除も確立されておらず、毒餌等を利用した防除しかない。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ひよこ豆	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ひよこ豆の主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ひよこ豆	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ひよこ豆のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ひよこ豆	豆類	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ひよこ豆の主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ひよこ豆	豆類	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	中	中	①ひよこ豆のマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ひよこ豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ひよこ豆	豆類	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	低	低	①ひよこ豆の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ひよこ豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ひのき属	重要農作物	全地域	節足動物	Gnathotrichus sulcatus	コウチュウ目 キクイムシ科	中	高	①ひのき属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ひのき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は最高60個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種の防除法として、総合的病害虫管理(IPM)が利用されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ヒッペアストラム属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①球根を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ヒッペアストラム属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①ヒッペアストラム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③球根の内部を食害することから既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ヒッペアストラム属は球根で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Tomato spotted wilt virus (TSWV)を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ヒッペアストラム属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①ヒッペアストラム属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に微小な卵が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ヒッペアストラム属切り花は消費用として輸入され、成虫は飛翔により、中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ヒッペアストラム属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①ヒッペアストラム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体の内部に産卵することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ヒッペアストラム属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		無視	無視	①ピスタチオのマイナーな病原体であるが、核果に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また貯蔵害虫のため再汚染の可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ピスタチオは消費用として輸入され、本種は短距離移動する能力があり、貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①ピスタチオの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は精選により夾雑物と共に除去できることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目 マルカイガラムシ科	無視	無視	①ピスタチオの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は収穫後の乾燥処理等によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①ピスタチオの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は収穫後の乾燥処理等によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ピスタチオは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ピスタチオは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ピスタチオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害し、また貯蔵害虫のため再汚染の可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ピスタチオは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ヒアシンス属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①ヒアシンス属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種はヒアシンス属の球根に傷を付け液を漏出させるため、球根の選別等の過程で植物とともに除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ヒアシンス属は球根として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
ヒアシンス属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①ヒアシンス属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体内部に産卵することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ヒアシンス属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できるため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
パンジー	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①すみれ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パンジーは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
パンジー	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①すみれ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パンジーは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Puccinia pittieriana		高	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④宿主植物は一年生植物であるが、雑草を宿主とすると考えられているため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風媒伝染することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ばれいしょに感染し、多大な損害を与えることから、直接的影響は極めて高い。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Synchytrium endobioticum（ジャガイモがんしゆ病菌）		高	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種の休眠胞子が感染組織内で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風媒伝染することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ばれいしょの茎の基部、地下茎、塊茎にがん腫が生じることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEPPOのA2リストに記載されているほか、米国は栽培地検査の対象としている等多くの国で検疫対象とされている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Andean potato latent virus		高	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は塊茎に潜在感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は種子伝染、虫媒伝染の他、種ばれいしょにより伝搬することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①ばれいしょに感染すると葉に壊疽斑点を伴うモザイク症状や葉巻症状等を示すが、他のウイルスと重複感染すると激しい病徴が生じるため、直接的影響は高い。 （参考）②本種はニュージーランドが隔離検疫対象としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Arracacha virus B		低	中	①ばれいしょのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ボリビアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③− ④本種は塊茎に潜在感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は種子伝染及び花粉伝染するほか、種ばれいしょにより伝搬することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	低	①感染すると葉にキャリコ症状を示すが、減収につながるとの記述はないことから、直接的影響は低い。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		中	中	①ばれいしょのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫（Neoaliturus tenellus及びN. opacipennis）は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Potato black ringspot virus		高	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は塊茎に潜在感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は種子伝染するほか、種ばれいしょにより伝搬することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	低	①ばれいしょでは壊疽斑点や輪紋症状がでるが、減収するとの報告はないことから、直接的影響は低い。 （参考）②本種はEPPOのA1リストに掲載されている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Potato deforming mosaic virus		極低	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入され、媒介虫（タバココナジラミ）は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種の宿主植物が存在しない時期があることから、日本で生き残る可能性は低い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種はタバココナジラミにより虫媒伝染することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①ばれいしょでは感染することにより減収となることが報告されていることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）本種はEPPOでは輸入禁止対象に指定され、その侵入が警戒されている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Potato virus T		高	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は塊茎に潜在感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は種子伝染するほか、種ばれいしょにより伝搬することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	低	①感染してもほとんど症状が出ないことから、直接的影響は低い。 （参考）②本種はEPPOのA1リストに掲載されているほか、チェコでは禁止対象、ニュージーランドでは隔離対象の病原体として規制されている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Potato yellow dwarf virus		高	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②カナダ、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は塊茎に潜在感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本未発生のヨコバイ科（Aceratogallia sanguinolenta、Agallia quadripunctata）により虫媒伝染するほか、種ばれいしょにより伝搬することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①感染すると矮化症状を示す他、塊茎も形がいびつになったり、ひび割れが生じたりすることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	ウイルス	Potato yellowing virus		高	高	①ばれいしょの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は塊茎に潜在感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種はモモアカアブラムシによる虫媒伝染及び種子伝染することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	中	①数品種では葉の黄化症状が示されるが、多くは病徴を示さず、減収等に関する報告もないことから、直接的影響は中程度。 （参考）②本種はEPPOのA1リストに掲載されている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目 ヨコバイ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Leptinotarsa decemlineata（コロラドハムシ）	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉や塊茎に外部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、イタリア、オーストリア、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌1頭あたり2000個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で土壌中で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①多くの国でばれいしょに経済的に大きな被害を与える害虫であり、ばれいしょの葉・根・塊茎を外部から食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、シンガポール、ソヴィエト、中国、ハンガリーでは輸入禁止対象病害虫に指定されている。その他のいくつかの国においても検疫上の規制が存在している。防除法として、耕種的防除法、生物的防除法、化学的防除法、トランスジェニック作物や抵抗性品種の利用、IPMプログラムが開発されている。日本国内には同科のナスナガスネトビハムシ	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	高	高	①本種はばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種はは日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus leucoloma	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が寄主植物地下部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょの減収及び商品価値の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがアルファルファ及びばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目ゾウムシ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目ゾウムシ科	低	低	①ばれいしょの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタポシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	節足動物	Tuta absoluta	チョウ目 キバガ科	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が植物体に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルー、アルゼンチン等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③個体あたりの産卵数は多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばれいしょを加害すること、トマトは施設で周年栽培されていることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①日本の重要作物であるトマトに寄生し、減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②防除には耕種的、化学的防除法、自然制御法（Natural Control）が利用されている。国内には同科のジャガイモガが分布する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	線虫	Globodera pallida（ジャガイモシロシストセンチュウ）	ティレンクス目 ヘテロデラ科	高	高	①ばれいしょの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が寄主植物の根部に内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成し、土壌中で長期間生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるばれいしょ、トマト等に著しい減収をもたらす等、重要な被害を起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA2リストに掲載。APPPC及びNAPPOも重要視している。アイスランド、中国、オーストラリア、シンガポール等では本種または本種が付着する植物の輸入を禁止しているほか、米国等では生植物及び球根類の輸入の際は本種を対象とした栽培地検査を要求している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ばれいしょ	重要農作物	全地域	線虫	Globodera rostochiensis（ジャガイモシストセンチュウ）	ティレンクス目 ヘテロデラ科	高	高	①ばれいしょの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が寄主植物の根部に内部寄生するため、傷、腐敗その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成し、土壌中で長期間生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるばれいしょ、トマト等に著しい減収をもたらす等、重要な被害を起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA2リストに掲載。APPPC及びNAPPOも重要視している。アイスランド、中国、オーストラリア、シンガポール等では本種または本種が付着する植物の輸入を禁止しているほか、米国等では生植物及び球根類の輸入の際は本種を対象とした栽培地検査を要求している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	線虫	Meloidogyne chitwoodi（コロンビアネコブセンチュウ）	ティレンクス目メロイドギネ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で生存可能であること、越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょの主要な害虫であり、塊茎内部に壊死を引き起こすこと、また表面に根こぶを作ることから、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②シンガポールの要求事項においては本種は輸入禁止対象となっている。防除法としては化学的防除法、耕種的防除法、IPMプログラムが用いられる。日本既発生の種では同属のキタネコブセンチュウ等がばれいしょを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
ばれいしょ	重要農作物	全地域	線虫	Meloidogyne fallax（ニセコロンビアネコブセンチュウ）	ティレンクス目メロイドギネ科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は寄主植物周辺の土壌中にも生息することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょの主要な害虫であり、塊茎表面に根こぶを作り、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。国内ではばれいしょを加害する線虫として、同属のキタネコブセンチュウ、サツマイモコブセンチュウが知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
ばれいしょ	重要農作物	全地域	線虫	Nacobbus aberrans（ニセネコブセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょを加害する主要な線虫であり、寄主植物の根部に寄生し、ゴールを生じさせる。作物によっては90%近くの減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②台湾において本種はハイリスクの検疫有害動物となっている。化学的防除法、耕種的防除法がとられる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
ばれいしょ	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	中	中	①ばれいしょのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はGrapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばれいしょ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	中	中	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 (参考)②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばれいしょ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	中	中	①ばれいしょの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばれいしょは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①ばらのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目マルカイガラムシ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるももなどに寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20–1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根に外部寄生するが微小なため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はGrapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	
ばら属	栽植用植物	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①ばらのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目コナジラミ科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏に35–50個の卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35–50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150–200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200–900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2，3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Grapholita prunivora	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④地上の落ち葉内や幹の裂け目に作った繭の中で終令幼虫で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご生果実を食害し、表皮をコルク状にするなどの重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに記載されており、またCOSAVEでも重要検疫害虫とされている。化学的防除及びフェロモンを用いた生物的防除があり、総合的防除も確立されている。国内では同属のナシヒメシンクイがりんごを食害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目マルカイガラムシ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるももなどに寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は葉や花を食害するが、内部に食入することもあり既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①ばらの害虫としての情報は不確実であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の組織内に産みつけられるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Rhagoletis pomonella	ハエ目ミバエ科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実の内部に食入するため、寄主の外観は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④越冬、休眠するとの記載はないが、もも、さくらんぼ、りんご等寄主範囲が広いため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により1.5km移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごの果実内部を食害する重要な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②COSAVE、EPPO及びOIRSAで重要害虫として取り扱われており、EU、インドネシア、中国で輸入禁止対象害虫となっている。耕種的防除のほか、化学的防除が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	ー定期間、1.5℃以下の低温処理すれば死滅する旨の記述あり。	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	高	高	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫・成虫とも葉や果実に付着するが、顕著な特徴は現れにくいと考えられるため、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目ハダニ科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 (参考)②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根に外部寄生するが微小なため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は苗木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種はGrapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	栽植用植物	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①ばらのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	アジア	真菌及び粘菌	Eutypa lata		低	低	①ばらのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③宿主植物に潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は消費用として輸入され、本種は風により伝播することから、宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	アジア	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目 コナジラミ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35–50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	アジア	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	アジア	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アジア	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①ばら属の害虫としての情報は不確実であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面及び裏面の組織内に産みつけられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
ばら属	切り花	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アジア	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	無視	無視	①本種はばら属のマイナーな害虫であり、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
ばら属	切り花	アジア	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	アフリカ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		低	低	①ばらのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③宿主植物に潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は消費用として輸入され、本種は風により伝播することから、宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アフリカ	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		無視	無視	①バラ科の主要な病原体であるが、ばら属としての情報は不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は潜在感染するため、既存の管理に耐えて生き続ける可能性は高い。 ④ばら属は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	–		–		無視	–				否	
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目コナジラミ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35–50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150–200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①②③輸入検査でのばら属切り花からの発見事例はあり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Megalurothrips sjostedti	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①②③輸入検査でのばら属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげん、えんどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①いんげん、えんどうの葉や花を加害し、減収させるため、直接的影響は高い。 (参考)②本種に対する化学的防除が開発されている。日本にはマメ科作物を加害するアザミウマ科害虫が多数存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Pachnoda interrupta	コウチュウ目 コガネムシ科	低	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が花を外部から食害し、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるばら属、きび等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はカメルーン等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は一晩に24個以上産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種成虫はきびの花部を加害するため、直接的影響は高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	バラへの被害に関する明確な記載がないため、「入り込みの可能性」及び「経済的重要性の評価」には不確実性を伴う	要	
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫の歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	アフリカ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	アフリカ	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	無視	無視	①本種はばら属のマイナーな害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
ばら属	切り花	アフリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	ヨーロッパ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		低	低	①ばらのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③宿主植物に潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属は消費用として輸入され、本種は風により伝播することから、宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるももなどに寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	ヨーロッパ	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	無視	無視	①本種はばら属のマイナーな害虫であり、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ばら属	切り花	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	中・南アメリカ	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		無視	無視	①バラ科の主要な病原体であるが、ばら属としての情報は不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は潜在感染するため、既存の管理に耐えて生き続ける可能性は高い。 ④ばら属は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ばら属	切り花	中・南アメリカ	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目コナジラミ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35-50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	中・南アメリカ	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫の歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるももなどに寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	中・南アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①ばらの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70−120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら属	切り花	中・南アメリカ	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	無視	無視	①本種はばら属のマイナーな害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら属	切り花	中・南アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①ばら属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		低	低	①バラ科の主要な病原体であるが、ばら属への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目 コナジラミ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏に卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35–50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200−900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2，3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、卵を産みつけられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Grapholita prunivora	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④地上の落ち葉内や幹の裂け目に作った繭の中で終令幼虫で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご生果実を食害し、表皮をコルク状にするなどの重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに記載されており、またCOSAVEでも重要検疫害虫とされている。化学的防除及びフェロモンを用いた生物的防除があり、総合的防除も確立されている。国内では同属のナシヒメシンクイがりんごを食害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Pachnoda interrupta	コウチュウ目 コガネムシ科	低	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属、きび等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はカメルーン等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は一晩に24個以上産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種成虫はきびの花部を加害するため、直接的影響は高い。 (参考)②耕種的、化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目 マルカイガラムシ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるももなどに寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	低	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①ばら属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis pomonella	ハエ目 ミバエ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④越冬、休眠するとの記載はないが、もも、さくらんぼ、りんご等寄主範囲が広いため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により1.5km移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごの果実内部を食害する重要な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②COSAVE、EPPO及びOIRSAで重要害虫として取り扱われており、EU、インドネシア、中国で輸入禁止対象害虫となっている。耕種的防除のほか、化学的防除が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	一定期間、1.5℃以下の低温処理すれば死滅する旨の記述あり。	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①ばら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目 ハダニ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 (参考)②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばら	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目 ロンギドルス科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は Grapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	
ばら	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①ばら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばらは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
バナナ花房	野菜	アジア	ウイルス	Banana bract mosaic virus		無視	無視	①バナナの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中、貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種はバナナの花序部分に病変を引き起こすが、潜在感染の可能性もあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④バナナ花序は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
バナナ花房	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera correcta	ハエ目ミバエ科	中	中	①②③輸入検査でバナナ花序からの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④バナナ花序は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要作物であるメロンの生果実に被害を与えるため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的・耕種的防除法が報告されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種がバナナ花序に寄生し、食害する旨の記載はない。	要	
バナナ花房	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	低	低	①②③輸入検査でバナナ花序からの発見事例があるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④バナナ花序は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1-3か月（冷涼な条件下では12か月）生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種がバナナ花序に寄生し、食害する旨の記載はない。	要	
バナナ花房	野菜	アジア	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①バナナの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④バナナ花序は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 （参考）②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	雑品	全地域	真菌及び粘菌	Rosellinia pepo		無視	無視	①バナナのマイナーな病原体であるが、葉に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ばしょう属	雑品	全地域	ウイルス	Banana bract mosaic virus		無視	無視	①バナナの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中、貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種はバナナの花序部分に病変を引き起こすが、潜在感染の可能性もあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目コナジラミ科	中	中	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35-50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Chaetanaphothrips signipennis	アザミウマ目アザミウマ科	低	高	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体外部に寄生するが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入されるが、本種は長距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部(沖縄県等)で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②オーストラリア、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種はばしょう属等庭園樹の葉、実を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。	日本の一部（沖縄県等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①本種はバナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、成虫は飛翔により、中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Oryctes monoceros	コウチュウ目コガネムシ科	極低	低	①バナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の成虫は植物体を外部から食害し、収穫・選果の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ばしょう属は消費用として輸入されるが、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	中	①本種の寄主であるバナナ、さとうきびは日本の一部（九州及び沖縄等）で栽培されているため。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①ココやし等作物の葉、茎などを加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②シンガポールは本種の付着する植物の輸入を禁止している。耕種的及び化学的防除法が知られる。	日本の一部 （九州及び沖縄等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	やし類以外の寄主に対する被害実態に関する情報がないため、経済的重要性の評価には不確実性を伴う。	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Pseudococcus elisae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）のみで栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②ブラジル、コロンビア、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）では年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	中	①日本の一部（沖縄県等）で栽培されているバナナに被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は中程度。 （参考）②バナナを加害するコナカイガラムシとして、日本にはミカンコナカイガラムシ、タイワンコナカイガラムシが分布する。	日本の一部（沖縄県等）（理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①ばしょう属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 （参考）②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	部分的に、評価を行うための情報が不足している。本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けらるが、収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	中	中	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入されるが、成虫は飛翔により長距離移動できるため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばしょう属	雑品	全地域	線虫	Radopholus similis(バナナネモグリセンチュウ)	ティレンクス目プラティレンクス科	無視	無視	①本種はバナナの主要な害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	栽培地検査対象の病害虫
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①バナナの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価			評価					
							評価	理由	評価	理由		理由			理由				
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①本種はバナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50–100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ばしょう属	生果実	アジア	ウイルス	Banana bract mosaic virus		無視	無視	①バナナの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Bactrocera correcta	ハエ目ミバエ科	中	中	①バナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要作物であるメロンの生果実に被害を与えるため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的・耕種的防除法が報告されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Ceratitis capitata(チチュウカイミバエ)	ハエ目ミバエ科	低	低	①バナナの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Chaetanaphothrips signipennis	アザミウマ目アザミウマ科	低	高	①本種はバナナの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実外部に寄生するが微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種は長距離の飛翔能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部(沖縄県等)で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②オーストラリア、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種はばしょう属等庭園樹の葉、実を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。	日本の一部（沖縄県等）（理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①本種はバナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実に微小な卵が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、成虫は飛翔により、中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Oryctes monoceros	コウチュウ目コガネムシ科	極低	中	①本種はバナナのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から食害し、収穫・選果の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	中	①本種の寄主であるバナナ、さとうきびは日本の一部(九州及び沖縄等)で栽培されているため。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部(沖縄県等)では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①ココやし等作物の葉、茎などを加害するため、直接的影響は高い。 (参考)②シンガポールは本種の付着する植物の輸入を禁止している。耕種的及び化学的防除法が知られる。	日本の一部 (九州及び沖縄等) (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	やし類以外の寄主に対する被害実態に関する情報がないため、経済的重要性の評価には不確実性を伴う。	要	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ぱらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ぱら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①バナナの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 （参考）②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	部分的に、評価を行うための情報が不足している。本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	中	中	①本種はバナナの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	アジア	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex(ミカンコミバエ種群)	ハエ目 ミバエ科	高	高	①バナナの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ペイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	中・南アメリカでの発生はガイアナ、スリナム、フランス領ギアナのみ報告されている。	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	高	高	①バナナの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	中・南アメリカでの発生はガイアナ、スリナム、フランス領ギアナのみ報告されている。	要	禁止対象の検疫有害動植物
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata(チチュウカイミバエ)	ハエ目ミバエ科	低	低	①バナナの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Chaetanaphothrips signipennis	アザミウマ目アザミウマ科	低	高	①本種はバナナの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実外部に寄生するが微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種は長距離の飛翔能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部(沖縄県等)で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②オーストラリア、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部(沖縄県等)では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種はばしょう属等庭園樹の葉、実を加害するため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。	日本の一部 (沖縄県等) (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	なし	要	
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus elisae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）のみで栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②ブラジル、コロンビア、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）では年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	中	①日本の一部（沖縄県等）で栽培されているバナナに被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は中程度。 （参考）②バナナを加害するコナカイガラムシとして、日本にはミカンコナカイガラムシ、タイワンコナカイガラムシが分布する。	日本の一部（沖縄県等）（理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①バナナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①本種はバナナの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ばしょう属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①バナナの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ばしょう属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
はしどい属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①はしどい属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はしどい属切り花は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はしどい属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①はしどい属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は卵塊として繭上に産卵され、幼虫は毛に覆われ、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はしどい属切り花は消費用として輸入されるが、本種若齢幼虫は風にのって浮遊することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100〜200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	低	低	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、はくさいへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Delia radicum	ハエ目ハナバエ科	中	中	①はくさいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は植物内部を加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は越冬すること、多年生植物を寄主植物として利用することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①キャベツ等、日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法、化学的防除法が有効である。日本では同属のダイコンバエ、ヒメダイコンバエが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、はくさいへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、はくさいについての情報が不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、はくさい等への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①はくさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
はくさい	重要農作物	全地域	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	高	高	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
はくさい	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
はくさい	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④はくさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	野菜	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に微小な卵が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは消費用として輸入され、本種成虫が中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されてれおり、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	野菜	アジア	節足動物	Delia radicum	ハエ目ハナバエ科	中	中	①はくさいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は寄主植物内部を食害することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④はくさいは消費用として輸入され、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は越冬すること、多年生植物を寄主植物として利用することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①キャベツ等、日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法、化学的防除法が有効である。日本では同属のダイコンバエ、ヒメダイコンバエが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
はくさい	野菜	アジア	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
はくさい	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①はくさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④はくさいは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
はくさい	野菜	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④はくさいは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
はくさい	野菜	アジア	線虫	Heterodera schachtii(テンサイシストセンチュウ)	ティレンクス目 ヘテロデラ科	無視	無視	①本種はあぶらな属の主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	栽培地検査対象の病害虫
パインアップル	生果実	アジア	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①パイナップルの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップル生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
パインアップル	生果実	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①パイナップルのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップル生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
パインアップル	生果実	アジア	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①パイナップルの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップル生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
培養資材(ココヤシ、かし属を含む。)	雑品	全地域	節足動物	Monochamus scutellatus	コウチュウ目 カミキリムシ科	極低	低	①②③輸入検査でのピートモスからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④培養資材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②カナダに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②本種の防除法としては化学的防除法及び耕種的防除法があるが、環境への影響により現在は耕種的防除法が利用されている。日本ではまつ属の害虫として同属のマツノマダラカミキリがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
パイナップル	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①パイナップルの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップルは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
パイナップル	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	中	中	①パイナップルのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップルは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
パイナップル	重要農作物	全地域	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目 マルカイガラムシ科	高	高	①パイナップルの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップルは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
パイナップル	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①パイナップルの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④パイナップルは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
ねぎ属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Acrolepiopsis assectella	チョウ目アトヒゲコガ科	高	高	①ねぎ属植物の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性についての記述はない。 ③幼虫が球根内部に寄生するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ねぎ属は球根で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎ、にんにくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布しているため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物上に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期に気温が低くなると、成虫の状態で翌春まで休眠するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①我が国の重要な作物であるたまねぎ、にんにく等の葉、茎、根等を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、抵抗性品種が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ねぎ属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①球根を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ねぎ属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①ねぎ属植物のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ねぎ属は球根として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
ねぎ属	栽植用球根	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①ねぎ属植物の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ねぎ属植物は球根として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ねぎ属	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ねぎ属のうちたまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは消費用として輸入されるが、本種は長距離移動できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ねぎ属	野菜	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①ねぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ねぎ属は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
ねぎ属	野菜	アジア	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①ねぎ属のうちたまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ねぎ属野菜は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Acrolepiopsis assectella	チョウ目アトヒゲコガ科	中	中	①ねぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性についての記述はない。 ③幼虫が葉鞘内部に寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎ、にんにくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布しているため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物上に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期に気温が低くなると、成虫の状態で翌春まで休眠するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①我が国の重要な作物であるたまねぎ、にんにく等の葉、茎、根等を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、抵抗性品種が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	中	中	①ねぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉鞘、茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①ねぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	中	中	①ねぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①ねぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
にんじん	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
にんじん	重要農作物	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
にんじん	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
にんじん	重要農作物	全地域	節足動物	Psila rosae	ハエ目 ハネオレバエ科	高	高	①にんじんの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が根に食入するため、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるにんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、グルジア、ニュージーランド、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌1頭あたり、5-167個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④蛹もしくは幼虫により越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の重要作物であるにんじんに重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種が発生していないオーストラリア、南アフリカ、南アメリカ地域等は本種の侵入を防止するための検疫措置を講じている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
にんじん	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
にんじん	重要農作物	全地域	線虫	Meloidogyne chitwoodi（コロンビアネコブセンチュウ）	ティレンクス目 メロイドギネ科	高	高	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で生存可能であること、越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょの主要な害虫であり、塊茎内部に壊死を引き起こすこと、また表面に根こぶを作ることから、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②シンガポールの要求事項においては本種は輸入禁止対象となっている。防除法としては化学的防除法、耕種的防除法、IPMプログラムが用いられる。日本既発生の種では同属のキタネコブセンチュウ等がばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
にんじん	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis(バナナネモグリセンチュウ)	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
にんじん	野菜	アジア	節足動物	Psila rosae	ハエ目ハネオレバエ科	高	高	①温帯地域におけるにんじんの最も有害な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が根に食入するため、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは消費用として輸入されるが、本種の移動は成虫の長距離飛翔であることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるにんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、グルジア、ニュージーランド、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌1頭あたり、5-167個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④蛹もしくは幼虫により越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の重要作物であるにんじんに重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種が発生していないオーストラリア、南アフリカ、南アメリカ地域等は本種の侵入を防止するための検疫措置を講じている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
にんじん	野菜	アジア	線虫	Radopholus similis(バナナネモグリセンチュウ)	ティレンクス目プラティレンクス科	極低	極低	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の根部に内部寄生するため、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④にんじんは消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
にんじん	野菜	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①本種はにんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別・土壌除去に過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④にんじんは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ぱらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ぱら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
にんじん	野菜	北アメリカ	節足動物	Psila rosae	ハエ目ハネオレバエ科	高	高	①本種はにんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④にんじんは消費用として輸入され、本種の移動は成虫の長距離飛翔であることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるにんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、グルジア、ニュージーランド、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌1頭あたり、5-167個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④蛹もしくは幼虫により越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の重要作物であるにんじんに重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種が発生していないオーストラリア、南アフリカ、南アメリカ地域等は本種の侵入を防止するための検疫措置を講じている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
にんじん	野菜	北アメリカ	線虫	Meloidogyne chitwoodi（コロンビアネコブセンチュウ）	ティレンクス目メロイドギネ科	極低	極低	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の根部に内部寄生するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④にんじんは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で生存可能であること、越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの主要な害虫であり、塊茎内部に壊死を引き起こすこと、また表面に根こぶを作ることから、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②シンガポールの要求事項においては本種は輸入禁止対象となっている。防除法としては化学的防除法、耕種的防除法、IPMプログラムが用いられる。日本既発生の種では同属のキタネコブセンチュウ等がばれいしょを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
にんじん	野菜	北アメリカ	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	極低	極低	①にんじんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の根部に内部寄生するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④にんじんは消費用として輸入され、本種の移動能力は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
南洋材	木材	アジア	節足動物	Euwallacea destruens	コウチュウ目キクイムシ科	低	低	①ショウレア属及びポメチア属植物は野生寄主であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④南洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物の日本における分布が不明。 ②中国及びオーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多くの卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本国内に寄主植物の分布範囲が不明のため、本種が日本で生き残る可能性は不明。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	低	①本種は国内での分布が明らかでないショウレア属、ポメチア属植物の立木に被害を及ぼすとされているため、直接的影響は低い。 （参考）②米国、ニュージーランドが本種を含むキクイムシを検疫対象としている。	特定不能（理由：本種の寄主植物の国内での分布が明らかでない。）	・定着の可能性に関わる寄主植物の国内分布範囲が不明	要	
南洋材	木材	アジア	節足動物	Sinoxylon conigerum	コウチュウ目ナガシンクイムシ科	中	中	①ショウレア属植物のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④南洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるたけ類は全国に分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、イタリア、ブラジル、スペインに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を生み付けると考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠越冬する能力を有するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①主に枯死したあるいは樹勢の衰えたたけ類を加害することから、直接的影響は中程度。 （参考）②本種は木材梱包材の害虫として知られる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	日本に主に存在するたけ(Phyllostachys属)を寄主とするかは不確実性を伴う。	要	
南洋材	木材	アジア	節足動物	Xyleborus emarginatus	コウチュウ目キクイムシ科	低	低	①ショウレア属、ディプテロカーパス属植物は野生寄主であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④南洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①くすのきは街路樹として、日本に広く植栽されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国及びオーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多くの卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、くすのきの幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種はくすのきの衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②米国、ニュージーランドが本種を含むキクイムシを検疫対象としている。	北海道・東北を除く日本全域（理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
南洋材	木材	アジア	節足動物	Xyleborus fallax	コウチュウ目キクイムシ科	極低	低	①ディプテロカーパス属、ショウレア属植物は野生寄主であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④南洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物の日本における分布が不明。 ②インド、ベトナム、パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多くの卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本国内に寄主植物の分布範囲が不明のため、本種が日本で生き残る可能性は不明。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極低	①本種は国内での分布が明らかでないショウレア属等の伐採樹及び衰弱木に被害を及ぼすとされているため、直接的影響は極めて低い。	特定不能（理由：本種の寄主植物の国内での分布が明らかでない。）	・定着の可能性に関わる寄主植物の国内分布範囲が不明	要	
南洋材	木材	アジア	節足動物	Xyleborus pseudopilifer	コウチュウ目キクイムシ科	極低	低	①ディプテロカーパス属、ショウレア属、ドリュパラノプス属植物は野生寄主であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④南洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物の日本における分布が不明。 ②ベトナムに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多くの卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本国内に寄主植物の分布範囲が不明のため、本種が日本で生き残る可能性は不明。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は長距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極低	①本種は国内での分布が明らかでないショウレア属等の伐採樹及び衰弱木に被害を及ぼすとされているため、直接的影響は極めて低い。	特定不能（理由：本種の寄主植物の国内での分布が明らかでない。）	・定着の可能性に関わる寄主植物の国内分布範囲が不明	要	
南洋材	木材	アジア	節足動物	Xylosandrus morigerus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①ドリョパラノプス属植物のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④南洋材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主であるちゃは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③樹木内の孔道に数日にわたって複数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるちゃを加害することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雌成虫は中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ちゃの苗では加害されると枯死することが示唆されており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ニュージーランドでは検疫害虫となっている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	栽植用植物	ヨーロッパ	ウイルス	Carnation ringspot virus		高	高	①カーネーションの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属は苗木・穂木で輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、米国、ブラジル、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種の宿主植物であるカーネーションは多年生植物であり、且つ、本種は土壌中に残ることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、昆虫、土壌中の糸状菌等では伝染しないが、感染植物との接触、または汚染された土壌から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①カーネーション等の日本の重要作物に、葉の輪紋症状や花の奇形を生じさせる等、重大な被害を生じさせる可能性があり、また、他のウイルスとの複合感染により収量を減少させることから、直接的影響は高い。 （参考）②チリ、中国、ハンガリー、韓国、スリランカ、米国及びイギリスにおいて検疫有害動植物に指定されている。米国では本種発生国から輸入されるカーネーションは原則として隔離検査対象となっている。ELISA法の導入により、近年は経済的被害が減少している。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉に産み付けらるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150–200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なでしこ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉上に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の組織内に産みつけられるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属は苗木・穂木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なでしこ属	切り花	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に微小な卵が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属切り花は消費用として輸入され、本種成虫が中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	切り花	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属切り花は消費用として輸入され、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20–1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	切り花	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④なでしこ属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
なでしこ属	切り花	アジア	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	無視	無視	①本種はカーネーションの主要な害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なでしこ属	切り花	中・南アメリカ	ウイルス	Carnation ringspot virus		無視	無視	①カーネーションの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属切り花は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
なでしこ属	切り花	中・南アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けらるが、収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なでしこ属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なでしこ属	切り花	中・南アメリカ	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	無視	無視	①本種はカーネーションの主要な害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50−100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Anthonomus eugenii	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるピーマン、トマト、なすの果実を加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。化学的防除、耕種的防除が行われている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目 ミバエ科	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1-3か月（冷涼な条件下では12か月）生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera passiflorae	ハエ目 ミバエ科	極低	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるなすは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フィジー等に分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はなす、かんきつ属、マンゴウ等など多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるなす、かんきつ属の果実に寄生し、落果、商品価値の低下を招く。また、太平洋諸国はもちろんのことアジア、オーストラリアでも、本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目 ミバエ科	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①ナス科のマイナーな害虫であるが、なすへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目 ヨコバイ科	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Leptinotarsa decemlineata（コロラドハムシ）	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、イタリア、オーストリア、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌1頭あたり2000個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で土壌中で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①多くの国でばれいしょに経済的に大きな被害を与える害虫であり、ばれいしょの葉・根・塊茎を外部から食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、シンガポール、ソヴィエト、中国、ハンガリーでは輸入禁止対象病害虫に指定されている。その他のいくつかの国においても検疫上の規制が存在している。防除法として、耕種的防除法、生物的防除法、化学的防除法、トランスジェニック作物や抵抗性品種の利用、IPMプログラムが開発されている。日本国内には同科のナスナガスネトビハムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Neoceratitis cyanescens	ハエ目ミバエ科	低	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、ピーマン等、日本の主要作物に重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はEUのA1リストに掲載されている。化学的防除が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①なすのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
なす	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なす	重要農作物	全地域	線虫	Globodera pallida（ジャガイモシロシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	高	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が寄主植物の根部に内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成し、土壌中で長期間生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるばれいしょ、トマト等に著しい減収をもたらす等、重要な被害を起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA2リストに掲載。APPPC及びNAPPOも重要視している。アイスランド、中国、オーストラリア、シンガポール等では本種または本種が付着する植物の輸入を禁止しているほか、米国等では生植物及び球根類の輸入の際は本種を対象とした栽培地検査を要求している。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なす	重要農作物	全地域	線虫	Globodera rostochiensis（ジャガイモシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	高	高	①なすの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が寄主植物の根部に内部寄生するため、傷、腐敗その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なすは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成し、土壌中で長期間生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるばれいしょ、トマト等に著しい減収をもたらす等、重要な被害を起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA2リストに掲載。APPPC及びNAPPOも重要視している。アイスランド、中国、オーストラリア、シンガポール等では本種または本種が付着する植物の輸入を禁止しているほか、米国等では生植物及び球根類の輸入の際は本種を対象とした栽培地検査を要求している。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50−100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なし属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①西洋なしのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Gymnosporangium clavipes		中	中	①西洋なしのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は絶対寄生菌であるが、冬期はびゃくしんを宿主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんご等の日本の重要作物に、枝や果実の奇形を起こすことで重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。チリ、チェコにおいて検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		高	高	①西洋なしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	細菌	Apple rubbery wood phytoplasma		中	中	①西洋なしのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されるが、伝搬方式が接ぎ木伝染のみであるため、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②伝搬方式が接ぎ木伝搬のみであるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①日本の主要な作物であるりんごに、枝の垂れ下がりや主幹の伸長停止等の生育異常を引き起こし、果実への被害としては、りんごで10–30%、なしで15–50%程度減収するとの報告があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②NAPPOやCOSAVAではquarantine pestと位置づけている。健全樹・苗の使用、熱処理による無病苗の作出がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Phytoplasma mali		中	中	①西洋なしのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなるリンゴキジラミが日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スイス、トルコなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のりんご等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のリンゴキジラミにより虫媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるりんごに、葉や果実に変色、変形を引き起こし、りんごに対し、大きさ、重量が半分以上減少したとの報告がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②抗生物質、耐性品種の利用が報告されている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Phytoplasma pyri		高	高	①西洋なしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなるナシキジラミが日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主である西洋なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スイスなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生の西洋なし等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のナシキジラミにより虫媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物である西洋なしに、枝、葉、果実などの奇形を引き起こす。直接的影響は極めて高い。 (参考)②ウイルスフリー株、ベクターなどの防除、耐性品種の利用が報告されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	細菌	Erwinia amylovora(火傷病菌)		高	高	①西洋なしの重要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなる訪花昆虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるりんご等のなし亜科植物は日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のりんご等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は訪花昆虫により伝播するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①りんご等のなし亜科植物に葉、茎の変色、しおれ、枯死等を引き起こし、りんごの果樹園では35%の減収を起こした例もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が報告されている。エジプト、EU、オーストラリア、旧ソビエト、中国、チリ、トルコ、ノルウェー、ハンガリー。ブラジル、旧ユーゴ、ルーマニア、チェコ共和国で検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なし属	重要農作物	全地域	細菌	Xylella fastidiosa		高	高	①なし属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなる昆虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のオオヨコバイやホソアワフキにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう、ももなどの日本の主要農作物に収量減、果実の小型化等の重大な被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②トルコでは栽培地検査を要求している。健全樹の使用が有効。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	ウイルス	Carnation ringspot virus		高	高	①西洋なしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、米国、ブラジル、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種の宿主植物であるカーネーションは多年生植物であり、且つ、本種は土壌中に残ることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、昆虫、土壌中の糸状菌等では伝染しないが、感染植物との接触、または汚染された土壌から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①カーネーション等の日本の重要作物に、葉の輪紋症状や花の奇形を生じさせる等、重大な被害を生じさせる可能性があり、また、他のウイルスとの複合感染により収量を減少させることから、直接的影響は高い。 (参考)②チリ、中国、ハンガリー、韓国、スリランカ、米国及びイギリスにおいて検疫有害動植物に指定されている。米国では本種発生国から輸入されるカーネーションは原則として隔離検査対象となっている。ELISA法の導入により、近年は経済的被害が減少している。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目コナジラミ科	中	中	①なし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏に35-50個の卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35-50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Anarsia lineatella	チョウ目キバガ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、さくら属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、中国、米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はさくら属の枝の樹皮内で幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な樹木である、さくら属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①なし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	低	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記載はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒している。EU、チェコ、シンガポールにおいて輸入禁止対象有害動物に指定されている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80-100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Aphis pomi	カメムシ目アブラムシ科	高	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小昆虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、オーストリア、フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行うため、繁殖能力は極めて高い。 ④卵で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①日本の主要な作物であるりんごに対して葉、生長点、花、果実を加害し、煤病、変形、変色等により果実外観の悪化、収量の低下を引き起こすため、直接的影響は高い。 （参考）②エジプトで検疫有害動植物に指定されている。化学的、生物的防除法、抵抗性品種、IPMが存在。日本にはAphis属が180種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis rosa	ハエ目ミバエ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト及びさくら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むと考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト及びさくら属等、日本の主要作物の生果実に重大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はチェコ、シンガポール、マルタでは検疫有害動物に指定されており、EPPO、JUNAC（アンデス地域共同体）、およびOIRSA（中米地域植物防疫機関）において検疫上重要視されている。トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除法が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200-900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2，3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目ゾウムシ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Cydia pomonella(コドリンガ)	チョウ目ハマキガ科	高	高	①西洋なしの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実内部で生育するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③250-300個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は最大2年間休眠する能力を有することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの主要な害虫であり、収穫量を減収させたり、果実を落下させることもあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、中国は本種を輸入禁止対象害虫にしている。化学的、耕種的、フェロモントラップ等がある。日本ではナシヒメシンクイ等の多くのハマキガ科は本種と同部位を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①なし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Grapholita prunivora	チョウ目ハマキガ科	中	中	①なし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④地上の落ち葉内や幹の裂け目に作った繭の中で終令幼虫で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご生果実を食害し、表皮をコルク状にするなどの重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに記載されており、またCOSAVEでも重要検疫害虫とされている。化学的防除及びフェロモンを用いた生物的防除があり、総合的防除も確立されている。国内では同属のナシヒメシンクイがりんごを食害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①なし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科ではヨーロッパシロカタビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	中	高	①なし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①西洋なしの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
なし属	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
なし属	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis(バナナネモグリセンチュウ)	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①なし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
なし属	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	中	中	①西洋なしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は Grapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	
なし属	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①西洋なしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④なし属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トルコギキョウ	重要農作物	全地域	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目メイガ科	高	高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が地際部から茎内に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トルコギキョウは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌（Bacillus thuringiensis）や食虫性センチュウ（Steinernema sp.）を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ドラセナ属	栽植用植物	アジア	節足動物	Chaetanaphothrips signipennis	アザミウマ目アザミウマ科	極低	中	①ドラセナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の組織内に産みつけられるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ドラセナ属は苗木で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部(沖縄県等)で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②オーストラリア、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	高	①本種はばしょう属等庭園樹の葉、実を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。	日本の一部 （沖縄県等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ドラセナ属	栽植用植物	アジア	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①ドラセナ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ドラセナ属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ドラセナ属	栽植用植物	アジア	節足動物	Oryctes monoceros	コウチュウ目コガネムシ科	極低	中	①ドラセナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫・成虫はともに植物体に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ドラセナ属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①本種の寄主であるバナナ、さとうきびは日本の一部（九州及び沖縄等）で栽培されているため。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①ココやし等作物の葉、茎などを加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②シンガポールは本種の付着する植物の輸入を禁止している。耕種的及び化学的防除法が知られる。	日本の一部（九州及び沖縄等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	やし類以外の寄主に対する被害実態に関する情報がないため、経済的重要性の評価には不確実性を伴う。	要	
ドラセナ属	栽植用植物	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①ドラセナのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ドラセナ属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ドラセナ属	切り花	アジア	節足動物	Chaetanaphothrips signipennis	アザミウマ目アザミウマ科	極低	中	①ドラセナ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体外部に寄生するが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ドラセナ属切り花は消費用として輸入されるが、本種は長距離の飛翔能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部(沖縄県等)で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②オーストラリア、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	高	①本種はばしょう属等庭園樹の葉、実を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。	日本の一部（沖縄県等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ドラセナ属	切り花	アジア	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①ドラセナ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ドラセナ属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ドラセナ属	切り花	アジア	節足動物	Oryctes monoceros	コウチュウ目コガネムシ科	極低	中	①ドラセナ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫・成虫はともに植物体に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ドラセナ属切り花は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	中	①本種の寄主であるバナナ、さとうきびは日本の一部（九州及び沖縄等）で栽培されているため。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①ココやし等作物の葉、茎などを加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②シンガポールは本種の付着する植物の輸入を禁止している。耕種的及び化学的防除法が知られる。	日本の一部（九州及び沖縄等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	やし類以外の寄主に対する被害実態に関する情報がないため、経済的重要性の評価には不確実性を伴う。	要	
ドラセナ属	切り花	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①ドラセナ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ドラセナ属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ドライフラワー	雑品	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	低	低	①②③輸入検査でのドライフラワーからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ドライフラワーは消費用として輸入され、本種は、中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera carambolae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	極低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マレーシアに分布するため、日本の環境への適応性は中程度。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は高い。 (参考)②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。耕種的防除法(袋掛け)、化学的防除法としてベイトスプレーがあり、早期発見のためにトラップが利用されている。日本ではかんきつを加害するミバエ科の昆虫として、ミカンバエ(同属)が報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		中	中	①トマトの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫(Neoaliturus tenellus及びN. opacipennis)は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	ウイルス	Potato yellow dwarf virus		中	中	①トマトのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入され、本種の媒介虫は日本に分布しないことから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるばれいしょは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②カナダ、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は塊茎に潜在感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本未発生のヨコバイ科(Aceratogallia sanguinolenta、Agallia quadripunctata)により虫媒伝染するほか、種ばれいしょにより伝搬することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①感染すると矮化症状を示す他、塊茎も形がいびつになったり、ひび割れが生じたりすることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに掲載されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Anthonomus eugenii	コウチュウ目ゾウムシ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるピーマン、トマト、なすの果実を加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。化学的防除、耕種的防除が行われている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目ミバエ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1-3か月（冷涼な条件下では12か月）生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera xanthodes	ハエ目ミバエ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマト、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クック諸島、バヌアツに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はトマト、かんきつなどの果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①日本の重要作物であるトマトの果実を食害するため、直接的影響は高い。 （参考）②トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis rosa	ハエ目ミバエ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト及びさくら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むと考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト及びさくら属等、日本の主要作物の生果実に重大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はチェコ、シンガポール、マルタでは検疫有害動物に指定されており、EPPO、JUNAC（アンデス地域共同体）、およびOIRSA（中米地域植物防疫機関）において検疫上重要視されている。トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除法が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Dacus ciliatus	ハエ目 ミバエ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか、かぼちゃ等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はウリ科、トマト等、多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、すいか、かぼちゃ等のウリ科の果実を食害し、甚大な被害（減収）を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生果の採集、ベイトトラップ、薬剤散布等が知られている。チェコでは輸入禁止対象害虫に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目 ヨコバイ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメヒリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14–24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目 ヤガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面等に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はオーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫の総産卵数は1,500 – 1,800個に達するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠性を有することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種に対しては化学的防除法が知られる。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450−2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Leptinotarsa decemlineata(コロラドハムシ)	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルバニア、イタリア、オーストリア、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌1頭あたり2000個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で土壌中で越冬するため、本	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①多くの国でばれいしょに経済的に大きな被害を与える害虫であり、ばれいしょの葉・根・塊茎を外部から食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、シンガポール、ソヴィエト、中国、ハンガリーでは輸入禁止対象病害虫に指定されている。その他のいくつかの国においても検疫上の規制が存在している。防除法	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Neoceratitis cyanescens	ハエ目ミバエ科	中	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等、日本の主要作物に重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はEUのA1リストに掲載されている。化学的防除が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	節足動物	Tuta absoluta	チョウ目 キバガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が植物体に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルー、アルゼンチン等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③個体あたりの産卵数は多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばれいしょを加害すること、トマトは施設で周年栽培されていることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①日本の重要作物であるトマトに寄生し、減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②防除には耕種的、化学的防除法、自然制御法（Natural Control）が利用されている。国内には同科のジャガイモガが分布する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	重要農作物	全地域	線虫	Globodera pallida（ジャガイモシロシストセンチュウ）	ティレンクス目 ヘテロデラ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が寄主植物の根部に内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成し、土壌中で長期間生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるばれいしょ、トマト等に著しい減収をもたらす等、重要な被害を起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA2リストに掲載。APPPC及びNAPPOも重要視している。アイスランド、中国、オーストラリア、シンガポール等では本種または本種が付着する植物の輸入を禁止しているほか、米国等では生植物及び球根類の輸入の際は本種を対象とした栽培地検査を要求している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	重要農作物	全地域	線虫	Globodera rostochiensis（ジャガイモシストセンチュウ）	ティレンクス目 ヘテロデラ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が寄主植物の根部に内部寄生するため、傷、腐敗その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成し、土壌中で長期間生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるばれいしょ、トマト等に著しい減収をもたらす等、重要な被害を起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA2リストに掲載。APPPC及びNAPPOも重要視している。アイスランド、中国、オーストラリア、シンガポール等では本種または本種が付着する植物の輸入を禁止しているほか、米国等では生植物及び球根類の輸入の際は本種を対象とした栽培地検査を要求している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	重要農作物	全地域	線虫	Meloidogyne fallax（ニセコロンビアネコブセンチュウ）	ティレンクス目 メロイドギネ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は寄主植物周辺の土壌中にも生息することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの主要な害虫であり、塊茎表面に根こぶを作り、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。国内ではばれいしょを加害する線虫として、同属のキタネコブセンチュウ、サツマイモコブセンチュウが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	重要農作物	全地域	線虫	Nacobbus aberrans（ニセネコブセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょを加害する主要な線虫であり、寄主植物の根部に寄生し、ゴールを生じさせる。作物によっては90%近くの減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②台湾において本種はハイリスクの検疫有害動物となっている。化学的防除法、耕種的防除法がとられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
トマト	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
トマト	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はGrapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	
トマト	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマトは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	栽植用種子	ヨーロッパ	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①トマトの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④種子伝搬しないため、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
トマト	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
トマト	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
トマト	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	無視	無視	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera carambolae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	極低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マレーシアに分布するため、日本の環境への適応性は中程度。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は高い。 (参考)②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。耕種的防除法(袋掛け)、化学的防除法としてベイトスプレーがあり、早期発見のためにトラップが利用されている。日本ではかんきつを加害するミバエ科の昆虫として、ミカンバエ(同属)が報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50−100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	野菜	アジア	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①トマトの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以後の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
トマト	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera cucurbitae (ウリミバエ)	ハエ目ミバエ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1-3か月（冷涼な条件下では12か月）生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実に付着する可能性のある成虫・幼虫は選果等の過程で脱落する可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	アジア	節足動物	Dacus ciliatus	ハエ目ミバエ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか、かぼちゃ等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はウリ科、トマト等、多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、すいか、かぼちゃ等のウリ科の果実を食害し、甚大な被害（減収）を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生果の採集、ベイトトラップ、薬剤散布等が知られている。チェコでは輸入禁止対象害虫に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	アジア	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
トマト	野菜	アジア	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実に付着する可能性のある幼虫は果実内部に食入する可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	野菜	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体に卵塊が産みつけられるが、部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	アジア	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマトは消費用として輸入されるが、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①トマトの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実に病徴を示すが、潜在感染する可能性もあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以後の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Anthonomus eugenii	コウチュウ目ゾウムシ科	極低	極低	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産みつけられ、幼虫は果実内部に食入することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は主に歩行により移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるピーマン、トマト、なすの果実を加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。化学的防除、耕種的防除が行われている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目ミバエ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1-3か月（冷涼な条件下では12か月）生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目ハムシ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は中距離飛翔することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種は風により長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus (TSWV)を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は風により長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①②③輸入検査でのトマトからの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	中	中	①②③輸入検査でのトマトからの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①トマトのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生であるが、微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④トマトの生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①トマトの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
トマト	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①トマトの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性で、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④トマト生果実は消費用として輸入されるが、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とべら属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①②③輸入検査でのとべら属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とべら属は切り花として輸入されるが、本種は中距離飛翔が可能であるため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とべら属	切り花	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①②③輸入検査でのとべら属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とべら属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
どくむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はないことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
どくむぎ属	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、どくむぎ属への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響をうけると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④どくむぎ属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①どくむぎ属は野生寄主であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④どくむぎ属は牧草として輸入され、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	無視	無視	①どくむぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫が外部から寄生するが、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、どくむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①本種はイネ科の主要な害虫であるが、どくむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、どくむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、どくむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④どくむぎ属は牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、どくむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	無視	無視	①どくむぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫が外部から寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、どくむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
どくむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、どくむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
どくむぎ属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、どくむぎ属への寄生について不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④どくむぎ属は牧草として輸入され、本種は歩行による短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	真菌及び粘菌	Peronosclerospora philippinensis		中	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②台湾等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sacchari		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等に生長阻害、枯死等の被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	真菌及び粘菌	Stenocarpella maydis		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③30℃で胞子の一日あたりの生存率が50-70%失われるとの記述があるため、乾燥（35-45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④土壌伝搬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちょう細菌病菌）		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝搬し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④多年草のオーチャードグラス等を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、エジプト、スリランカ、中国、トルコ、仏領ポリネシア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアで輸入禁止対象とされており、EU、チリ、ブルガリア、南アフリカ、チェコでは侵入を警戒している。抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①雌穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし	栽植用種子	アジア	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	中	中	①とうもろこし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうろもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	無視	無視	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	真菌及び粘菌	Stenocarpella maydis		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③30℃で胞子の一日あたりの生存率が50−70%失われるとの記述があるため、乾燥（35−45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④土壌伝搬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちよう細菌病菌）		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝搬し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④多年草のオーチャードグラス等を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、エジプト、スリランカ、中国、トルコ、仏領ポリネシア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアで輸入禁止対象とされており、EU、チリ、ブルガリア、南アフリカ、チェコでは侵入を警戒している。抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①雌穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①雌穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	中	中	①とうもろこし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうろもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	無視	無視	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	真菌及び粘菌	Stenocarpella maydis		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③30℃で胞子の一日あたりの生存率が50–70%失われるとの記述があるため、乾燥（35–45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④土壌伝搬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちよう細菌病菌）		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝搬し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年草のオーチャードグラス等を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、エジプト、スリランカ、中国、トルコ、仏領ポリネシア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアで輸入禁止対象とされており、EU、チリ、ブルガリア、南アフリカ、チェコでは侵入を警戒している。抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③雌成虫は種子に穴を空けて産卵し、幼虫は羽化するまで種子の中で生長する。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるとうもろこしは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離を飛翔移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシア、ポーランド、ウクライナ等で検疫有害動物となっている。また、カナダでも重要検疫有害動物とされている。化学的防除等の防除も確立されておらず、毒餌等を利用した防除しかない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	–		–		無視	–				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①雌穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	中	中	①とうもろこし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうろもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	無視	無視	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	真菌及び粘菌	Stenocarpella maydis		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③30℃で胞子の一日あたりの生存率が50–70%失われるとの記述があるため、乾燥（35–45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④土壌伝搬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	細菌	Clavibacter michiganensis subsp. nebraskensis（トウモロコシ葉枯細菌病菌）		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③実験では38℃で死滅したとの記述があるため、乾燥（35–45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④本種は種子伝搬し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、感染により枯死にいたることもあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②抵抗性品種の利用、耕種的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちよう細菌病菌）		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝搬し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④多年草のオーチャードグラス等を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、エジプト、スリランカ、中国、トルコ、仏領ポリネシア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアで輸入禁止対象とされており、EU、チリ、ブルガリア、南アフリカ、チェコでは侵入を警戒している。抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	無視	無視	①幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目ゾウムシ科	中	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③雌成虫は種子に穴を空けて産卵し、幼虫は羽化するまで種子の中で生長する。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるとうもろこしは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離を飛翔移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシア、ポーランド、ウクライナ等で検疫有害動物となっている。また、カナダでも重要検疫有害動物とされている。化学的防除等の防除も確立されておらず、毒餌等を利用した防除しかない。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①雌穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①雌穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	中	中	①とうもろこし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④とうろもろこし属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし属	栽植用種子	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	無視	無視	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし属	栽植用種子	アジア	真菌及び粘菌	Peronosclerospora maydis		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土中の植物残渣を介して伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこしの主要な害虫であり、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。化学的防除等が開発されている。	日本全域(理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし属	栽植用種子	中・南アメリカ	真菌及び粘菌	Peronosclerospora maydis		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、とうもろこし属は栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土中の植物残渣を介して伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこしの主要な害虫であり、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。化学的防除等が開発されている。	日本全域(理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora maydis		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土中の植物残渣を介して伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこしの主要な害虫であり、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。化学的防除等が開発されている。	日本全域(理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora philippinensis		中	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②台湾等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。 耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域(理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sacchari		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等に生長阻害、枯死等の被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。 耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域(理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Stenocarpella maydis		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④土壌伝搬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	細菌	Pantoea stewartii(トウモロコシ萎ちよう細菌病菌)		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年草のオーチャードグラス等を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア、エジプト、スリランカ、中国、トルコ、仏領ポリネシア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアで輸入禁止対象とされており、EU、チリ、ブルガリア、南アフリカ、チェコでは侵入を警戒している。抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
とうもろこし	重要農作物	全地域	ウイルス	Maize stripe virus		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④イネ科の多年生植物を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるトウモロコシウンカが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこしに重大な被害を与える病原体であり、90%以上の減収を引き起こすこともあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②媒介虫に対する化学防除のほか、媒介虫が加害する雑草の除去が行われている。シンガポールにおいて、検疫有害植物とされている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Blissus leucopterus	カメムシ目ナガカメムシ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は植物体の表面に産み付けられるが、卵の付着した部位は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ペルー等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしに被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は高い。 （参考）②防除法としては耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではとうもろこしのカメムシとして、同科のミナミアオカメムシ等が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目ゾウムシ科	無視	無視	①とうもろこしの主要な害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Chilo auricilius	チョウ目ツトガ科	中	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるいねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を卵塊で産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④終齢幼虫は休眠する能力を有することから、寄主が存在しない冬期間であっても本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①いねの葉を加害することから、直接的影響は中程度。 （参考）②エジプトは本属の付着した植物の輸入を禁止している。化学的、耕種的、天敵防除が知られており、また抵抗性品種が作出されている。日本では同部位を加害するとうもろこし、いねの病害虫として、本種と同属のニカメイガがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種の休眠性の有無は不明のため、同属の近似種ニカメイガの記述に基づいて記述した。	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されてれおり、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、幼虫が根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200~1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。 日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目 メイガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、寄生部位が周年存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①落花生、とうもろこし等をはじめとする多くの作物の主要な害虫であり、根や地際部を加害して芯枯れを起こし、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的防除法等がある。日本ではいねの害虫であるツトガ科のニカメイガが本種と同部位を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	低	低	①イネ科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、とうもろこしへの寄生についても不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面に卵塊で産み付けられるが、卵の付着した葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動す	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①とうもろこしの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉鞘、茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を葉上に産み付けるが、卵の付着した葉は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Pachnoda interrupta	コウチュウ目 コガネムシ科	低	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属、きび等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はカメルーン等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は一晩に24個以上産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種成虫はきびの花部を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②耕種的、化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	中	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	無視	無視	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目ハダニ科	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 （参考）②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	無視	無視	①とうもろこしの主要な害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 (参考)②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	真菌及び粘菌	Peronosclerospora philippinensis		極低	低	①とうもろこしの重要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入され、本種は風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②台湾等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。 耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	野菜	アジア	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sacchari		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入され、本種は風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等に生長阻害、枯死等の被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は長距離を風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	真菌及び粘菌	Stenocarpella maydis		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入され、本種は風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④土壌伝搬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちよう細菌病菌）		無視	無視	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	野菜	アジア	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、とうもろこしへの感染については不明であるため発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
とうもろこし	野菜	アジア	ウイルス	Maize stripe virus		無視	無視	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Chilo auricilius	チョウ目ツトガ科	低	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊を産み付けるが、卵の付着した葉は異常を示すことはないため収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるいねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を卵塊で産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④終齢幼虫は休眠する能力を有することから、寄主が存在しない冬期間であっても本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	中	①いねの葉を加害することから、直接的影響は中程度。 （参考）②エジプトは本属の付着した植物の輸入を禁止している。化学的、耕種的、天敵防除が知られており、また抵抗性品種が作出されている。日本では同部位を加害するとうもろこし、いねの病害虫として、本種と同属のニカメイガがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種の休眠性の有無は不明のため、同属の近似種ニカメイガの記述に基づいて記述した。	要	
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉上に微小な卵が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目メイガ科	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は葉を外部から食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、寄生部位が周年存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①落花生、とうもろこし等をはじめとする多くの作物の主要な害虫であり、根や地際部を加害して芯枯れを起こし、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的防除法等がある。日本ではいねの害虫であるツトガ科のニカメイガが本種と同部位を加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は主に寄主の地表部周辺を加害する習性を有するようで、とうもろこし部分に直接寄生するか否かは不確実性を伴う。	要	
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①イネ科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、とうもろこしへの寄生についても不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面に卵塊で産み付けられるが、卵の付着した葉は異常を示すことはないため収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉鞘、茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選果の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③平均30個程度の卵塊を葉に産み付けるが、卵の付着した葉は異常を示すことはないため収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を葉上に産み付けるが、卵の付着した葉は異常を示すことはないため収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は短距離歩行することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は成虫時に長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
とうもろこし	野菜	アジア	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目 プラティレンクス科	無視	無視	①本種はとうもろこしの主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
とうもろこし	野菜	アジア	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④とうもろこしは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
デンドロビューム属	栽植用植物	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	中	中	①デンドロビューム属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ベゴニア属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
デンドロビュ	栽植用植物	アジア	節足動物	Xylosandrus morigerus	コウチュウ目 キクイムシ科	中	中	①デンドロビューム属植物のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体内部に寄生するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④デンドロビューム属植物は苗として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるちゃは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③樹木内の孔道に数日にわたって複数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるちゃを加害することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雌成虫は中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ちゃの苗では加害されると枯死することが示唆されており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ニュージーランドでは検疫害虫となっている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		高	高	①てんさいの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
てんさい	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		中	中	①てんさいの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫（Neoaliturus tenellus及びN. opacipennis）は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	ウイルス	Sowbane mosaic virus		中	中	①てんさいのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるほうれん草は全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はフランス、イタリア及び米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は種子伝搬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染、花粉伝染及び日本既発生アブラムシにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①日本の主要作物であるほうれん草にモザイク症状を生じさせるが、その症状は強くないことから、直接的影響は中程度。 （参考）②媒介虫の発生を抑える目的で、防除が試みられている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①てんさいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	中	中	①てんさいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
てんさい	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①てんさいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
てんさい	重要農作物	全地域	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	高	高	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
てんさい	重要農作物	全地域	線虫	Nacobbus aberrans（ニセネコブセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①ばれいしょを加害する主要な線虫であり、寄主植物の根部に寄生し、ゴールを生じさせる。作物によっては90%近くの減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②台湾において本種はハイリスクの検疫有害動物となっている。化学的防除法、耕種的防除法がとられる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
てんさい	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	中	中	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
てんさい	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	中	中	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
てんさい	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①てんさいの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④てんさいは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ティランジア	栽植用植物	中・南アメリカ	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①ティランジア属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ティランジア属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ティランジア	栽植用植物	中・南アメリカ	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目 マルカイガラムシ科	高	高	①ティランジア属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ティランジア属は苗木・穂木として輸入されるため、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
つつじ属	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①つつじ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④つつじ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
つつじ属	重要農作物	全地域	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目メイガ科	中	中	①つつじ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が地際部から茎内に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④つつじ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌（Bacillus thuringiensis）や食虫性センチュウ（Steinernema sp.）を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
つつじ属	重要農作物	全地域	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目ゾウムシ科	中	中	①つつじ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④つつじ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害すること及び幼虫・蛹・成虫で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物であるいちごに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が利用可能である。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
つつじ属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①つつじ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④つつじ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	極低	低	①ツバキ科のマイナーな害虫であるが、ちゃへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	中	中	①ちゃのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70–120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ちゃの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Xylosandrus morigerus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①ちゃのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるちゃは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③樹木内の孔道に数日にわたって複数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるちゃを加害することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②雌成虫は中距離移動する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ちゃの苗では加害されると枯死することが示唆されており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ニュージーランドでは検疫害虫となっている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ちゃ	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①ちゃの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
チモシー	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、チモシーへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響をうけると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④チモシーは牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①イネ科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、チモシーへの寄生についても不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チモシーは牧草として輸入され、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、チモシーへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①本種はイネ科の主要な害虫であるが、チモシーへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、チモシーへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、チモシーへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チモシーは牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①チモシーの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チモシーは牧草として輸入されるが、本種は中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、チモシーへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−			否	
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①チモシーのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−			否	
チモシー	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、チモシーへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−			否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
チモシー	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるがチモシーへの寄生について不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チモシーは牧草として輸入され、本種は歩行による短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
チコリ	野菜	ヨーロッパ	ウイルス	Artichoke Italian latent virus		無視	無視	①チコリのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④チコリは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
チコリ	野菜	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	極低	極低	①②③輸入検査でのチコリからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チコリは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
チコリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①②③輸入検査でのチコリからの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④チコリは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
チコリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①②③輸入検査でのチコリからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チコリは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
チコリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①②③輸入検査でのチコリからの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④チコリは消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
チコリ	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	極低	極低	①②③輸入検査でのチコリからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④チコリは消費用として輸入されるが、本種の移動は短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ダリア属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①球根を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ダリア属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	無視	無視	①ダリア属のマイナーな害虫であるが、球根を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ダリア属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①球根を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たまねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Acrolepiopsis assectella	チョウ目アトヒゲコガ科	高	高	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性についての記述はない。 ③幼虫が鱗茎内部に寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎ、にんにくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布しているため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物上に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期に気温が低くなると、成虫の状態で翌春まで休眠するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①我が国の重要な作物であるたまねぎ、にんにく等の葉、茎、根等を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、抵抗性品種が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たまねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	中	中	①たまねぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たまねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus leucoloma	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①たまねぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が寄主植物地下部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの減収及び商品価値の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがアルファルファ及びばれいしょを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
たまねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	高	高	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
たまねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
たまねぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①たまねぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たまねぎ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④たまねぎは栽培用として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たまねぎ	野菜	大洋州	節足動物	Acrolepiopsis assectella	チョウ目 アトヒゲコガ科	中	中	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性についての記述はない。 ③幼虫が鱗茎内部に寄生するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たまねぎは消費用として輸入されるが、本種は飛翔により中距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるたまねぎ、にんにくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布しているため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物上に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期に気温が低くなると、成虫の状態で翌春まで休眠するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①我が国の重要な作物であるたまねぎ、にんにく等の葉、茎、根等を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、抵抗性品種が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たまねぎ	野菜	大洋州	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①たまねぎを食害するとの記載はあるものの、鱗茎を加害しないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたころから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たまねぎ	野菜	大洋州	節足動物	Naupactus leucoloma	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①たまねぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が寄主植物地下部に食入することがあり、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が低いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは消費用として輸入されるが、本種は飛翔能力がなく、歩行により短距離移動するため、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの減収及び商品価値の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがアルファルファ及びばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たまねぎ	野菜	大洋州	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④たまねぎは消費用として輸入されるが、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たまねぎ	野菜	北アメリカ	節足動物	Acrolepiopsis assectella	チョウ目 アトヒゲコガ科	中	中	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性についての記述はない。 ③幼虫が鱗茎内部に寄生するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たまねぎは消費用として輸入されるが、本種は飛翔により中距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるたまねぎ、にんにくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布しているため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物上に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期に気温が低くなると、成虫の状態で翌春まで休眠するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①我が国の重要な作物であるたまねぎ、にんにく等の葉、茎、根等を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法、抵抗性品種が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たまねぎ	野菜	北アメリカ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①②③輸入検査でのたまねぎからの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④たまねぎは消費用として輸入されるが、本種の成虫は風に長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たまねぎ	野菜	北アメリカ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①たまねぎを食害するとの記載はあるものの、鱗茎を加害しないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たまねぎ	野菜	北アメリカ	節足動物	Naupactus leucoloma	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①たまねぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が寄主植物地下部に食入することがあり、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が低いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④たまねぎは消費用として輸入され、本種成虫は飛翔能力がなく、歩行により短距離移動するため、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの減収及び商品価値の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがアルファルファ及びばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たまねぎ	野菜	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①たまねぎのマイナーな害虫であるが、鱗茎を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たまねぎ	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①たまねぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④たまねぎは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	ウイル	Beet curly top virus		無視	無視	①たばこのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥等により影響を受けるとの情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たばこ属は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	ウイル	Potato yellow dwarf virus		無視	無視	①宿根たばこのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥等により影響を受けるとの情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たばこ属は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Anthonomus eugenii	コウチュウ目 ゾウムシ科	無視	無視	①宿根たばこのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を、成虫は花や葉を食害するとの記述はあるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、成虫は収穫後の収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・加圧での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たばこ属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に微小な卵を産み付け、生育期に幼虫が植物体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び蛹は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	無視	無視	①ナス科のマイナーな害虫であるが、たばこ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	無視	無視	①ナス科の主要な害虫であるが、たばこ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	無視	無視	①たばこのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫が外部から寄生するが、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物を外部から食害し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①たばこのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 *無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Leptinotarsa decemlineata（コロラドハムシ）	コウチュウ目ハムシ科	無視	無視	①たばこのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の茎葉を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	極低	極低	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たばこ属は消費用として輸入され、本種の成虫の移動は歩行のみであることから寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①たばこの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①たばこのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たばこ属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
たばこ属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・加圧での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④たばこ属は消費用として輸入され、本種は中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ダナエ属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①②③輸入検査でのダナエ属切り花からの発見事例はあり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ダナエ属は切り花として輸入されるが、本種は中距離飛翔が可能であるため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ダナエ属	切り花	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	極低	極低	①②③輸入検査でのダナエ属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ダナエ属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 (参考)②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ダナエ属	切り花	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	極低	極低	①②③輸入検査でのダナエ属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ダナエ属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は這うことに限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ダナエ属	切り花	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①②③輸入検査でのダナエ属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ダナエ属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		高	高	①大豆(枝豆)の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるももも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	細菌	Curtobacterium flaccumfaciens pv. flaccumfaciens（インゲンマメ萎ちょう細菌病菌）		高	高	①大豆(枝豆)の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主である大豆、いんげんまめは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は植物残渣や雑草で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆等のマメ科の葉の黄化や花腐れを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに設定している。無病種子や抵抗性品種を利用した防除法が知られている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目 マメゾウムシ科	無視	無視	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、乾燥子実を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	–		–		無視	–				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①大豆(枝豆)のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、幼虫が根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200−1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目 メイガ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、寄生部位が周年存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①落花生、とうもろこし等をはじめとする多くの作物の主要な害虫であり、根や地際部を加害して芯枯れを起こし、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的防除法等がある。日本ではいねの害虫であるツトガ科のニカメイガが本種と同部位を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目 ヨコバイ科	低	低	①マメ科の主要な害虫であるが、大豆(枝豆)への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目 ヤガ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面等に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はオーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫の総産卵数は1,500 – 1,800個に達するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠性を有することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対しては化学的防除法が知られる。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450−2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	中	中	①大豆(枝豆)のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目ゾウムシ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①大豆(枝豆)のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①大豆(枝豆)のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目ハダニ科	高	高	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 （参考）②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	中	中	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
大豆（枝豆）	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	中	中	①大豆(枝豆)の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④大豆(枝豆)は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④だいこんは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に微小な卵を産み付け、生育期に幼虫が植物体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び蛹は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Delia radicum	ハエ目ハナバエ科	無視	無視	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に幼虫が茎葉及び根の内部を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目ハムシ科	無視	無視	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	無視	無視	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	極低	極低	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選の過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④だいこんは消費用として輸入されるが、本種の成虫の移動は歩行のみであることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①アブラナ科の主要な害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に卵塊を産みつけ、生育期に幼虫が植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①だいこんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に卵塊を産みつけ、生育期に幼虫が葉を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物内部に卵を産み付け、生育期に茎葉等を食害する外部寄生性の微小害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④だいこんは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	中	中	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④だいこんは消費用として輸入され、本種は、中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
だいこん	嗜好香辛料等	全地域	線虫	Heterodera schachtii(テンサイシストセンチュウ)	ティレンクス目 ヘテロデラ科	極低	極低	①本種はだいこんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は根に内部寄生するが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、また、シストは収穫後の精選等の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて低い。 ④だいこんは消費用として輸入され、本種は短距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
だいこん	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	低	低	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
だいこん	重要農作物	全地域	節足動物	Delia radicum	ハエ目 ハナバエ科	中	中	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は植物内部を加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は越冬すること、多年生植物を寄主植物として利用することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①キャベツ等、日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法、化学的防除法が有効である。日本では同属のダイコンバエ、ヒメダイコンバエが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
だいこん	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
だいこん	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
だいこん	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、だいこんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
だいこん	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①だいこんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
だいこん	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①だいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
だいこん	重要農作物	全地域	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	高	高	①だいこんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④だいこんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
だいこん	野菜	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①だいこんのマイナーな害虫であるが、寄生は地上部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
だいこん	野菜	アジア	節足動物	Delia radicum	ハエ目 ハナバエ科	中	中	①本種はだいこんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は寄主植物内部を食害することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④だいこんは消費用として輸入され、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は越冬すること、多年生植物を寄主植物として利用することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①キャベツ等、日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が有効である。日本では同属のダイコンバエ、ヒメダイコンバエが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
だいこん	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①だいこんの主要な害虫であるが、寄生は地上部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
だいこん	野菜	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①だいこんのマイナーな害虫であるが、寄生は地上部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
だいこん	野菜	アジア	線虫	Heterodera schachtii(テンサイシストセンチュウ)	ティレンクス目 ヘテロデラ科	極低	極低	①本種はだいこんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が根の内部に潜入するため、収穫・選別・土壌除去の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④だいこんは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
そら豆	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①そら豆の主要な害虫であり、種子を食害するとの記述はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
そら豆	豆類	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	中	中	①そら豆のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④そら豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
そら豆	豆類	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	低	低	①そら豆の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④そら豆は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
そば	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①そばのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④そばは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ぜんまい	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は加熱・乾燥され、その過程で影響を受けると考えられるが、貯蔵害虫のため再汚染される可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぜんまいは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ぜんまい	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	極低	極低	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は加熱・乾燥され、その過程で影響を受けると考えられるが、貯蔵害虫のため再汚染される可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぜんまいは消費用として輸入され、本種の成虫の移動は歩行のみであることから寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぜんまい	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は加熱・乾燥され、その過程で影響を受けると考えられるが、貯蔵害虫のため再汚染される可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぜんまいは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ぜんまい	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は加熱・乾燥され、その過程で影響を受けると考えられるが、貯蔵害虫のため再汚染される可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ぜんまいは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
セロリ	栽植用種子	北アメリカ	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		高	高	①セロリの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝搬し、また、セロリは栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。スイセンなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
セロリ	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	無視	無視	①幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
セロリ	野菜	北アメリカ	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		無視	無視	①セロリの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染するが病徴を現すこともあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④セロリは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
セロリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	中	中	①セロリのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の内部に産卵されるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④セロリは消費用として輸入され、本種は長距離の飛翔能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
セロリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	中	中	①本種はセロリのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④セロリは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
セロリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①セロリのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を外部から食害する。収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④セロリは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
セロリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①セロリのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④セロリは消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
セロリ	野菜	北アメリカ	節足動物	Psila rosae	ハエ目ハネオレバエ科	無視	無視	①本種は寄主植物地下部の栄養繁殖体に卵、幼虫、蛹の態で寄生する。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
セロリ	野菜	北アメリカ	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	無視	無視	①セロリの主要な害虫であるが、寄生は根部、地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
セロリ	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①②③輸入検査でのセロリからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④セロリは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
西洋かぼちゃ	野菜	大洋州	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①ウリ科の主要な病原体であるが、西洋かぼちゃへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実に病徴を現す場合があるが、潜在感染するため、本種が既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
西洋かぼちゃ	野菜	大洋州	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目ミバエ科	中	高	①西洋かぼちゃの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産卵され、幼虫は果実の内部に食入することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
西洋かぼちゃ	野菜	大洋州	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①カボチャ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
西洋かぼちゃ	野菜	北アメリカ	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①ウリ科の主要な病原体であるが、西洋かぼちゃへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実に病徴を現す場合があるが、潜在感染するため、本種が既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－			否	
西洋かぼちゃ	野菜	北アメリカ	節足動物	Diaphania nitidalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①西洋かぼちゃのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実内部に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入されるが、本種成虫は飛翔により長距離を移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種は米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、葉、茎、芽、花等に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④きゅうりは施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②防除法として天敵(Bacillus thuringiensis)利用や耕種的防除等の組み合わせとともに薬剤散布が有効である。日本では同属のワタヘリノメイガがウリ科、アオイ科野菜の害虫として記録されている。	日本の一部（沖縄県等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
西洋かぼちゃ	野菜	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①カボチャ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
西洋かぼちゃ	野菜	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、西洋かぼちゃへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④西洋かぼちゃは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スノキ属	生果実	大洋州	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①本種はブルーベリーの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実の表面を加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④スノキ属生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スノキ属	生果実	大洋州	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目ゾウムシ科	無視	無視	①本種はブルーベリーのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫・成虫とも根・葉であり（卵・蛹はホスト根回り周辺の土中）、生果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
スノキ属	生果実	大洋州	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①本種はブルーベリーのマイナーな害虫であるが、産卵場所は花の中、幼虫・成虫の加害部位はともに葉や花である（蛹はホスト根回り周辺の土中）。生果実を加害する記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スノキ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目 ゾウムシ科	無視	無視	①本種はブルーベリーのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫・成虫とも根・葉であり（卵・蛹はホスト根回り周辺の土中）、生果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スノキ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①ブルーベリー類のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④スノキ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スノキ属	生果実	北アメリカ	ウイルス	Peach rosette mosaic virus		無視	無視	①ブルーベリーのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④スノキ属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スノキ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①ブルーベリーのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実表面に微小な卵を産み付けることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④スノキ属生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるぶどう、りんごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は200個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫及び蛹で、樹上に残った枯葉、芽等で越冬できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、ぶどう等の果実を食害し、傷を付けることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、越冬場所の除去による耕種的防除法が有効とされている。りんごではチャノコカクモンハマキなど、日本には本種と同様の被害を与えるハマキガ科の害虫が数種、存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
スノキ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①本種はブルーベリーのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④スノキ属生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は主に歩行により移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	
スノキ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①本種はブルーベリーの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実の表面を加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④スノキ属生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スノキ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目 ゾウムシ科	無視	無視	①本種はブルーベリーのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫・成虫とも根・葉であり（卵・蛹はホスト根回り周辺の土中）、生果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スノキ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①ブルーベリーのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④スノキ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	中	中	①すぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すぎ属は、栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
スーダングラス	雑品	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		低	低	①スーダングラスの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④スーダングラスは牧草として輸入され、本種は風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スーダングラス	雑品	全地域	細菌	Clavibacter michiganensis subsp. nebraskensis（トウモロコシ葉枯細菌病菌）		無視	無視	①スーダングラスの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③実験では38℃で死滅したとの記述があるため、乾燥（35−45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④スーダングラスは牧草として輸入され、本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	栽培地検査対象の病害虫
スーダングラス	雑品	全地域	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちょう細菌病菌）		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、スーダングラスへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④スーダングラスは牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	栽培地検査対象の病害虫
スーダングラス	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、スーダングラスへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響をうけると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④スーダングラスは牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Blissus leucopterus	カメムシ目ナガカメムシ科	低	低	①スーダングラスの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③管理手続きを経た後、成虫が越冬のため品目内部に潜り込むと考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④スーダングラスは牧草として輸入されるが、本種の飛翔距離に関する情報はないが、中距離移動すると考えられることから寄主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ペルー等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしに被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は高い。 （参考）②防除法としては耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではとうもろこしのカメムシとして、同科のミナミアオカメムシ等が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①もろこし属の主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④スーダングラスは牧草として輸入され、本種の成虫は長距離移動することから寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①もろこし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫は寄主植物茎葉に外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①本種はイネ科の主要な害虫であるが、スーダングラスへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、スーダングラスへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	低	低	①もろこし属の主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④スーダングラスは牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①もろこし属のマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①もろこし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫は寄主植物茎葉に外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
スーダングラス	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①もろこし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物を外部から食害し、乾燥、加圧により死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
スーダングラス	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるがスーダングラスへの寄生について不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④スーダングラスは牧草として輸入され、本種は歩行による短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すいせん属	栽植用球根	ヨーロッパ	ウイルス	Raspberry ringspot virus		高	高	①すいせん属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいせん属は球根として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③－ ④本種は永年作物であるぶどう、さくらんぼ等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①いちごなどの日本の重要作物にえそ斑点、輪点、えそを生じ、やがて感染植物はわい化し枯死に至るなどの重大な被害を生じる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU及びトルコでは禁止対象の有害植物に指定。チェコでは栽培地検査対象に指定。防除法は健全苗の使用、媒介線虫の防除など。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	線虫による伝搬も行うが、我が国に存在する線虫により伝搬することが可能であるかについては不明である。	要	
すいせん属	栽植用球根	ヨーロッパ	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		高	高	①すいせん属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいせん属は球根として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③－ ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。スイセンなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
すいか	重要農作物	全地域	細菌	Erwinia tracheiphila		中	中	①すいかの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されるが、媒介昆虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①宿主植物であるきゅうりは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、米国、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主植物であるきゅうりは一年生草本であるが、施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介昆虫により伝染するが、媒介昆虫（Acalymma vittatum）は日本未発生であるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	高	①きゅうり等の日本の重要作物に、重大な被害を生じさせる可能性があり、きゅうりでは植物体に萎ちょう症状を示し、減収につながる可能性があることから、直接的影響は高い。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すいか	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		低	低	①ウリ科の主要な病原体であるが、すいかへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫（Neoaliturus tenellus及びN. opacipennis）は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目ミバエ科	低	中	①すいかのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tau	ハエ目ミバエ科	低	中	①すいかのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるメロン、かぼちゃ、きゅうり等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナムに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50–100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①幼虫がメロン、かぼちゃ、きゅうり等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国、アフリカ諸国は本種を検疫有害動植物に位置付けている。本種の最も有効な防除法の一つは果実の袋かけである。化学的防除法としてはベイトスプレーが用いられる。雄成虫はキュウルアに誘引される。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Carpomya pardalina	ハエ目 ミバエ科	高	高	①すいかの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は少なくとも100個の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で越冬可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①幼虫がメロン、すいか等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPM等が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Dacus ciliatus	ハエ目 ミバエ科	高	高	①すいかの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか、かぼちゃ等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はウリ科、トマト等、多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①幼虫がメロン、すいか、かぼちゃ等のウリ科の果実を食害し、甚大な被害（減収）を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生果の採集、ベイトトラップ、薬剤散布等が知られている。チェコでは輸入禁止対象害虫に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①すいかの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、幼虫が根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200−1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Diaphania nitidalis	チョウ目 ツトガ科	中	中	①すいかのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実や茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種は米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、葉、茎、芽、花等に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④きゅうりは施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①きゅうり、メロン等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②防除法として天敵(Bacillus thuringiensis)利用や耕種的防除等の組み合わせとともに薬剤散布が有効である。日本では同属のワタヘリノメイガがウリ科、アオイ科野菜の害虫として記録されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	低	低	①ウリ科のマイナーな害虫であるが、すいかへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①すいかの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、すいかへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①すいかのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①すいかの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
すいか	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目ハダニ科	中	中	①すいかのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④すいかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 (参考)②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
すいか	栽植用種子	アジア	細菌	Acidovorax avenae subsp. citrulli(スイカ果実汚斑細菌病菌)		高	高	①すいかの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝搬し、また、すいかは栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるすいかは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は種子伝染することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子や灌水により伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①すいか、メロン等日本の主要な作物を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②無病苗・種子の使用、温室内の環境管理・散水方法の工夫、銅剤の散布などが防除法として開発されている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
すいか	栽植用種子	アジア	細菌	Erwinia tracheiphila		無視	無視	①すいかの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④種子伝搬しないため、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
すいか	栽植用種子	ヨーロッパ	細菌	Erwinia tracheiphila		無視	無視	①すいかの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④種子伝搬しないため、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
飼料	雑品	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①②③輸入検査での飼料から発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④飼料には穀物種子で輸入されるものもあり生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
飼料	雑品	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	中	中	①②③輸入検査での飼料からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④飼料には穀物種子で輸入されるものもあり生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
しょうが	野菜	アジア	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目 コナジラミ科	無視	無視	①しょうがのマイナーな害虫であるが、本種が地下部を加害するとの記載はなく、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
しょうが	野菜	アジア	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	無視	無視	①しょうがの主要な害虫であるが、本種が地下部を加害するとの記載はなく、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
しょうが	野菜	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	無視	無視	①しょうがのマイナーな害虫であるが、本種が地下部を加害するとの記載はなく、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
しょうが	野菜	アジア	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目 プラティレンクス科	極低	極低	①しょうがの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種はしょうが塊茎に内部寄生するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が低くく、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④しょうがは消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
しゃりんばい属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		低	低	①バラ科の主要な病原体であるが、しゃりんばい属への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④しゃりんばい属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera carambolae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	極低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マレーシアに分布するため、日本の環境への適応性は中程度。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は高い。 (参考)②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。耕種的防除法(袋掛け)、化学的防除法としてベイトスプレーがあり、早期発見のためにトラップが利用されている。日本ではかんきつを加害するミバエ科の昆虫として、ミカンバエ(同属)が報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		中	中	①ししとうがらしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫（Neoaliturus tenellus及びN. opacipennis）は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Anthonomus eugenii	コウチュウ目ゾウムシ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の重要作物であるピーマン、トマト、なすの果実を加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。化学的防除、耕種的防除が行われている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera frauenfeldi	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はグアバ、かんきつ等の果実に寄生し、減収させるため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が報告されている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1~3か月（冷涼な条件下では12か月）生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目ハムシ科	低	低	①ナス科のマイナーな害虫であるが、ししとうがらしの害虫としての情報は不確実であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目メイガ科	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が地際部から茎内に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌（Bacillus thuringiensis）や食虫性センチュウ（Steinernema sp.）を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	低	低	①ナス科のマイナーな害虫であるが、ししとうがらしの害虫としての情報は不確実であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Neoceratitis cyanescens	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マダガスカルに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、ピーマン等、日本の主要作物に重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEUのA1リストに掲載されている。化学的防除が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	中	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①とうがらし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	高	高	①とうがらし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①とうがらし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera carambolae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	極低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マレーシアに分布するため、日本の環境への適応性は中程度。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は高い。 (参考)②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。耕種的防除法(袋掛け)、化学的防除法としてベイトスプレーがあり、早期発見のためにトラップが利用されている。日本ではかんきつを加害するミバエ科の昆虫として、ミカンバエ(同属)が報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるももも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	野菜	アジア	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①ししとうがらしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1-3か月(冷涼な条件下では12か月)生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらし生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、成虫は飛翔により、中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を外部から食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、本種は中距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	中	中	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20–1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	野菜	大洋州	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①ししとうがらしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③生果実において病徴を肉眼で観察することは困難であり、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Anthonomus eugenii	コウチュウ目ゾウムシ科	極低	極低	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、本種の成虫は主に歩行により移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるピーマン、トマト、なすの果実を加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。化学的防除、耕種的防除が行われている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Bactrocera frauenfeldi	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はグアバ、かんきつ等の果実に寄生し、減収させるため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が報告されている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は環境によっては1-3か月（冷涼な条件下では12か月）生きるとの報告があることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。メチルオイゲノール、キュウルアには誘引されない。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、収穫・選別の過程で除去される可能性は極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①②③輸入検査でのししとうがらしからの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物外部に寄生するが微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は風により長距離飛翔能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に平均して14-24個の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるピーマン、すいか、大豆、トマト、とうもろこしに対して被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。日本では同属のヒラズハナアザミウマがトマトを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Tomato spotted wilt virus (TSWV)を媒介することが知られており、本種の侵入・拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を果実に産み付けるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	中	中	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①ししとうがらしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、本種の自力での移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ししとうがらしは消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	野菜	大洋州	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①ししとうがらしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ししとうがらしは消費用として輸入されるが、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①ししとうがらしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥等により影響を受けるとの情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ししとうがらしは嗜好香辛料として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Anthonomus eugenii	コウチュウ目ゾウムシ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Bactrocera frauenfeldi	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Bactrocera latifrons	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性										
							評価	理由	評価	理由	評価	理由		評価	理由				
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目ハムシ科	無視	無視	ナス科のマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Frankliniella fusca	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Neoceratitis cyanescens	ハエ目 ミバエ科	無視	無視	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	無視	無視	①ししとうがらしのマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	無視	無視	①とうがらし属のマイナーな害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性										
							評価	理由	評価	理由	評価	理由		評価	理由				
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ししとうがらしの主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	無視	無視	①とうがらし属の主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ししとうがらし	嗜好香辛料等	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	無視	無視	①とうがらし属の主要な害虫であるが、乾燥した果実を加害するとの記述はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
さとうだいこん	栽植用種子	ヨーロッパ	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①さとうだいこんの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④種子伝搬しないため、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さとうだいこん	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	無視	無視	①幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
さとうだいこん	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
さとうだいこん	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
さとうだいこん	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	無視	無視	①さとうだいこんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さとうきび	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora philippinensis		低	中	①さとうきびのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②台湾等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。 耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sacchari		高	高	①さとうきびの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等に生長阻害、枯死等の被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。 耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	ウイル	Citrus yellow mosaic virus		低	中	①さとうきびのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるかんきつ類は北海道及び東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④常緑樹であるかんきつ類を宿主としていることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるミカンコナカイガラムシが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①かんきつに大幅な減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②媒介虫の防除が有効とされている。	北海道及び東北を除く日本全域 （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	ウイル	Fiji disease virus		低	高	①さとうきびの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①宿主植物であるさとうきびは九州及び沖縄で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は中程度。 ②マダガスカル、パプアニューギニアなどに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④さとうきびは年間を通じて栽培されていることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるクロフツノウンカが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①さとうきびに大幅な減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②抵抗性品種の利用が有効とされている。パキスタン、ミャンマーでさとうきびの栽培地検査要求対象病害となっている。	日本の一部（九州及び沖縄） （理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さとうきび	重要農作物	全地域	ウイル	Maize stripe virus		中	中	①さとうきびのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④イネ科の多年生植物を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるトウモロコシウンカが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこしに重大な被害を与える病原体であり、90%以上の減収を引き起こすこともあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②媒介虫に対する化学防除のほか、媒介虫が加害する雑草の除去が行われている。シンガポールにおいて、検疫有害植物とされている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Blissus leucopterus	カメムシ目ナガカメムシ科	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は植物体の表面に産み付けられるが、卵の付着した部位は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ペルー等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしに被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は高い。 (参考)②防除法としては耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではとうもろこしのカメムシとして、同科のミナミアオカメムシ等が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Chilo auricilius	チョウ目ツトガ科	中	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるいねは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム等に分布することから、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を卵塊で産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④終齢幼虫は休眠する能力を有することから、寄主が存在しない冬期間であっても本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①いねの葉を加害することから、直接的影響は中程度。 (参考)②エジプトは本属の付着した植物の輸入を禁止している。化学的、耕種的、天敵防除が知られており、また抵抗性品種が作出されている。日本では同部位を加害するとうもろこし、いねの病害虫として、本種と同属のニカメイガがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種の休眠性の有無は不明のため、同属の近似種ニカメイガの記述に基づいて記述した。	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目メイガ科	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、寄生部位が周年存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①落花生、とうもろこし等をはじめとする多くの作物の主要な害虫であり、根や地際部を加害して芯枯れを起こし、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的、生物的防除法等がある。日本ではいねの害虫であるツトガ科のニカメイガが本種と同部位を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①イネ科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、さとうきびへの寄生についても不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面に卵塊で産み付けられるが、卵の付着した葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、さとうきびへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、さとうきびへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Oryctes monoceros	コウチュウ目 コガネムシ科	極低	中	①さとうきびのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫・成虫はともに植物体に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①本種の寄主であるバナナ、さとうきびは日本の一部（九州及び沖縄等）で栽培されているため。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①ココやし等作物の葉、茎などを加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②シンガポールは本種の付着する植物の輸入を禁止している。耕種的及び化学的防除法が知られる。	日本の一部（九州及び沖縄等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	やし類以外の寄主に対する被害実態に関する情報がないため、経済的重要性の評価には不確実性を伴う。	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、さとうきびへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	極低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、さとうきびへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	中	中	①さとうきびのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70–120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さとうきび	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①さとうきびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
さとうきび	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、さとうきびへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さとうきびは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さといも	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Rosellinia pepo		中	中	①さといものマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さといもは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるさといもは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④土壌中で腐生生活をすることにより長期間生存できることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風媒伝染することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①さといもに根腐れ等の重大な被害を与える恐れがあることから、直接的影響は極めて高い。	北海道を除く日本全域 （理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さつまいも	重要農作物	全地域	ウイルス	Sweet potato chlorotic stunt virus		高	高	①さつまいもの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主植物であるさつまいもは全国で栽培されるため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主植物であるさつまいもは多年生であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②日本既発生のタバココナジラミにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①被害は小さく、さつまいもの葉を変色させる程度であるが、Sweet potato feathery mottle virusとの複合感染により被害が増大することから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②健全な苗の使用が有効である。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	ウイルス	Sweet potato mild mottle virus		高	高	①さつまいもの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主植物であるさつまいもは全国で栽培されるため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ペルー、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主植物であるさつまいもは多年生であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②日本既発生のタバココナジラミにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①単独での被害は感受性品種にのみ葉の斑紋を起こす程度であるが、Sweet potato feathery mottle virus等との複合感染で被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②健全な苗の使用が有効である。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目 ゾウムシ科	低	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は塊根に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるとうもろこしは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離を飛翔移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシア、ポーランド、ウクライナ等で検疫有害動物となっている。また、カナダでも重要検疫有害動物とされている。化学的防除等の防除も確立されておらず、毒餌等を利用した防除しかない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Cylas formicarius（アリモドキゾウムシ）	コウチュウ目 ミツギリゾウムシ科	高	高	①さつまいもの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎や根の内部を加害することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさつまいもは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部（沖縄県等）では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により中距離移動すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①日本の重要作物であるさつまいもに壊滅的な被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②マルチング等による耕種的防除、化学的防除等によるIPMが行われている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、幼虫が根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200-1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Euscepes postfasciatus（イモゾウムシ）	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物内に産みつけるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるさつまいもを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が歩行により短距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①さつまいもの減収や商品価値の低下を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除法等が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus leucoloma	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が寄主植物地下部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの減収及び商品価値の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがアルファルファ及びばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Omphisa anastomosalis	チョウ目ツトガ科	中	高	①さつまいもの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるさつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③90−300個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①さつまいもの茎に深刻な被害を及ぼし、枯死させることもあるため、直接的影響は極めて高い。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①さつまいものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さつまいも	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①さつまいもの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さつまいもは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の１種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さざんか	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	極低	低	①ツバキ科のマイナーな害虫であるが、さざんかへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さざんかは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ささげ	豆類	全地域	細菌	Curtobacterium flaccumfaciens pv. flaccumfaciens（インゲンマメ萎ちよう細菌病菌）		無視	無視	①ささげの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さざげは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
ささげ	豆類	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①ささげの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さざげは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ささげ	豆類	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	無視	無視	①ささげのマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ささげ	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①ささげの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また、貯蔵中にも再寄生することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ささげは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ささげ	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ささげのマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ささげ	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①ささげのマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ささげ	豆類	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	中	中	①ささげのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ささげは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ささげ	豆類	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①ささげのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ささげは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		無視	無視	①さくらんぼのマイナーな病原体であるが、生果実に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	ウイルス	Cherry rasp leaf virus		無視	無視	①さくらんぼの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	ウイルス	Cherry rusty mottle disease		無視	無視	①さくらんぼの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①さくらんぼのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	中	中	①さくらんぼのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80–100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①さくらんぼの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実内に食入することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200-900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2，3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目ゾウムシ科	極低	極低	①さくらんぼの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を果実内に産卵することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は主に歩行により移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Grapholita prunivora	チョウ目ハマキガ科	中	中	①さくらんぼのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実内部に食入することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④地上の落ち葉内や幹の裂け目に作った繭の中で終令幼虫で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご生果実を食害し、表皮をコルク状にするなどの重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに記載されており、またCOSAVEでも重要検疫害虫とされている。化学的防除及びフェロモンを用いた生物的防除があり、総合的防除も確立されている。国内では同属のナシヒメシンクイがりんごを食害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Rhagoletis cingulata	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくらんぼの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数果実内に産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の越冬は土壌下において通常蛹態で行われることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるさくらんぼに重大な被害をあたえることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除が知られている。EU、トルコ、チェコで輸入禁止対象害虫になっている。EPPOは本種の無発生の確認や、果実に対する低温処理、くん蒸処理などを義務づけている。日本では同科のオウトウハマダラミバエがさくらんぼ果実を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Rhagoletis fausta	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくらんぼの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数果実内に産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の越冬は土壌下において通常蛹態で行われることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるさくらんぼに重大な被害をあたえることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除が知られている。EU、トルコ、チェコで輸入禁止対象害虫になっている。EPPOは本種の無発生の確認や、果実に対する低温処理、くん蒸処理などを義務づけている。日本では同科のオウトウハマダラミバエがさくらんぼ果実を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Rhagoletis indifferens	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくらんぼの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数果実内に産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の越冬は土壌下において通常蛹態で行われることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるさくらんぼに重大な被害をあたえることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除が知られている。EU、トルコ、チェコで輸入禁止対象害虫になっている。EPPOは本種の無発生の確認や、果実に対する低温処理、くん蒸処理などを義務づけている。日本では同科のオウトウハマダラミバエがさくらんぼ果実を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくらんぼ	生果実	北アメリカ	節足動物	Rhagoletis pomonella	ハエ目ミバエ科	中	中	①さくらんぼのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④さくらんぼ生果実は消費用として輸入され、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④越冬、休眠するとの記載はないが、もも、さくらんぼ、りんご等寄主範囲が広いため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により1.5km移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごの果実内部を食害する重要な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②COSAVE、EPPO及びOIRSAで重要害虫として取り扱われており、EU、インドネシア、中国で輸入禁止対象害虫となっている。耕種的防除のほか、化学的防除が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	一定期間、1.5℃以下の低温処理すれば死滅する旨の記述あり。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①ももの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50–100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
さくら属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Apiosporina morbosa		高	高	①せいようすももの重要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるすももやせいようすももは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①せいようすもも等の核果類の枝や幹にこぶを生じさせ生長阻害や枯死を引き起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。感染樹の除去や化学的防除法がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		高	高	①あんずの重要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		高	高	①さくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	細菌	Apple rubbery wood phytoplasma		中	中	①さくら属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されるが、伝搬方式が接木伝搬のみであるため、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②伝搬方式が接ぎ木伝搬のみであるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①日本の主要な作物であるりんごに、枝の垂れ下がりや主幹の伸長停止等の生育異常を引き起こし、果実への被害としては、りんごで10–30%、なしで15–50%程度減収するとの報告があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②NAPPOやCOSAVAではquarantine pestと位置づけている。健全樹・苗の使用、熱処理による無病苗の作出がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	細菌	Xylella fastidiosa		高	高	①さくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなるヨコバイやアワフキムシが日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のオオヨコバイやホソアワフキにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう、ももなどの日本の主要農作物に収量減、果実の小型化等の重大な被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコでは栽培地検査を要求している。健全樹の使用が有効。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	American plum line pattern virus		中	中	①さくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されるが、伝搬方式が接木伝搬のみであるため、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②伝搬方式が接木伝搬のみであるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	低	①もも等の感染樹の葉に退色等軽微な被害を与えることから、直接的影響は低い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに指定している。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	同属のウイルスでは花粉伝染するが本種についての報告はない。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	Carnation ringspot virus		高	高	①さくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、米国、ブラジル、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種の宿主植物であるカーネーションは多年生植物であり、且つ、本種は土壌中に残ることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、昆虫、土壌中の糸状菌等では伝染しないが、感染植物との接触、または汚染された土壌から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①カーネーション等の日本の重要作物に、葉の輪紋症状や花の奇形を生じさせる等、重大な被害を生じさせる可能性があり、また、他のウイルスとの複合感染により収量を減少させることから、直接的影響は高い。 （参考）②チリ、中国、ハンガリー、韓国、スリランカ、米国及びイギリスにおいて検疫有害動植物に指定されている。米国では本種発生国から輸入されるカーネーションは原則として隔離検査対象となっている。ELISA法の導入により、近年は経済的被害が減少している。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	Cherry rasp leaf virus		高	高	①さくら属の重要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるさくらんぼは日本で広く栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくらんぼやりんごに収量減等を引き起こし、枯死することもあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②チェコでは本種を輸入禁止対象病害虫としている。感染樹の除去が有効である。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	Cherry rusty mottle disease		中	中	①さくらんぼの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されるが、伝搬方式が接木伝搬のみであるため、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるさくらんぼは日本で広く栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、南アフリカ等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②伝搬方式が接木伝搬のみであるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①日本の主要な農作物であるさくらんぼの果実の小型化、収量減をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②健全な苗の使用と感染樹の除去が有効である。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	Peach rosette mosaic virus		高	高	①ももの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるももは日本で広く栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②接ぎ木や種子から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な農作物であるもも、ぶどう等に収量減、枯死等の影響を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②チェコでは輸入禁止対象に指定されている。健全な苗の使用が有効である。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	Raspberry ringspot virus		高	高	①さくらんぼの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、さくらんぼ等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①いちごなどの日本の重要作物にえそ斑点、輪点、えそを生じ、やがて感染植物はわい化し枯死に至るなどの重大な被害を生じる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU及びトルコでは禁止対象の有害植物に指定。チェコでは栽培地検査対象に指定。防除法は健全苗の使用、媒介線虫の防除など。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	線虫による伝搬も行うが、我が国に存在する線虫により伝搬することが可能であるかについては不明である。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	Sowbane mosaic virus		中	中	①せいようすもものマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるほうれん草は全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はフランス、イタリア及び米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は種子伝搬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染、花粉伝染及び日本既発生アブラムシにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①日本の主要作物であるほうれん草にモザイク症状を生じさせるが、その症状は強くないことから、直接的影響は中程度。 （参考）②媒介虫の発生を抑える目的で、防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		高	高	①さくら属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。スイセンなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Anarsia lineatella	チョウ目 キバガ科	高	高	①さくら属の重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、さくら属は日本に広く分布していることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、中国、米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はさくら属の枝の樹皮内で幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の主要な樹木である、さくら属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	中	高	①ももの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒している。EU、チェコ、シンガポールにおいて輸入禁止対象有害動物に指定されている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80-100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①もものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①あんずのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実表面に微小な卵を産み付けることから、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるぶどう、りんごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は200個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫及び蛹で、樹上に残った枯葉、芽等で越冬できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、ぶどう等の果実を食害し、傷を付けることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、越冬場所の除去による耕種的防除法が有効とされている。りんごではチャノコカクモンハマキなど、日本には本種と同様の被害を与えるハマキガ科の害虫が数種、存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera correcta	ハエ目ミバエ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要作物であるメロンの生果実に被害を与えるため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的・耕種的防除法が報告されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①さくら属のマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni（クインスランドミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①ももの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera zonata	ハエ目ミバエ科	中	高	①ももの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、インド等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ももの果実を加害し重大な被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②チェコでは本種を輸入禁止対象病害虫としている。耕種的、物理的、化学的防除法や雄除去法がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis cosyra	ハエ目ミバエ科	中	中	①もものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①マンゴウの果実を加害し重大な被害を与えるため、直接的影響は高い。 （参考）②寄生果の除去や化学的防除法がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis rosa	ハエ目ミバエ科	中	中	①もものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト及びさくら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むと考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト及びさくら属等、日本の主要作物の生果実に重大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はチェコ、シンガポール、マルタでは検疫有害動物に指定されており、EPPO、JUNAC（アンデス地域共同体）、およびOIRSA（中米地域植物防疫機関）において検疫上重要視されている。トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除法が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200-900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2，3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目ゾウムシ科	高	高	①せいようすももの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Cydia pomonella（コドリンガ）	チョウ目ハマキガ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実内部で生育するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③250-300個の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は最大2年間休眠する能力を有することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの主要な害虫であり、収穫量を減収させたり、果実を落下させることもあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、中国は本種を輸入禁止対象害虫にしている。化学的、耕種的、フェロモントラップ等がある。日本ではナシヒメシンクイ等の多くのハマキガ科は本種と同部位を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Grapholita funebrana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が果実に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③同属の雌成虫は一度に平均145個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は中距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①さくらんぼの主要害虫であり、果実を食害し大きな被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②フェロモン剤によるトラッピングや交信撹乱、化学的防除等がが開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Grapholita prunivora	チョウ目ハマキガ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④地上の落ち葉内や幹の裂け目に作った繭の中で終令幼虫で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご生果実を食害し、表皮をコルク状にするなどの重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに記載されており、またCOSAVEでも重要検疫害虫とされている。化学的防除及びフェロモンを用いた生物的防除があり、総合的防除も確立されている。国内では同属のナシヒメシンクイがりんごを食害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	高	高	①もの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではもも の吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Malacosoma americanum	チョウ目カレハガ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は枝に卵塊を産みつけるが、卵塊を産みつけられた枝は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約350個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔することから定着後の自然分散の可能性は高い。	低	中	①寄主植物の葉を暴食するが、経済的影響は少ないため直接的影響は中程度。 (参考)②化学的、生物的防除法がある。日本には同属のオビカレハが分布する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目 ドクガ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	中	中	①ものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Parlatoria oleae	カメムシ目 マルカイガラムシ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、ももは国内で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルジェリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約90個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④交尾した雌が樹皮上で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は固着するが、幼虫は歩行するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるもも等に寄生し、奇形果を生じさせたり、多発した場合、枝を枯死させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種が寄生している植物を輸入禁止している。化学的、生物的防除法がある。日本では同科のナシマルカイガラムシがさくら類を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①もの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	中	高	①ももの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①すももの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 （参考）②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	部分的に、評価を行うための情報が不足している。本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis cerasi	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくらんぼの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③約200個の卵を果実表皮下に産むため、繁殖能力は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるさくらんぼに重大な被害をあたえることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコでは本種の付着した生果実を輸入禁止対象としている。耕種的、化学的防除法が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis cingulata	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数果実内に産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の越冬は土壌下において通常蛹態で行われることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるさくらんぼに重大な被害をあたえることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除が知られている。EU、トルコ、チェコで輸入禁止対象害虫になっている。EPPOは本種の無発生の確認や、果実に対する低温処理、くん蒸処理などを義務づけている。日本では同科のオウトウハマダラミバエがさくらんぼ果実を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis completa	ハエ目ミバエ科	中	中	①もものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で越冬可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はくるみ果実に寄生し重大な被害を与えることから、直接的影響は高い。 （参考）②チェコでは本種を輸入禁止対象病害虫としている。耕種的、化学的防除法が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis fausta	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数果実内に産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の越冬は土壌下において通常蛹態で行われることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるさくらんぼに重大な被害をあたえることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除が知られている。EU、トルコ、チェコで輸入禁止対象害虫になっている。EPPOは本種の無発生の確認や、果実に対する低温処理、くん蒸処理などを義務づけている。日本では同科のオウトウハマダラミバエがさくらんぼ果実を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis indifferens	ハエ目ミバエ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を多数果実内に産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の越冬は土壌下において通常蛹態で行われることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるさくらんぼに重大な被害をあたえることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除が知られている。EU、トルコ、チェコで輸入禁止対象害虫になっている。EPPOは本種の無発生の確認や、果実に対する低温処理、くん蒸処理などを義務づけている。日本では同科のオウトウハマダラミバエがさくらんぼ果実を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Rhagoletis pomonella	ハエ目ミバエ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④越冬、休眠するとの記載はないが、もも、さくらんぼ、りんご等寄主範囲が広いため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により1.5km移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①りんごの果実内部を食害する重要な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②COSAVE、EPPO及びOIRSAで重要害虫として取り扱われており、EU、インドネシア、中国で輸入禁止対象害虫となっている。耕種的防除のほか、化学的防除が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	一定期間、1.5℃以下の低温処理すれば死滅する旨の記述あり。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Scolytus multistriatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、にれは日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、中国、米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能なにれに寄生し、幼虫が樹内で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、にれの衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法の併用が有効とされる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Scolytus scolytus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①さくら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スペイン等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫が多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種ははこやなぎ属の樹内部に寄生することから、年間を通じ生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法として、抵抗性品種の導入、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①もものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①もの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の１種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目 ハダニ科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 (参考)②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①ものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
さくら属	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①ものマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
さくら属	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目 ロンギドルス科	高	高	①さくら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④さくら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は Grapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ごれんし	生果実	北アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①ごれんしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ごれんし生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるももも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
ごれんし	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①ごれんしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ごれんし生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ごれんし	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	中	中	①本種はごれんしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記載はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ごれんし生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒している。EU、チェコ、シンガポールにおいて輸入禁止対象有害動物に指定されている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ごれんし	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①本種はごれんしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ごれんし生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ごれんし	生果実	北アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	低	低	①ごれんしの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ごれんし生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ごれんし	生果実	北アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①ごれんしのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ごれんし生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	細菌	Clavibacter michiganensis subsp. nebraskensis（トウモロコシ葉枯細菌病菌）		無視	無視	①こむぎの病原体としての情報は不確実であり(data-mining)、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③実験では38℃で死滅したとの記述があるため、乾燥（35-45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入され、本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
こむぎ属	雑品	全地域	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちよう細菌病菌）		無視	無視	①こむぎのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
こむぎ属	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、こむぎへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	雑品	全地域	ウイル	Maize stripe virus		無視	無視	①こむぎのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Blissus leucopterus	カメムシ目 ナガカメムシ科	低	低	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③管理手続きを経た後、成虫が越冬のため品目内部に潜り込むと考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入され、本種の飛翔距離に関する情報はないが、中距離移動すると考えられることから寄主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ペルー等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしに被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は高い。 （参考）②防除法としては耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではとうもろこしのカメムシとして、同科のミナミアオカメムシ等が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①こむぎのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に微小な卵を産み付け、生育期に幼虫が植物体を食害するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目 メイガ科	無視	無視	①こむぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が茎葉や根を外部から食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	低	低	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	無視	無視	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫が外部から寄生するが、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Mayetiola destructor（ヘシアンバエ）	ハエ目タマバエ科	低	低	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は、寄主植物体内を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるこむぎは全国で栽培されることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数については雌1個体当たり100-200個で、繁殖能力は極めて高い。 ④麦わらの中で幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②羽化地点より5マイル(約8km)先まで飛べるとの報告があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①こむぎの主要な害虫とされ、茎に食入し減収や枯死を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）オーストラリア、中国では禁止対象害虫としている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①こむぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	低	低	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部を加害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	低	低	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は牧草として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	無視	無視	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体を外部加害するが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼体及び成体は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	無視	無視	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物体を外部加害するが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼体及び成体は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こむぎ属は牧草として輸入され、本種は歩行による短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	アジア	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	アジア	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	アジア	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	アジア	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	栽植用種子	アジア	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	アジア	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	アジア	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	低	低	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	アジア	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎ属種子への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①こむぎ属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
こむぎ属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	中・南アメリカ	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	低	低	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	低	低	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こむぎ属は種子として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
こむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎ属種子への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により、死滅するため既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
こむぎ	重要農作物	全地域	ウイルス	Maize stripe virus		中	中	①こむぎのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④イネ科の多年生植物を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるトウモロコシウンカが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこしに重大な被害を与える病原体であり、90%以上の減収を引き起こすこともあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②媒介虫に対する化学防除のほか、媒介虫が加害する雑草の除去が行われている。シンガポールにおいて、検疫有害植物とされている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Blissus leucopterus	カメムシ目ナガカメムシ科	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は植物体の表面に産み付けられるが、卵の付着した部位は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ペルー等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしに被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は高い。 (参考)②防除法としては耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではとうもろこしのカメムシとして、同科のミナミアオカメムシ等が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目 メイガ科	高	高	①こむぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、寄生部位が周年存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①落花生、とうもろこし等をはじめとする多くの作物の主要な害虫であり、根や地際部を加害して芯枯れを起こし、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的防除法等がある。日本ではいねの害虫であるツトガ科のニカメイガが本種と同部位を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面に卵塊で産み付けられるが、卵の付着した葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Mayetiola destructor（ヘシアンバエ）	ハエ目タマバエ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は、寄主植物体内を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるこむぎは全国で栽培されることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数については雌1個体当たり100-200個で、繁殖能力は極めて高い。 ④麦わらの中で幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②羽化地点より5マイル(約8km)先まで飛べるとの報告があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①こむぎの主要な害虫とされ、茎に食入し減収や枯死を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）オーストラリア、中国では禁止対象害虫としている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	高	高	①こむぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を葉上に産み付けるが、卵の付着した葉は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	極低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り抜われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	無視	無視	①こむぎの主要な害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、通常、立毛中の生植物を加害はしないとされている。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	中	中	①こむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	無視	無視	①こむぎの主要な害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ	重要農作物	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	無視	無視	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
こむぎ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	中	中	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こむぎ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	中	中	①こむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ペイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こむぎ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、こむぎへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こむぎは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ごま属	雑品	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①ごまの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ごま属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①大豆種子の内部を食害するので、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ごま属	雑品	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①ごま属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ごま属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こなら属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①こなら属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こなら属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目 ドクガ科	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こなら属	重要農作物	全地域	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目ゾウムシ科	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物であるいちごに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が利用可能である。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こなら属	重要農作物	全地域	節足動物	Scolytus multistriatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、にれは日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、イタリア、中国、米国等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、にれに寄生し、幼虫が樹内で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、にれの衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法の併用が有効とされる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
こなら属	重要農作物	全地域	節足動物	Scolytus scolytus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①こなら属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④こなら属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スペイン等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫が多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種ははこやなぎ属の樹内部に寄生することから、年間を通じ生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法として、抵抗性品種の導入、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
こしょう	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また貯蔵害虫のため再汚染の可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こしょうは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
こしょう	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	無視	無視	①こしょうのマイナーな害虫であり、生育中の果実を加害するとの記載はあるものの、乾燥果実を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
こしょう	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sinoxylon conigerum	コウチュウ目 ナガシンクイムシ科	低	低	①②③輸入検査での発見事例があるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④こしょうは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたけ類は全国に分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、イタリア、ブラジル、スペインに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を生み付けると考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠越冬する能力を有するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	中	①主に枯死したあるいは樹勢の衰えたたけ類を加害することから、直接的影響は中程度。 (参考)②本種は木材梱包材の害虫として知られる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	日本に存在するたけ類(Phyllostachys属)を加害するかどうかは不明。	要	
こしょう	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こしょうは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
こしょう	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①こしょうのマイナーな害虫であり、生育中の果実を加害するとの記載はあるものの、乾燥果実を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
こしょう	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こしょうは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
こしょう	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害し、また貯蔵害虫のため再汚染の可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④こしょうは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ココヤシ	生果実	アジア	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①ココヤシの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ココヤシ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ココヤシ	生果実	アジア	節足動物	Oryctes monoceros	コウチュウ目 コガネムシ科	極低	中	①本種はココヤシのマイナーな害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から食害し、収穫・選果の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④ココヤシ生果実は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	中	①本種の寄主であるバナナ、さとうきびは日本の一部(九州及び沖縄等)で栽培されているため。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部(沖縄県等)では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①ココやし等作物の葉、茎などを加害するため、直接的影響は高い。 (参考)②シンガポールは本種の付着する植物の輸入を禁止している。耕種的及び化学的防除法が知られる。	日本の一部 (九州及び沖縄等) (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	やし類以外の寄主に対する被害実態に関する情報がないため、経済的重要性の評価には不確実性を伴う。	要	
ココヤシ	生果実	アジア	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①本種のココヤシの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ココヤシ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
ココヤシ	生果実	アジア	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①ココヤシの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ココヤシ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
穀類	穀類	全地域	真菌及び粘菌	Balansia oryzae-sativae		無視	無視	①いね及びソルガムの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、粉砕により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
穀類	穀類	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora maydis		無視	無視	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora philippinensis		極低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入され、本種は風により伝搬することから、宿主植物に移動する可能性は低い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②台湾等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
穀類	穀類	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sacchari		無視	無視	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④穀類は消費用として輸入されること、及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		高	高	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④とうもろこしは消費用として輸入されるが、本種は長距離を風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
穀類	穀類	全地域	真菌及び粘菌	Stenocarpella maydis		低	低	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③30℃で胞子の一日あたりの生存率が50–70%失われるとの記述があるため、乾燥により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④穀類は消費用として輸入され、本種は風により短距離伝搬することから、宿主植物に移動する可能性は低い。	極高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④土壌伝搬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
穀類	穀類	全地域	細菌	Clavibacter michiganensis subsp. nebraskensis（トウモロコシ葉枯細菌病菌）		無視	無視	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③実験では38℃で死滅したとの記述があるため、乾燥（35-45℃）により影響をうけると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④穀類は消費用として輸入され、本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
穀類	穀類	全地域	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちよう細菌病菌）		無視	無視	①とうもろこしの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
穀類	穀類	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①いねの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・粉砕により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
穀類	穀類	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	無視	無視	①とうもろこしのマイナーな害虫であり、幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵害虫の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・粉砕等の処理後、再汚染される可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
穀類	穀類	全地域	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	高	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・粉砕等の処理後、再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるとうもろこしは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離を飛翔移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシア、ポーランド、ウクライナ等で検疫有害動物となっている。また、カナダでも重要検疫有害動物とされれている。化学的防除等の防除も確立されておらず、毒餌等を利用した防除しかない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	無視	無視	①こむぎ、もろこしの主要な害虫であるが、種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①いね、こむぎ、とうもろこし、もろこしの主要な害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①とうもろこしの主要な害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
穀類	穀類	全地域	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①とうもろこし、こむぎの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①とうもろこし及びこむぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③夾雑物を除去や乾燥などの過程で除去されると判断されることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	無視	無視	①とうもろこし及びモロコシの主要な害虫であるが、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Pachnoda interrupta	コウチュウ目 コガネムシ科	無視	無視	①モロコシの主要な害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①こむぎ及びおおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。乾燥・粉砕等の処理後、再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
穀類	穀類	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①穀類のうち、いね、おおむぎ、こむぎ、とうもろこし等の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
穀類	穀類	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	低	低	①こむぎの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・粉砕等の処理後、再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④穀類は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
穀類	穀類	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	無視	無視	①とうもろこし、こむぎの主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	無視	無視	①こむぎ、とうもろこしの主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
穀類	穀類	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①とうもろこしの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・選別の過程で夾雑物とともに除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて低い。 ④穀類は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
コーヒー属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Hypothenemus hampei	コウチュウ目キクイムシ科	極低	中	①②③輸入検査でのコーヒー属からの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④コーヒー属は消費用として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	中	①本種の寄主であるコーヒー属は日本の一部（沖縄県等）でのみ栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②ブラジル、コロンビア、エクアドル、ケニア等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は落果したコーヒー果実内で生存可能であり、不適環境下では活動を休止することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種の寄主植物であるコーヒー属は日本の一部（沖縄県等）でしか栽培されていないが、本種はコーヒー栽培に甚大な被害を与え、最も重要視される害虫であることから、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法として、落果の処分などの耕種的防除法、天敵利用による生物的防除などが適用されている。	日本の一部（沖縄県等）（理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	
けやき属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Ophiostoma novo-ulmi		高	高	①けやき属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④けやき属は栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるにれ属は日本に広く分布するため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④にれ属は年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるジャコブソンキクイムシ、ニレザイノキクイムシ、ハンノキキクイムシが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な樹木である、にれ属に枯死など被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②カナダ、中国等で検疫病害虫に指定されている。本種の防除法として、耕種的防除、抵抗性品種、生物的防除、化学的防除、IPMが知られている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
けやき属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Ophiostoma ulmi		高	高	①けやき属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④けやき属は栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるにれ属は日本に広く分布するため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④にれ属は年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるジャコブソンキクイムシ、ニレザイノキクイムシ、ハンノキキクイムシが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な樹木である、にれ属に枯死などの被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②カナダ、中国等で検疫病害虫に指定されている。本種の防除法として、耕種的防除、抵抗性品種、生物的防除、化学的防除、IPMが知られている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
けやき属	重要農作物	全地域	節足動物	Scolytus scolytus	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①けやき属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④けやき属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、はこやなぎ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スペイン等に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫が多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種ははこやなぎ属の樹内部に寄生することから、年間を通じ生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な樹木である、はこやなぎ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法として、抵抗性品種の導入、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種はニレの立枯病(Ophiostoma ulmi)を媒介するベクターとして問題視されている。	要	
くり	重要農作物	全地域	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目ゾウムシ科	低	中	①くり属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は種子の中で生長するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④くりは栽植用植物で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるとうもろこしは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離を飛翔移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシア、ポーランド、ウクライナ等で検疫有害動物となっている。また、カナダでも重要検疫有害動物とされている。化学的防除等の防除も確立されておらず、毒餌等を利用した防除しかない。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
くり	重要農作物	全地域	節足動物	Grapholita funebrana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①くりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は幼虫が果実に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④くりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③同属の雌成虫は一度に平均145個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は中距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①さくらんぼの主要害虫であり、果実を食害し大きな被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②フェロモン剤によるトラッピングや交信撹乱、化学的防除等がが開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
くり	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①くりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④くりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
くり	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①くりの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④くりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 （参考）②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
くり	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Grapholita funebrana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①くりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は種子内に食入し、精選等により除去されるとの情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④くりは消費用として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	本種の寄主植物であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリアなどに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③同属の雌成虫は一度に平均145個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬可能であることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は中距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①さくらんぼの主要害虫であり、果実を食害し大きな被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②フェロモン剤によるトラッピングや交信撹乱、化学的防除等がが開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
くり	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①くりの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、また、種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
グラジオラス属	栽植用球根	ヨーロッパ	ウイルス	Artichoke Italian latent virus		無視	無視	①グラジオラス属のマイナーな病原体であるが、球根に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
グラジオラス属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	無視	無視	①グラジオラス属のマイナーな害虫であるが、球根を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
グラジオラス属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①グラジオラス属のマイナーな害虫であるが、球根を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
グラジオラス属	栽植用球根	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①グラジオラス属のマイナーな害虫であるが、球根を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ギョウギシバ属	雑品	全地域	真菌及び粘菌	Balansia oryzae-sativae		無視	無視	①ギョウギシバ属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、粉砕により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ギョウギシバ属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－			否	禁止対象の検疫有害動植物
ギョウギシバ属	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、ギョウギシバ属への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響をうけると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ギョウギシバ属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。	－		－		無視	－			否	禁止対象の検疫有害動植物
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①イネ科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、ギョウギシバ属への寄生についても不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ギョウギシバ属は牧草として輸入されるが、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、ギョウギシバ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、ギョウギシバ属の害虫としての情報はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、ギョウギシバ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、ギョウギシバ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ギョウギシバ属は牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、ギョウギシバ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、ギョウギシバ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
ギョウギシバ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、ギョウギシバ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ギョウギシバ属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるがギョウギシバ属への寄生について不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④ギョウギシバ属は牧草として輸入され、本種は歩行による短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	細菌	Erwinia tracheiphila		中	中	①きゅうりの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されるが、媒介昆虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①宿主植物であるきゅうりは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、米国、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主植物であるきゅうりは一年生草本であるが、施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介昆虫により伝染するが、媒介昆虫（Acalymma vittatum）は日本未発生であるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	高	①きゅうり等の日本の重要作物に、重大な被害を生じさせる可能性があり、きゅうりでは植物体に萎ちょう症状を示し、減収につながる可能性があることから、直接的影響は高い。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		中	中	①きゅうりの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫（Neoalituras tenellus及びN. opacipennis）は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目ミバエ科	低	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tau	ハエ目ミバエ科	中	高	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるメロン、かぼちゃ、きゅうり等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナムに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50–100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、かぼちゃ、きゅうり等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国、アフリカ諸国は本種を検疫有害動植物に位置付けている。本種の最も有効な防除法の一つは果実の袋かけである。化学的防除法としてはベイトスプレーが用いられる。雄成虫はキュウルアに誘引される。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Carpomya pardalina	ハエ目 ミバエ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は少なくとも100個の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で越冬可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、すいか等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPM等が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Dacus ciliatus	ハエ目 ミバエ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか、かぼちゃ等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はウリ科、トマト等、多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、すいか、かぼちゃ等のウリ科の果実を食害し、甚大な被害（減収）を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生果の採集、ベイトトラップ、薬剤散布等が知られている。チェコでは輸入禁止対象害虫に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、幼虫が根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200~1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Diaphania nitidalis	チョウ目ツトガ科	高	高	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実や茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種は米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、葉、茎、芽、花等に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④きゅうりは施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①きゅうり、メロン等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②防除法として天敵(Bacillus thuringiensis)利用や耕種的防除等の組み合わせとともに薬剤散布が有効である。日本では同属のワタヘリノメイガがウリ科、アオイ科野菜の害虫として記録されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	低	低	①ウリ科のマイナーな害虫であるが、きゅうりへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Pachnoda interrupta	コウチュウ目コガネムシ科	低	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるばら属、きび等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はカメルーン等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は一晩に24個以上産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫は土壌中で越冬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種成虫はきびの花部を加害するため、直接的影響は高い。 （参考）②耕種的、化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	野菜	アジア	細菌	Acidovorax avenae subsp. citrulli（スイカ果実汚斑細菌病菌）		無視	無視	①きゅうりのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
きゅうり	野菜	アジア	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちょう細菌病菌）		無視	無視	①きゅうりのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうり野菜は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きゅうり	野菜	アジア	ウイルス	Beet curly top virus		無視	無視	①きゅうりの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
きゅうり	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目ミバエ科	低	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きゅうりは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
きゅうり	野菜	アジア	節足動物	Bactrocera tau	ハエ目ミバエ科	中	高	①きゅうりの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きゅうりは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるメロン、かぼちゃ、きゅうり等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナムに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50−100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、かぼちゃ、きゅうり等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②米国、アフリカ諸国は本種を検疫有害動植物に位置付けている。本種の最も有効な防除法の一つは果実の袋かけである。化学的防除法としてはベイトスプレーが用いられる。雄成虫はキュウルアに誘引される。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	野菜	アジア	節足動物	Carpomya pardalina	ハエ目ミバエ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きゅうりは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は少なくとも100個の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で越冬可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、すいか等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPM等が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きゅうり	野菜	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた果実は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きゅうりは消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きゅうり	野菜	アジア	節足動物	Dacus ciliatus	ハエ目 ミバエ科	中	中	①きゅうりのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きゅうりは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか、かぼちゃ等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はウリ科、トマト等、多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、すいか、かぼちゃ等のウリ科の果実を食害し、甚大な被害（減収）を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生果の採集、ベイトトラップ、薬剤散布等が知られている。チェコでは輸入禁止対象害虫に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①キャベツ、カリフラワーのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に微小な卵が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種成虫が中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	節足動物	Delia radicum	ハエ目 ハナバエ科	高	高	①キャベツ、ブロッコリー、芽キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は寄主植物内部を食害することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は越冬すること、多年生植物を寄主植物として利用することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①キャベツ等、日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法、化学的防除法が有効である。日本では同属のダイコンバエ、ヒメダイコンバエが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①キャベツの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	極低	極低	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①ブロッコリー、キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	無視	無視	①本種はキャベツの主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	栽培地検査対象の病害虫
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	アジア	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Delia radicum	ハエ目 ハナバエ科	高	高	①本種はキャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は寄主植物内部を食害することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は越冬すること、多年生植物を寄主植物として利用することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①キャベツ等、日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法、化学的防除法が有効である。日本では同属のダイコンバエ、ヒメダイコンバエが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、キャベツ等への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉を外部から食害し、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の成虫は中距離飛翔することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①②③輸入検査でのブロッコリーからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種は飛翔により長距離を移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200-1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①キャベツの害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	高	高	①カリフラワーの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、収穫・選別の過程で除去される可能性が極めて低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	中	中	①②③輸入検査でのブロッコリーからの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、本種が日本の寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①本種はあぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①本種はキャベツの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉上に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の成虫は長距離移動することから、本種が日本の寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	無視	無視	①本種はキャベツの主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	線虫	Nacobbus aberrans（ニセネコブセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	無視	無視	①本種はキャベツ、カリフラワー、ブロッコリーの主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	極低	極低	①メキャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入されるが、本種の移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ（ブロッコリー、カリフラワー、芽キャベツを含む）	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は消費用として輸入され、本種の移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①キャベツ及びカリフラワーのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Delia radicum	ハエ目 ハナバエ科	高	高	①キャベツ、ブロッコリー及び芽キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は植物内部を加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるキャベツは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は越冬すること、多年生植物を寄主植物として利用することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①キャベツ等、日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法、化学的防除法が有効である。日本では同属のダイコンバエ、ヒメダイコンバエが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、キャベツ等への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	低	低	①アブラナ科の主要な害虫であるが、キャベツ等への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	中	中	①キャベツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①キャベツの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	高	高	①カリフラワーの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	高	高	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目 ヘテロデラ科	高	高	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
キャベツ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	中	中	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キャベツ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キャベツ等は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キャベツ	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はなく、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
キャベツ	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はなく、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
キャベツ	栽植用種子	ヨーロッパ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	無視	無視	①幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
キャベツ	栽植用種子	ヨーロッパ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	無視	無視	①キャベツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③精選・乾燥により死滅するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
きび属	雑品	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora sorghi		中	中	①きび属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧、粉砕、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種は風により長距離伝搬するとされることから宿主植物に移動する可能性は高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、アルゼンチン、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③－ ④本種は土壌伝搬するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きび属	雑品	全地域	細菌	Pantoea stewartii（トウモロコシ萎ちよう細菌病菌）		無視	無視	①きび属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧、粉砕、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きび属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
きび属	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、きび属への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響をうけると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きび属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
きび属	雑品	全地域	節足動物	Caulophilus oryzae	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①キビの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種の成虫は短距離移動することから寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	高	①本種の寄主であるとうもろこしは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②キューバ等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離を飛翔移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシア、ポーランド、ウクライナ等で検疫有害動物となっている。また、カナダでも重要検疫有害動物とされている。化学的防除等の防除も確立されておらず、毒餌等を利用した防除しかない。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	低	低	①イネ科の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、きび属への寄生についても不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種は長距離飛翔することから、寄主	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①きびのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 *無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きび属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、きび属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種若齢幼虫は未展開葉内に生息するが、収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 *無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、きび属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①きびの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、きび属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種は中距離飛翔すると考えられることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、きび属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 *無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きび属	雑品	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①きびの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③若齢幼虫は葉の基部深くに潜む傾向があるが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、きび属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
きび属	雑品	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	高	高	①きび属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きび属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、きび属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④きび属は牧草として輸入されるが、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きづた属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	高	高	①きづた属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きづた属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	アフリカ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	アフリカ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	アフリカ	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の組織内に産みつけられるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
きく属	栽植用植物	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きく属	栽植用植物	アジア	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵塊を産み付けるが、卵塊を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく属	栽植用植物	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊を産みつけるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく属	栽植用植物	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の組織内に産みつけられるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
きく属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きく属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵塊を産み付けるが、卵塊を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉上に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊を産みつけるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の組織内に産みつけられるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きく属	栽植用植物	中・南アメリカ	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目ヒメハダニ科	低	中	①きくの害虫ではあるが、主要な害虫ではないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 (参考)②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	栽植用植物	中・南アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉上に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるかーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	切り花	アジア	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に微小な卵が産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入され、飛翔により中距離移動する能力があり、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	切り花	アジア	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入され、本種は中距離飛翔することから、	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	切り花	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊を産みつけるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入されるが、成虫は飛翔により長距離移動	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きく属	切り花	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きく属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
きく属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①きく属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉に産み付けられるが異常を示さないため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は消費用として輸入されるが、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①きく属のマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は葉を巻くため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きく属は消費用として輸入されるが、飛翔により中距離移動する能力があり、寄主植物に移動する可能性は	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①きく属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を1卵ずつ産み付けるため、収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は消費用として輸入されるが、本種成虫は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
きく属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	中	中	①きく属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵塊で産み付けるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きく属は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きく属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①きく属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉上に100卵以上の卵塊を産み付けるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きく属は消費用として輸入されるが、本種は風に乗って数キロメートル移動した記述があることから、長距離の飛翔能力を有する。寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	中	中	①きく属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に100卵以上の卵塊を産み付けるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④きく属は消費用として輸入されるが、成虫は飛翔により長距離移動できるため、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく属	切り花	ヨーロッパ	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①きく属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④きく属は消費用として輸入されるが、本種は長距離の飛翔能力を有することから寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目ヒメハダニ科	低	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 （参考）②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①きくの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
きく	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①きくのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④きくは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
キウイフルーツ	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目 ミバエ科	中	中	①キウイフルーツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	重要農作物	全地域	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目 ヒメハダニ科	中	高	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 （参考）②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常等を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キウイフルーツ	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	生果実	大洋州	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①本種はキウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実の表面を加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	生果実	大洋州	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キウイフルーツ	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①キウイフルーツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目ヒメハダニ科	中	高	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種は歩行及び風により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 （参考）②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	生果実	中・南アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
キウイフルーツ	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①キウイフルーツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
キウイフルーツ	生果実	北アメリカ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①本種はキウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実の表面を加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
キウイフルーツ	生果実	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①キウイフルーツの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④キウイフルーツ生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
漢方薬	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①②③輸入検査での漢方薬からの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④本種は短距離移動する能力があり、貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
漢方薬	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sinoxylon conigerum	コウチュウ目ナガシンクイムシ科	低	低	①②③輸入検査での漢方薬からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④本種は中距離移動する能力があり、貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたけ類は全国に分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、イタリア、ブラジル、スペインに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を生み付けると考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠越冬する能力を有するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	中	①主に枯死したあるいは樹勢の衰えたたけ類を加害することから、直接的影響は中程度。 (参考)②本種は木材梱包材の害虫として知られる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	日本に主に存在するたけ(Phyllostachys属)を寄主とするかは不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera carambolae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	低	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マレーシアに分布するため、日本の環境への適応性は中程度。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させる重大な被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。耕種的防除法(袋掛け)、化学的防除法としてベイトスプレーがあり、早期発見のためにトラップが利用されている。日本ではかんきつを加害するミバエ科の昆虫として、ミカンバエ(同属)が報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera caryae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	極低	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるアセロラ、かんきつ属は北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スリランカに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①かんきつ属の主要な害虫であり、果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。果実の袋掛けが有効。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	中	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera kandiensis)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	極低	高	①ポメロの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②スリランカに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①かんきつ属の果実に寄生し、重大な被害を引き起こすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はEPPOのA1リストに指定されている。果実の袋かけが有効。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	北海道・東北を除く日本全域 (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera occipitalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	極低	高	①ぼんかんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②フィリピン等に分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①かんきつ属の主要な害虫であり、果実に寄生し、変色、腐敗させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEPPOのA1リストに指定されている。果実の袋かけが有効。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera papayae)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニア等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50−100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるトマト、かんきつ属の果実に寄生し、商品価値を低下させる。また、アジアでは本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera philippinensis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	極低	高	①ぼんかんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②フィリピンに分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①かんきつ属果実に寄生し、重大な被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEPPOのA1リストに指定されている。果実の袋かけが有効。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Elsinoe australis		中	高	①かんきつ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②ブラジル、アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④多年生植物であるかんきつ属に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風雨により伝染することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ果実に対し奇形、早熟落果させるなどの重要な被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②抵抗性品種や化学的防除が開発されている。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①レモンのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Guignardia citricarpa		中	高	①かんきつ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の宿主であるうんしゅうみかんは北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②ケニア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④常緑果樹であるかんきつの葉、茎、果実を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ果実に対し黒点状の斑点を生じ、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに記載されているほか、トルコでは輸入禁止対象とされている。化学的防除が開発されている。	北海道・東北を除く日本全域（理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Rosellinia pepo		中	中	①ライムのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるさといもは北海道を除く全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④土壌中で腐生生活をすることにより長期間生存できることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風媒伝染することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①さといもに根腐れ等の重大な被害を与える恐れがあることから、直接的影響は極めて高い。	北海道を除く日本全域（理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Liberibacter africanus		中	高	①かんきつ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入され、媒介虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生植物であるかんきつ属に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のミカンキジラミにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつの株全体の黄化を引き起こし、減収させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定している。	北海道・東北を除く日本全域（理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Liberibacter americanus		中	高	①オレンジの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入され、媒介虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②ブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生植物であるかんきつ属に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のミカンキジラミにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつの株全体の黄化を引き起こし、減収させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定している。	北海道・東北を除く日本全域（理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	細菌	Candidatus Liberibacter asiaticus		中	高	①かんきつ属の重要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入され、媒介虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生植物であるかんきつ属に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のミカンキジラミにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつの株全体の黄化を引き起こし、減収させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定している。	北海道・東北を除く日本全域（理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	細菌	Spiroplasma citri		低	中	①レモンの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	高	①宿主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生植物であるかんきつ属に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫となるヨコバイ類（Circulifer tenellus、Scaphytopius nitridus、S. acutus delongi、Neoaliturus haematoceps）が日本に分布していないため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①かんきつ属の重大な病害で、株や葉を矮化、黄化させ、品質及び収量を激減させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②CPPC、COSAVE、IAPSCら中南米・アフリカのRPPOは本種の侵入を警戒している。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	細菌	Xylella fastidiosa		高	高	①かんきつ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなるヨコバイやアワフキムシが日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のオオヨコバイやホソアワフキにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう、ももなどの日本の主要農作物に収量減、果実の小型化等の重大な被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②トルコでは栽培地検査を要求している。健全樹の使用が有効。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	ウイルス	Citrus yellow mosaic virus		中	高	①かんきつ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入され、媒介虫が日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるかんきつ類は北海道及び東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④常緑樹であるかんきつ類を宿主としていることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるミカンコナカイガラムシが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつに大幅な減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②媒介虫の防除が有効とされている。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	ウイルス	Indian citrus ringspot virus		低	中	①かんきつ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されるが、伝搬方式が接ぎ木伝搬であるため、宿主植物に移動する可能性は中程度。	高	①宿主植物であるかんきつ属は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④多年生植物であるかんきつ属に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②伝搬方式が接ぎ木伝搬であるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①かんきつ属の葉に斑点を生じ、重大な損失を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②無病苗が利用されている。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	本種は花粉から検出された旨の報告があるため、宿主植物に移動する可能性及び定着後の自然分散の可能性に関して不確実性を伴う。	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①オレンジのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Aleurocanthus woglumi	カメムシ目コナジラミ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉の裏に卵塊を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばら、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、ケニア、コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に35-50個の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹を寄主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種成虫は風により長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ、ばら等の茎、葉を加害し、甘露を付着させる。米国やインドなどで深刻な被害が報告されている。直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに掲載されているほか、COSAVEやNAPPOでも重要視されている。化学的防除法があり、天敵の存在も知られている。国内では同属のミカントゲコナジラミがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法(被害果実の収集、廃棄)、化学的防除法(ベイトスプレー)がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	中	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒してい	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80-100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	中	高	①オレンジの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実表面に微小な卵を産み付けることから、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるぶどう、りんごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は200個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫及び蛹で、樹上に残った枯葉、芽等で越冬できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、ぶどう等の果実を食害し、傷を付けることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、越冬場所の除去による耕種的防除法が有効とされている。りんごではチャノコカクモンハマキなど、日本には本種と同様の被害を与えるハマキガ科の害虫が数種、存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera correcta	ハエ目ミバエ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるメロンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要作物であるメロンの生果実に被害を与えるため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的・耕種的防除法が報告されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera frauenfeldi	ハエ目ミバエ科	低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実内部に複数の卵が産み付けられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種はグアバ、かんきつ等の果実に寄生し、減収させるため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が報告されている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera passiflorae	ハエ目ミバエ科	極低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	低	①寄主植物であるなすは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フィジー等に分布するため、日本の環境への適応性は低い。 ③1果実当たりの産卵数に関する記述はないが、同属の種は複数卵を1カ所に生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はなす、かんきつ属、マンゴウ等など多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるなす、かんきつ属の果実に寄生し、落果、商品価値の低下を招く。また、太平洋諸国はもちろんのことアジア、オーストラリアでも、本種は最も重大な被害をおよぼすミバエ類の1つとされており、直接的影響は極めて高い。 (参考)②オーストラリアは果実類などに関して、本種を含めたミバエ類に関する植物検疫要求事項を設定している。化学的防除、雄除去法、フェロモンなどが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni(クインスランドミバエ)	ハエ目ミバエ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera xanthodes	ハエ目ミバエ科	低	中	①ぼんかんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるトマト、かんきつは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②クック諸島、バヌアツに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はトマト、かんきつなどの果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①日本の重要作物であるトマトの果実を食害するため、直接的影響は高い。 (参考)②トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera zonata	ハエ目ミバエ科	低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、インド等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①ももの果実を加害し重大な被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②チェコでは本種を輸入禁止対象病害虫としている。耕種的、物理的、化学的防除法や雄除去法がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目ヒメハダニ科	低	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 (参考)②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis cosyra	ハエ目ミバエ科	中	中	①だいだいのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①マンゴウの果実を加害し重大な被害を与えるため、直接的影響は高い。 （参考）②寄生果の除去や化学的防除法がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis rosa	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト及びびさくら属植物は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むと考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①トマト及びびさくら属等、日本の主要作物の生果実に重大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はチェコ、シンガポール、マルタでは検疫有害動物に指定されており、EPPO、JUNAC（アンデス地域共同体）、およびOIRSA（中米地域植物防疫機関）において検疫上重要視されている。トラップ調査等モニタリングによる予察、化学的防除法が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されてれおり、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Diaphorina citri	カメムシ目キジラミ科	中	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は新梢に産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるかんきつは北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②中国、ブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約700個の卵を産みつけることから、繁殖能力は極めて高い。 ④好適寄主のかんきつは常緑樹であり、年間を通じ存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①本種はかんきつの主要な害虫であり、新梢等を加害することから、直接的影響は高い。 （参考）②カンキツグリーニング病の媒介昆虫として重要視されており、EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに指定している。本種はゲッキツを好適寄主としている。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	本種はカンキツグリーニング病菌を媒介する害虫としても最も重要視されている。	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、卵を産みつけられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①かんきつ属の害虫としての情報は不確実であり（data mining）、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵が塊で産み付けられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	中	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①シトロンの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus elisae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	中	①ライムのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）のみで栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②ブラジル、コロンビア、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）では年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	中	①日本の一部（沖縄県等）で栽培されているバナナに被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は中程度。 （参考）②バナナを加害するコナカイガラムシとして、日本にはヒカンコナカイガラムシ、タイワンコナカイガラムシが分布する。	日本の一部（沖縄県等）（理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Scirtothrips citri	アザミウマ目アザミウマ科	中	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるかんきつ類は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつ属に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はかんきつ類の果実、葉を食害するため、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本には同属のチャノキイロアザミウマがかんきつ生果実を加害する。	北海道・東北を除く日本全域（理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70–120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、ちゃ、しょうが、にんじんは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は寄主組織内に多数産卵することから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹であるかんきつ類の根に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるちゃ、かんきつ類を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除法が開発されている。日本にはしょうがに寄生する同目のキタネコブセンチュウ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目ロンギドルス科	中	中	①かんきつ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は Grapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	
かんきつ属	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera carambolae)(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	低	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②マレーシアに分布するため、日本の環境への適応性は中程度。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は高い。 (参考)②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。耕種的防除法(袋掛け)、化学的防除法としてベイトスプレーがあり、早期発見のためにトラップが利用されている。日本ではかんきつを加害するミバエ科の昆虫として、ミカンバエ(同属)が報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex(ミカンコミバエ種群)	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	中・南アメリカでの発生はガイアナ、スリナム、フランス領ギアナのみ報告されている。	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	真菌及び粘菌	Elsinoe australis		無視	無視	①かんきつの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③宿主植物に潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	真菌及び粘菌	Guignardia citricarpa		中	高	①かんきつの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③宿主植物に潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種は風により長距離伝搬することから、宿主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の宿主であるうんしゅうみかんは北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は高い。 ②ケニア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④常緑果樹であるかんきつの葉、茎、果実を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ果実に対し黒点状の斑点を生じ、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに記載されているほか、トルコでは輸入禁止対象とされている。化学的防除が開発されている。	北海道・東北を除く日本全域（理由：本種の宿主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	細菌	Candidatus Liberibacter americanus		無視	無視	①かんきつの主要な病原体であるが、生果実に感染するとの記載はないことから、発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	–		–		無視	–				否	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	細菌	Spiroplasma citri		無視	無視	①かんきつ類の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種が感染した生果実は奇形、退色等の症状を示すため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。	–		–		無視	–				否	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	細菌	Xylella fastidiosa		無視	無視	①かんきつ類の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	–		–		無視	–				否	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	中	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	中	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記載はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒している。EU、チェコ、シンガポールにおいて輸入禁止対象有害動物に指定されている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80–100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	中・南アメリカでの発生はガイアナ、スリナム、フランス領ギアナのみ報告されている。	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目ヒメハダニ科	低	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は歩行及び風により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 （参考）②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Diaphorina citri	カメムシ目キジラミ科	低	中	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種は中距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるかんきつは北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②中国、ブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約700個の卵を産みつけることから、繁殖能力は極めて高い。 ④好適寄主のかんきつは常緑樹であり、年間を通じ存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種はかんきつの主要な害虫であり、新梢等を加害することから、直接的影響は高い。 （参考）②カンキツグリーニング病の媒介昆虫として重要視されており、EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに指定している。本種はゲッキツを好適寄主としている。	北海道・東北を除く日本全域 （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	本種はカンキツグリーニング病菌を媒介する害虫としても最も重要視されている。	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	中	中	①かんきつ類のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を果実に産み付けるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus elisae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつ属のうちライムのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）のみで栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②ブラジル、コロンビア、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるバナナは日本の一部（沖縄県等）では年間を通して存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	中	①日本の一部（沖縄県等）で栽培されているバナナに被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は中程度。 （参考）②バナナを加害するコナカイガラムシとして、日本にはミカンコナカイガラムシ、タイワンコナカイガラムシが分布する。	日本の一部（沖縄県等） （理由：本種の寄主植物が分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①かんきつ類のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるビーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	中・南アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	生果実	北アメリカ	真菌及び粘菌	Eutypa lata		無視	無視	①かんきつ属のマイナーな病原体であるが、生果実に感染するとの記載はないことから、本種が発生国の原産地で品目に感染している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	細菌	Candidatus Liberibacter asiaticus		無視	無視	①かんきつ属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	生果実	北アメリカ	細菌	Spiroplasma citri		無視	無視	①かんきつの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	北アメリカ	細菌	Xylella fastidiosa		無視	無視	①かんきつの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①かんきつ属マイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	中	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha obliqua	ハエ目ミバエ科	中	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記載はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるかんきつ、にほんすももは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の重要な作物であるかんきつ属、にほんすももの生果実を食害する。また、中南米ではマンゴウ等、ウルシ科植物に及ぼす重大な被害が知られることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに掲載している。APPPC、CPPC、NAPPOも本種の侵入を警戒している。EU、チェコ、シンガポールにおいて輸入禁止対象有害動物に指定されている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80-100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①レモン、グレープフルーツのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実表面に微小な卵を産み付けることから、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるぶどう、りんごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は200個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫及び蛹で、樹上に残った枯葉、芽等で越冬できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、ぶどう等の果実を食害し、傷を付けることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、越冬場所の除去による耕種的防除法が有効とされている。りんごではチャノコカクモンハマキなど、日本には本種と同様の被害を与えるハマキガ科の害虫が数種、存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata(チチュウカイミバエ)	ハエ目ミバエ科	高	高	①かんきつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Diaphorina citri	カメムシ目キジラミ科	低	中	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種は中距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主であるかんきつは北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②中国、ブラジルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は約700個の卵を産みつけることから、繁殖能力は極めて高い。 ④好適寄主のかんきつは常緑樹であり、年間を通じ存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①本種はかんきつの主要な害虫であり、新梢等を加害することから、直接的影響は高い。 (参考)②カンキツグリーニング病の媒介昆虫として重要視されており、EPPOは本種を侵入を警戒する検疫有害動植物としてA1リストに指定している。本種はゲッキツを好適寄主としている。	北海道・東北を除く日本全域 (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	本種はカンキツグリーニング病菌を媒介する害虫としても最も重要視されている。	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実の表面を加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	中	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を果実に産み付けるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①かんきつの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を外部から食害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による短距離歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Scirtothrips citri	アザミウマ目アザミウマ科	中	高	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫、選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるかんきつ類は北海道、東北を除く地域で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつ属に寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はかんきつ類の果実、葉を食害するため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。日本には同属のチャノキイロアザミウマがかんきつ生果実を加害する。	北海道・東北を除く日本全域 (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①かんきつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるとうもろこしの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	節足動物	Unaspis citri	カメムシ目マルカイガラムシ科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種は多数の卵を卵塊で産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は1齢幼虫の歩行のみであるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるかんきつ属、ピーマン等に重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ロシアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かんきつ属	生果実	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①かんきつの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かんきつ属生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
からまつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Dendroctonus pseudotsugae	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①ウェスターンラーチのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、からまつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は最高160個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	中	①本種はからまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は中程度。 （参考）②本種の防除法として、耕種的防除法、化学的防除法が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
からまつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Gnathotrichus sulcatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	高	①からまつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を孔道内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は最高60個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種の防除法として、総合的病害虫管理（IPM）が利用されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
からまつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ips pini	コウチュウ目キクイムシ科	中	中	①アメリカからまつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は卵を母孔内に産み付け、内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
からまつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Monochamus scutellatus	コウチュウ目カミキリムシ科	中	高	①からまつ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は樹皮につけた傷の中に卵を産み付け、幼虫が樹皮下に内部寄生するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②カナダに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はまつ属の衰弱木に被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②本種の防除法としては化学的防除法及び耕種的防除法があるが、環境への影響により現在は耕種的防除法が利用されている。日本ではまつ属の害虫として同属のマツノマダラカミキリがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
からまつ属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①シベリアからまつのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④からまつ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
からすむぎ属	栽植用種子	大洋州	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①からすむぎ属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
からすむぎ属	栽植用種子	大洋州	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
からすむぎ属	栽植用種子	大洋州	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
からすむぎ属	栽植用種子	大洋州	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	中	中	①からすむぎ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④からすむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かもがや属	雑品	全地域	細菌	Pantoea stewartii(トウモロコシ萎ちょう細菌病菌)		無視	無視	①かもがや属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かもがや属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かもがや属	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、かもがや属への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響をうけると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④かもがや属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の	－		－		無視	－			否	禁止対象の検疫有害動植物
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①かもがや属は野生寄主であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④かもがや属は牧草として輸入され、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、かもがや属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①本種はイネ科の主要な害虫であるが、かもがや属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、かもがや属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、かもがや属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④かもがや属は牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、かもがや属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、かもがや属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
かもがや属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、かもがや属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かもがや属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるがかもがや属への寄生について不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④かもがや属は牧草として輸入され、本種は歩行による短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かぼちゃ属	栽植用種子	アジア	細菌	Erwinia tracheiphila		無視	無視	①かぼちゃの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④種子伝搬しないため、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	細菌	Erwinia tracheiphila		中	中	①かぼちゃの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されるが、媒介昆虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①宿主植物であるきゅうりは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、米国、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主植物であるきゅうりは一年生草本であるが、施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介昆虫により伝染するが、媒介昆虫（Acalymma vittatum）は日本未発生であるため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	高	①きゅうり等の日本の重要作物に、重大な被害を生じさせる可能性があり、きゅうりでは植物体に萎ちょう症状を示し、減収につながる可能性があることから、直接的影響は高い。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		低	低	①ウリ科の主要な病原体であるが、かぼちゃへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫（Neoaliturus tenellus及びN. opacipennis）は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目 ミバエ科	中	高	①かぼちゃの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tau	ハエ目ミバエ科	中	高	①かぼちゃの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるメロン、かぼちゃ、きゅうり等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナムに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、かぼちゃ、きゅうり等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国、アフリカ諸国は本種を検疫有害動植物に位置付けている。本種の最も有効な防除法の一つは果実の袋かけである。化学的防除法としてはベイトスプレーが用いられる。雄成虫はキュウルアに誘引される。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Carpomya pardalina	ハエ目ミバエ科	中	中	①かぼちゃのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は少なくとも100個の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹態で越冬可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①幼虫がメロン、すいか等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、化学的防除、IPM等が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Dacus ciliatus	ハエ目ミバエ科	高	高	①かぼちゃの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるメロン、すいか、かぼちゃ等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は多数の卵を果実表皮下に産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はウリ科、トマト等、多種の果実を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は飛翔により長距離移動する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①幼虫がメロン、すいか、かぼちゃ等のウリ科の果実を食害し、甚大な被害(減収)を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②寄生果の採集、ベイトトラップ、薬剤散布等が知られている。チェコでは輸入禁止対象害虫に指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Diaphania nitidalis	チョウ目ツトガ科	高	高	①かぼちゃの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実や茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、メロンは全国で栽培されているため、日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種は米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は通常、葉、茎、芽、花等に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④きゅうりは施設において周年栽培されていることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①きゅうり、メロン等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②防除法として天敵(Bacillus thuringiensis)利用や耕種的防除等の組み合わせとともに薬剤散布が有効である。日本では同属のワタヘリノメイガがウリ科、アオイ科野菜の害虫として記録されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	低	低	①ウリ科のマイナーな害虫であるが、かぼちゃへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、かぼちゃへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目 コナカイガラムシ科	中	中	①かぼちゃ属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	低	低	①ウリ科の主要な害虫であるが、かぼちゃへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かぼちゃ	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	高	高	①かぼちゃ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かぼちゃは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
カシューナッツ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④カシューナッツは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
カシューナッツ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ピスタチオは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
カシューナッツ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④ピスタチオは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
カシューナッツ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④カシューナッツは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①かきの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かき	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Eutypa lata		中	中	①かきのマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④多年生のあんず、ぶどう等を宿主とするため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風媒伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①ぶどう等の花、葉、茎に対し変色、斑点、変形の症状を生じる等重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②剪定した部位に殺菌剤を塗布する等の耕種的防除がある。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	低	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera neohumeralis	ハエ目ミバエ科	低	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②パプアニューギニアに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はかんきつ属、ピーマン等の果実に重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法としてベイトスプレー、耕種的防除法として袋がけがある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tryoni(クインスランドミバエ)	ハエ目ミバエ科	中	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマト、ピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫態で越冬し、多種類の果実を寄主として利用するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①トマト、ピーマン等の果実に寄生して腐敗させるなどの重大な被害を生じるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国などは本種の好適寄主植物に対して収穫後の処理(蒸熱、低温、乾熱等)を要求している。化学的防除法としてベイトスプレーがある。不妊虫を利用した防除法もある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Brevipalpus chilensis	ダニ目ヒメハダニ科	低	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①寄主植物であるぶどう、かんきつ、きくは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②チリに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③微小な卵を多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑樹を寄主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①ぶどう、かんきつ等の作物に被害を生じさせるため、直接的影響は高い。 (参考)②米国は本種発生国に対して植物検疫措置を適用している。日本国内には同属のブドウヒメハダニがぶどうを加害するとして報告されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Ceratitis capitata(チチュウカイミバエ)	ハエ目ミバエ科	中	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①かきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①かきの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉の表面に卵を塊で産み付けるが、それにより葉が異常を示すとの記載はないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
かき	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①かきの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 （参考）②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
カカオ	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	中	中	①カカオのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④カカオは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かえで属	重要農作物	全地域	細菌	Xylella fastidiosa		高	高	①かえで属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえで属は栽植用植物として輸入され、ベクターとなるヨコバイやアワフキムシが日本に分布することから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種が利用できる宿主植物が年間を通じて存在することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は日本既発生のオオヨコバイやホソアワフキにより伝搬するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①ぶどう、ももなどの日本の主要農作物に収量減、果実の小型化等の重大な被害を生じさせることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②トルコでは栽培地検査を要求している。健全樹の使用が有効。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かえで属	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①かえで属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かえで属	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①かえで属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
かえで属	重要農作物	全地域	節足動物	Choristoneura rosaceana	チョウ目ハマキガ科	高	高	①アメリカはなのきの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるさくらんぼは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に200−900個の卵を付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④2、3齢幼虫が越冬するとの記載があり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①りんご、さくらんぼ、なし、ばらの葉や果実を食害するが、被害はそれほど大きくない。しかし薬剤抵抗性を生じやすいため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法は開発されているが、本種は薬剤抵抗性を獲得しやすい。国内では同属のリンゴオオハマキ、アトボシハマキ等がリンゴを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
かえで属	重要農作物	全地域	節足動物	Orgyia antiqua	チョウ目ドクガ科	中	中	①ヨーロッパかえでのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は樹皮の裂け目などに作られた繭上に産み付けられるため、傷、腐敗、その他の異常と一緒に除去される可能性は高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④かえで属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③繭の表面に微小な卵約100～200個を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵で越冬することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種若齢幼虫は風により飛散することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種はりんご等を食害し落葉させ、減収をもたらすことから、直接的影響は高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。日本にはりんごを加害する同属のヒメシロモンドクガが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ガーベラ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①ガーベラのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ガーベラ属は苗木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150−200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ガーベラ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Duponchelia fovealis	チョウ目メイガ科	中	中	①ガーベラのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が地際部から茎内に食入するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ガーベラ属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるレタスは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を産み付け、雌成虫は200個産卵する能力があるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年草のペゴニア、トルコギキョウ等を加害するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トルコギキョウの主要な害虫であり、花冠を加害し、萎れ、衰弱、枯死等の深刻なダメージを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法があるが、茎に食入した幼虫の防除には効果が無い。また、細菌（Bacillus thuringiensis）や食虫性センチュウ（Steinernema sp.）を用いた生物的防除の報告がある。日本国内にはペゴニア属植物を加害するチョウ目ヤガ科の有害動物が多数存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
ガーベラ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①ガーベラの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊を産みつけるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、植物の選別等の過程で本種が植物とともに除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ガーベラ属は苗木・穂木として輸入されることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の１種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
ガーベラ属	栽植用植物	ヨーロッパ	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①ガーベラの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面及び裏面の組織内に産みつけられるため、傷、腐敗、その他の異常により植物と一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④ガーベラ属は苗木・穂木として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
カーネーション	重要農作物	全地域	ウイルス	Carnation ringspot virus		高	高	①カーネーションの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、米国、ブラジル、コロンビア、オーストラリア、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種の宿主植物であるカーネーションは多年生植物であり、且つ、本種は土壌中に残ることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、昆虫、土壌中の糸状菌等では伝染しないが、感染植物との接触、または汚染された土壌から伝染するため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①カーネーション等の日本の重要作物に、葉の輪紋症状や花の奇形を生じさせる等、重大な被害を生じさせる可能性があり、また、他のウイルスとの複合感染により収量を減少させることから、直接的影響は高い。 (参考)②チリ、中国、ハンガリー、韓国、スリランカ、米国及びイギリスにおいて検疫有害動植物に指定されている。米国では本種発生国から輸入されるカーネーションは原則として隔離検査対象となっている。ELISA法の導入により、近年は経済的被害が減少している。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
カーネーション	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150-200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
カーネーション	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されてれおり、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
カーネーション	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
カーネーション	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
カーネーション	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①カーネーションの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20–1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
カーネーション	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①カーネーションのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④カーネーションは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
オランダかいう属	切り花	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①②③輸入検査でのオランダかいう属からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④オランダかいう属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は米国で頻繁に検査で発見されているが、定着には至っていないため、定着の可能性の評価結果には不確実性を伴う。	要	
オランダかいう属	切り花	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①②③輸入検査でのオランダかいう属からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて低い。 ④オランダかいう属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おとぎりそう属	切り花	アフリカ	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	中	中	①②③輸入検査でのおとぎりそう属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④おとぎりそう属切り花は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おとぎりそう属	切り花	アフリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	極低	極低	①②③輸入検査でのおとぎりそう属切り花からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④おとぎりそう属切り花は消費用として輸入されるが、本種の移動は短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
オクラ	野菜	アジア	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①②③輸入検査でオクラからの発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④オクラは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
オクラ	野菜	アジア	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	低	低	①②③輸入検査でオクラからの発見事例があるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④オクラは消費用として輸入されるが、本種の成虫は飛翔により中距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はオーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫の総産卵数は1,500 – 1,800個に達するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠性を有することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種に対しては化学的防除法が知られる。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
オクラ	野菜	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①②③輸入検査でオクラからの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④オクラは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
オクラ	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	中	中	①オクラの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実を外部から加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④オクラは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	ウイルス	Maize stripe virus		中	中	①おおむぎ属のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入され、媒介虫は日本既発生であることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④イネ科の多年生植物を宿主とすることから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫であるトウモロコシウンカが日本に分布しているため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこしに重大な被害を与える病原体であり、90%以上の減収を引き起こすこともあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②媒介虫に対する化学防除のほか、媒介虫が加害する雑草の除去が行われている。シンガポールにおいて、検疫有害植物とされている。	日本全域 (理由:本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Blissus leucopterus	カメムシ目ナガカメムシ科	高	高	①おおむぎの主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は植物体の表面に産み付けられるが、卵の付着した部位は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ペルー等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしに被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は高い。 (参考)②防除法としては耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではとうもろこしのカメムシとして、同科のミナミアオカメムシ等が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	中	中	①おおむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の表面に卵塊で産み付けられるが、卵の付着した葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①おおむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 (参考)②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、おおむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450–2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、おおむぎ属の害虫としての情報はないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Mayetiola destructor（ヘシアンバエ）	ハエ目 タマバエ科	中	中	①おおむぎのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は、寄主植物体内を食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるこむぎは全国で栽培されることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、スペイン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数については雌1個体当たり100-200個で、繁殖能力は極めて高い。 ④麦わらの中で幼虫態で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②羽化地点より5マイル(約8km)先まで飛べるとの報告があるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①こむぎの主要な害虫とされ、茎に食入し減収や枯死を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）オーストラリア、中国では禁止対象害虫としている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	高	高	①おおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	高	高	①おおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目 ハムシ科	高	高	①おおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を葉上に産み付けるが、卵の付着した部分は異常を示すことはないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	極低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、おおむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	無視	無視	①おおむぎの主要な害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、通常、立毛中の生植物を加害はしないとされている。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①おおむぎのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、おおむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①おおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目 カツオブシムシ科	無視	無視	①おおむぎの主要な害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	中	中	①おおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はばれいしょ等を加害し、収穫量を減少させる。直接的影響は極めて高い。 （参考）②線虫を用いた生物的防除方法が考案されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	中	中	①おおむぎの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おおむぎ属	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	低	低	①イネ科のマイナーな害虫であるが、おおむぎ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④おおむぎ属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
おおむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
おおむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
おおむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
おおむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①おおむぎ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④おおむぎ属は種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
おおむぎ属	栽植用種子	北アメリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	無視	無視	①種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
えん麦	雑品	全地域	真菌及び粘菌	Peronosclerospora philippinensis		極低	低	①えん麦のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えん麦は牧草として輸入され、本種は風媒伝染することから、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は低い。	高	①本種の宿主であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②台湾等に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③− ④種子伝染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①とうもろこし等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、収穫物への直接的な被害があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、オーストラリアは本種を輸入禁止対象としている。 耕種的防除、抵抗性品種の利用、化学的防除等の防除法あり。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えん麦	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、えん麦への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えん麦は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	禁止対象の検疫有害動植物
えん麦	雑品	全地域	ウイルス	Maize stripe virus		無視	無視	①えん麦のマイナーな病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えん麦は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Blissus leucopterus	カメムシ目ナガカメムシ科	中	中	①えん麦の主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③管理手続きを経た後、成虫が越冬のため品目内部に潜り込むと考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えん麦は牧草として輸入され、本種の飛翔距離に関する情報はないが、中距離移動すると考えられることから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、コロンビア、ペルー等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔すると考えられることから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①本種は日本の主要な作物であるとうもろこしに被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は高い。 （参考）②防除法としては耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではとうもろこしのカメムシとして、同科のミナミアオカメムシ等が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目キンカメムシ科	低	低	①えん麦の主要な害虫であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④えん麦は牧草として輸入されるが、本種は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	無視	無視	①えん麦のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫が外部から寄生するが、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、えん麦への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①えん麦の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価を中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①えん麦の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	低	低	①えん麦の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④えん麦は牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目 ハムシ科	低	低	①えん麦の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④えん麦は牧草として輸入されるが、本種は中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、えん麦への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	中	中	①えん麦のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えん麦は牧草として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①えん麦のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、えん麦への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
えん麦	雑品	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①えん麦の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
えん麦	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるがえん麦への寄生について不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④えん麦は牧草として輸入され、本種は歩行による短距離移動に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
えんどう豆	豆類	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	無視	無視	①えんどう豆のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
えんどう豆	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①えんどう豆のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また、貯蔵中にも再寄生することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えんどう豆は消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えんどう豆	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①えんどう豆の主要な害虫であり、種子を食害するとの記述はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
えんどう豆	豆類	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①えんどう豆のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記述はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	
えんどう	野菜	アジア	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	極低	極低	①えんどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えんどうは消費用として輸入され、本種の移動は成虫の歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
えんどう	野菜	アジア	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	低	低	①マメ科の主要な害虫であるが、えんどうへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えんどうは消費用として輸入されるが、本種は風により長距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えんどう	野菜	アジア	節足動物	Megalurothrips sjostedti	アザミウマ目アザミウマ科	中	中	①えんどうのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は微小な卵を花梗、葉梗及び鞘の内部に産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えんどうは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげん、えんどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①いんげん、えんどうの葉や花を加害し、減収させるため、直接的影響は高い。 （参考）②本種に対する化学的防除が開発されている。日本にはマメ科作物を加害するアザミウマ科害虫が多数存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えんどう	野菜	アジア	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①えんどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④えんどうは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えんどう	野菜	アジア	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①えんどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④えんどうは消費用として輸入されるが、本種は長距離移動できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
えんどう	野菜	アジア	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①えんどうの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④えんどうは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 （参考）②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
えんどう	野菜	アジア	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	無視	無視	①本種はえんどうの主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
うまごやし属	雑品	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		無視	無視	①うまごやし属の主要な病原体であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・加圧等の工程で生存に影響を受けると判断される情報ないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④うまごやし属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	細菌	Xylella fastidiosa		無視	無視	①うまごやし属の主要な病原体であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・加圧等の工程で生存に影響を受けると判断される情報ないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④うまごやし属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	低	低	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属は牧草として輸入され、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Bruchophagus roddi	ハチ目カタビロコバチ科	低	低	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物内部に寄生するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を受けるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属牧草は牧草として輸入され、本種成虫は中距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるうまごやし属は日本に広く分布するため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スペイン、米国、アルゼンチン、ブラジル、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は前蛹で休眠越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	中	①うまごやし属の主要な害虫とされており、種子を加害し減収を引き起こすため、直接的影響は中程度。 （参考）②播種後の灌水等による耕種的防除が行われている。化学的防除はあまり効果がないが、播種直後の薬剤散布は有効である。韓国では本種を検疫有害動物として指定している。本種と同様にうまごやし属の種子を加害するクローバータネコバチが日本に存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	低	低	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③蛹の入ったマユは葉裏に付着し、収穫後の乾燥・加圧処理によって生存率に影響を受けることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属牧草は牧草として輸入され、本種成虫は中距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生するが、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫が外部から寄生するが、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物を外部から食害し、乾燥、加圧により死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫は寄主植物茎葉に外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫は寄主植物茎葉に外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Naupactus leucoloma	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は植物外部を食害し、乾燥・加圧により生存率に影響をあたえると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属は牧草として輸入され、本種の成虫の移動は歩行のみであることから寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ブラジル、ウルグアイ、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの減収及び商品価値の低下をもたらすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがアルファルファ及びばれいしょを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Naupactus xanthographus	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫は植物外部を食害し、乾燥・加圧により生存率に影響をあたえると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属は牧草として輸入され、本種の成虫の移動は歩行のみであることから寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるもも、ぶどう、ばれいしょ、大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は850個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫態で越冬可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫が果実を外部から食害し、ぶどうの害虫として重要視されている地域もあることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法及び化学的防除法が開発されている。日本では同科のアルファルファタコゾウムシがばれいしょを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	極低	低	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の蛹は精選・乾燥により、生存率に影響をあたえる既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属は牧草として輸入され、本種成虫は中距離飛翔する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	極低	極低	①②③輸入検査でのうまごやし属からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うまごやし属は牧草として輸入され、本種の成虫の移動は歩行のみであることから寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫は寄主植物茎葉に外部寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物を外部から食害し、乾燥、加圧により死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目ハダニ科	無視	無視	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫が外部から寄生するが、乾燥・加圧により死滅すると考えられるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①うまごやし属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うまごやし属	雑品	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①うまごやし属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に発生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うまごやし属	雑品	全地域	線虫	Meloidogyne chitwoodi（コロンビアネコブセンチュウ）	ティレンクス目 メロイドギネ科	無視	無視	①本種はうまごやし属の主要な害虫であり、本種の寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
うまごやし属	雑品	全地域	線虫	Meloidogyne fallax（ニセコロンビアネコブセンチュウ）	ティレンクス目 メロイドギネ科	無視	無視	①本種はうまごやし属のマイナーな害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
うしのけぐさ属	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①イネ科のマイナーな病原体であるが、うしのけぐさ属への感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響をうけると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④うしのけぐさ属は牧草として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。	－		－		無視	－				否	禁止対象の検疫有害動植物
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Eurygaster integriceps	カメムシ目 キンカメムシ科	低	低	①うしのけぐさ属は野生寄主であることから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③成虫が乾燥牧草内部で越冬するが、乾燥、加圧により影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うしのけぐさ属は牧草として輸入され、本種の成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②トルコ、アルジェリアに分布していることから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫態で休眠(冬眠・夏眠)を行うことから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種はこむぎの主要な害虫であり、葉を吸汁することで減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、マルタでは検疫病害虫に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が用いられる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、うしのけぐさ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①本種はイネ科の主要な害虫であるが、うしのけぐさ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、うしのけぐさ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	低	低	①イネ科の主要な害虫であるが、うしのけぐさ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は植物内部を食害するが、収穫後の乾燥、加圧処理によって生存率に影響を与えるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うしのけぐさ属は牧草として輸入されるが、本種成虫は中距離移動することから寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 （参考）②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Oulema melanopus	コウチュウ目ハムシ科	低	低	①うしのけぐさ属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部に寄生し、乾燥、加圧により生存率に影響を与えると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うしのけぐさ属は牧草として輸入されるが、本種は中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、オーストリア等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①本種は日本の主要な作物であるこむぎの葉を加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除、抵抗性品種、化学的防除、IPMが確立されている。我が国ではむぎ類に同様の加害様式を示す同属のムギクビホソハムシが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Brome mosaic virus、Maize chlorotic mottle virus、Barley yellow dwarf virus、Cocksfoot mottle virus、Phleum mottle virusを非永続伝搬することが知られており、本種の拡大にともない、被害が大きくなる可能性がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	無視	無視	①イネ科のマイナーな害虫であるが、うしのけぐさ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部寄生するが、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、うしのけぐさ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うしのけぐさ属	雑品	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①イネ科の主要な害虫であるが、うしのけぐさ属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵及び幼虫が外部から寄生し、収穫後の乾燥・加圧処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
うしのけぐさ属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①イネ科のマイナーな害虫であるがうしのけぐさ属への寄生について不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種成虫は植物外部を食害し、加圧により生存率に影響を受けると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うしのけぐさ属は牧草として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
うこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④うこんは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
うこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④うこんは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
うこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sinoxylon conigerum	コウチュウ目ナガシンクイムシ科	低	低	①②③輸入検査での発見事例があるが、発見件数が少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④うこんは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたけ類は全国に分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、イタリア、ブラジル、スペインに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を生み付けると考えられるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠越冬する能力を有するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	中	①主に枯死したあるいは樹勢の衰えたたけ類を加害することから、直接的影響は中程度。 （参考）②本種は木材梱包材の害虫として知られる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種がうこんで生活環を完結できるかどうかは不明。日本に存在するたけ類（Phyllostachys属）を加害するかどうかは不明。	要	
うこん	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・精選での過程で一部除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④うこんは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
うこん	嗜好香辛料等	全地域	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	無視	無視	①本種はうこんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は収穫後の乾燥処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん属	豆類	全地域	細菌	Curtobacterium flaccumfaciens pv. flaccumfaciens（インゲンマメ萎ちょう細菌病菌）		無視	無視	①いんげんまめの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いんげん属は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
いんげん属	豆類	全地域	ウイル	Beet curly top virus		無視	無視	①いんげんまめの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いんげん属は消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	無視	無視	①いんげん属のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①いんげん属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いんげん属は消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①いんげん属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いんげん属は消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①いんげんまめの主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①いんげんまめの主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	無視	無視	①いんげんまめのマイナーな害虫であり、幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①いんげん属のマイナーな害虫であり、生育中の種子には寄生するものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目ツトガ科	無視	無視	①いんげんまめのマイナーな害虫であり、植物体を外部から摂食するが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いんげん属	豆類	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①いんげんまめの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いんげん属は消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん属	豆類	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①いんげんまめの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥・選別の過程で夾雑物とともに除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて低い。 ④いんげん属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		高	高	①いんげん属の主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	細菌	Curtobacterium flaccumfaciens pv. flaccumfaciens（インゲンマメ萎ちょう細菌病菌）		高	高	①いんげんの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主である大豆、いんげんまめは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②コロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④本種は植物残渣や雑草で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆等のマメ科の葉の黄化や花腐れを起こすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに設定している。無病種子や抵抗性品種を利用した防除法が知られている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
いんげん	重要農作物	全地域	ウイルス	Beet curly top virus		中	中	①いんげんの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の宿主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国、アルゼンチン、ウルグアイに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③− ④宿主が複数存在し、年間を通じて感染部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は虫媒伝染するが、媒介虫（Neoaliturus tenellus及びN. opacipennis）は日本未発生のため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①さとうだいこんに重大な被害をもたらした記録があり、トマトでは茎葉の褐変、植物体の枯死を招くことから、直接的影響は極めて高い。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①いんげん属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera cucurbitae（ウリミバエ）	ハエ目ミバエ科	低	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は莢内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるトマト、メロン、かぼちゃは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①トマト、メロン、かぼちゃ等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの国が本種の寄主植物の輸入を禁止、もしくは処理（蒸熱、低温、乾熱等）を要求している。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Bactrocera tau	ハエ目ミバエ科	低	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は莢内部に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるメロン、かぼちゃ、きゅうり等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナムに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①幼虫がメロン、かぼちゃ、きゅうり等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②米国、アフリカ諸国は本種を検疫有害動植物に位置付けている。本種の最も有効な防除法の一つは果実の袋かけである。化学的防除法としてはベイトスプレーが用いられる。雄成虫はキュウルアに誘引される。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	無視	無視	①いんげん属の主要な害虫であり、乾燥子実を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	無視	無視	①いんげん属のマイナーな害虫であり、乾燥子実を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目ヤガ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されてれおり、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目ハムシ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが、幼虫は根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の主要な寄主植物であるきゅうり、さつまいもは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③土壌中に一度に10個から30個の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は蛹までの期間を土中で過ごし、成虫は広食性であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は中距離飛翔により移動できるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①本種は日本の重要作物であるきゅうり、さつまいもを加害し、重大な被害を及ぼす可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②トルコ共和国において輸入禁止対象病害虫とされている。耕種的、生物的、化学的防除法が開発されている。日本では同科のウリハムシモドキ、ウリハムシ、ホタルハムシ等がアブラナ科の害虫として知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Diabrotica undecimpunctata	コウチュウ目 ハムシ科	中	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが、幼虫が根を内部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるきゅうり、大豆、ししとうがらし、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③200−1200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で越冬可能であり、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、ウリ科植物、まめ類等を広く食害し、深刻な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに掲載されている。耕種的防除のほか、粒状の殺虫剤を土壌に散布し防除を行っている。またIPMも開発されている。日本では同科のウリハムシが同様にうり類の葉を加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia tracheiphila、Muskmelon necrotic spot virusのベクターとなる。	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目 メイガ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、寄生部位が周年存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①落花生、とうもろこし等をはじめとする多くの作物の主要な害虫であり、根や地際部を加害して芯枯れを起こし、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的防除法等がある。日本ではいねの害虫であるツトガ科のニカメイガが本種と同部位を加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目 ヨコバイ科	低	低	①マメ科の主要な害虫であるが、いんげんへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目 Penthaleidae科	中	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるあぶらな、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の卵は高温乾燥で休眠するほか、冬期も生存可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②風により長距離を飛ばされることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①牧草類の主要な害虫であり、減収を生じさせる可能性があることから、直接的影響は高い。 （参考）②抵抗性品種、生物的防除法、化学的防除法があり、IPMが行われている。国内ではハダニ類が同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは、栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目 ヤガ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物の表面に微小な卵を産み付けるが、産卵部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450−2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Megalurothrips sjostedti	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は微小な卵を花梗、葉梗及び鞘の内部に産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげん、えんどうは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア、ウガンダ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は寄主範囲が広く、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①いんげん、えんどうの葉や花を加害し、減収させるため、直接的影響は高い。 （参考）②本種に対する化学的防除が開発されている。日本にはマメ科作物を加害するアザミウマ科害虫が多数存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Mythimna unipuncta	チョウ目 ヤガ科	中	中	①いんげん属のマイナーな害虫であり、原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は茎などのくぼみに産卵されるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、スペイン、スイス、中国、トルコ、米国、アルゼンチン、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬季には温暖な地域まで飛翔して移動するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①とうもろこし、いね、こむぎの種子や穂を加害し、減収を生じさせる。直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシアでは本種をカテゴリーA1に指定し、輸入を禁止している。若齢幼虫期の化学的防除が有効である。日本には本種と同属のアワヨトウがとうもろこしを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Ostrinia nubilalis	チョウ目 ツトガ科	中	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の幼虫は茎に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③卵は多数産みつけられることから、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物であるきくは多年生植物であり、年間を通じて存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	高	①とうもろこし、おおむぎ等の日本の重要作物が寄主植物に含まれ、作物の葉、茎及び種実等に減収を伴う被害を及ぼすことから、直接的影響は高い。 (参考)②防除法として、Bt剤、性フェロモンが有効。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目 ハマキガ科	低	中	①いんげん属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①いんげんの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉の表面及び裏面の組織内に産み付けられるため、当該個体群は傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20−1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目ハダニ科	高	高	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 (参考)②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①いんげん属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物内部に卵を産み付けるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるえんどう、ばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため繁殖能力は極めて高い。 ④冬になると、短翅型成虫が土中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	高	①本種は日本の主要な作物であるえんどう、ばれいしょに対して被害を及ぼすため、直接的影響は高い。 (参考)②メキシコは本種の侵入を警戒している。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	本種は地中海性気候に分布し、米国の輸入検査でたびたび発見されているが、定着には至っていないため、本種の侵入の可能性の評価には不確実性を伴う。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①いんげん属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いんげん	重要農作物	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	無視	無視	①いんげんの主要な害虫であり、乾燥種子を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いんげん	重要農作物	全地域	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目 ヘテロデラ科	高	高	①本種はいんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるだいこんは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種はシストを形成するため土壌中で長期間生存可能であり、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①日本の主要な作物であるだいこん、てんさいを加害し、てんさいでは、根への加害により萎れを引き起こし、重大な被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプト、ブルガリア及びルーマニアは、本種が付着している植物の輸入を禁止している。日本には、本種の寄主植物である大豆を加害する同属のダイズシストセンチュウが存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
いんげん	重要農作物	全地域	線虫	Xiphinema index	ドリライムス目 ロンギドルス科	中	中	①いんげんのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③少数の寄生では症状が発現せず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるぶどうは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、南アフリカ、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多く、また単為生殖することができるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生のぶどうを寄主とし、根を加害するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①全ての態でぶどうの根に寄生し、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法が開発されている。本邦にはぶどうの害虫としてナミラセンセンチュウがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は Grapevine fanleaf virus、Grapevine chrome mosaic virusのベクターである。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いんげん	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	中	中	①いんげんの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いんげんは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いね（水稲）	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Balansia oryzae-sativae		高	高	①いねの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いね（水稲）は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるいね及び公園等の西洋芝（バミューダグラス）に感染するため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④土壌伝搬はしないが、多年草イネ科植物の西洋芝に感染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、胚乳を侵すなど、収穫物に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②タイ王国及び南アフリカ共和国では本種が検疫要求対象となっている。特にタイでは精米、砕米等に対しても本種が付着していないことを検疫証明書に追記するよう要求している。本種は種子伝染するが、熱水処理により管理できる。農薬処理も有効である。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
いね（水稲）	重要農作物	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		中	高	①いねの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いね（水稲）は栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④本種は種子伝染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①いねの葉を変色、枯死させ、減収を引き起こすことから、直接的影響は高い。 （参考）②本種は種子や植物残渣の中で越冬するものの土壌での生存は知られていない。このことから種子の管理及びほ場清掃等の徹底が図れれば、定着後の根絶も可能性はある。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
いね（水稲）	重要農作物	全地域	線虫	Ditylenchus angustus	ティレンクス目 アングイナ科	中	高	①いねの重要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いね（水稲）は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③複数個体を産するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物はイネ科に限られるが、種子内に寄生し、種子の乾燥状態によっては生き残ることが可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②水により長距離移動する能力を有するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①インドネシア、バングラデシュではいねの栽培に対して、本種が重大な脅威となっており、収穫が皆無のこともあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、エジプト、中国、ハンガリー、ブルガリア、ブラジル等が本種の侵入を警戒している。費用対効果のある化学的防除法はなく、作物残渣の焼却や抵抗性品種の導入のみが有効で、一旦侵入を許してしまえば、根絶は極めて困難。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いね	雑品	全地域	真菌及び粘菌	Balansia oryzae-sativae		無視	無視	①いねの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いねは牧草等として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	禁止対象の検疫有害動植物
いね	雑品	全地域	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		無視	無視	①いねの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、加圧により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いねは牧草等として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			否	禁止対象の検疫有害動植物
いね	雑品	全地域	線虫	Ditylenchus angustus	ティレンクス目アングイナ科	中	高	①いねの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体内部に存在し、加熱、加圧により生存率に影響を受けないと考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④いねは牧草等として輸入され、本種は水により長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③複数個体を産するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物はイネ科に限られるが、種子内に寄生し、種子の乾燥状態によっては生き残ることが可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②水により長距離移動する能力を有するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①インドネシア、バングラデシュではいねの栽培に対して、本種が重大な脅威となっており、収穫が皆無のこともあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、エジプト、中国、ハンガリー、ブルガリア、ブラジル等が本種の侵入を警戒している。費用対効果のある化学的防除法はなく、作物残渣の焼却や抵抗性品種の導入のみが有効で、一旦侵入を許してしまえば、根絶は極めて困難。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
いね	栽植用種子	アジア	真菌及び粘菌	Balansia oryzae-sativae		高	高	①いねの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報がないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝染し、また、いねは栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の宿主であるいね及び公園等の西洋芝（バミューダグラス）に感染するため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②中国、米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④土壌伝搬はしないが、多年草イネ科植物の西洋芝に感染するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、胚乳を侵すなど、収穫物に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②タイ王国及び南アフリカ共和国では本種が検疫要求対象となっている。特にタイでは精米、砕米等に対しても本種が付着していないことを検疫証明書に追記するよう要求している。本種は種子伝染するが、熱水処理により管理できる。農薬処理も有効である。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いね	栽植用種子	アジア	細菌	Xanthomonas oryzae pv. oryzicola		中	高	①いねの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④本種は種子伝搬し、また、いねは栽植用種子として輸入されることから宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①宿主植物であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ベトナム、インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③– ④本種は種子伝染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①いねの葉を変色、枯死させ、減収を引き起こすことから、直接的影響は高い。 （参考）②本種は種子や植物残渣の中で越冬するものの土壌での生存は知られていない。このことから種子の管理及びほ場清掃等の徹底が図れれば、定着後の根絶も可能性はある。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
いね	栽植用種子	アジア	線虫	Ditylenchus angustus	ティレンクス目アングイナ科	極低	低	①インドネシア、バングラデシュではいねの栽培に対して、本種が重大な脅威となっている。また、収穫後のいね種子にも存在するため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は極めて高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③籾の内部に存在するため、選別の過程で除去される可能性は低いが、乾燥により種子の水分含有率が12%まで低下すると死滅することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④いねは種子で輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インドに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③複数個体を産するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主植物はイネ科に限られるが、種子内に寄生し、種子の乾燥状態によっては生き残ることが可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②水により長距離移動する能力を有するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	極低	極高	①インドネシア、バングラデシュではいねの栽培に対して、本種が重大な脅威となっており、収穫が皆無のこともあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア、エジプト、中国、ハンガリー、ブルガリア、ブラジル等が本種の侵入を警戒している。費用対効果のある化学的防除法はなく、作物残渣の焼却や抵抗性品種の導入のみが有効で、一旦侵入を許してしまえば、根絶は極めて困難。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
いちょう	重要農作物	全地域	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①いちょう属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵を植物体表面に塊状に産みつけるが、卵を産みつけられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちょう属は栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちごつなぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①いちごつなぎ属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、穂に侵入し種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	–		–		無視	–				否	
いちごつなぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Limothrips denticornis	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	–		–		無視	–				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いちごつなぎ属	栽植用種子	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
いちご	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		低	低	①バラ科の主要な病原体であるが、いちごへの感染については不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	細菌	Strawberry lethal decline phytoplasma		中	中	①いちごの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は潜在感染することがあることから、既存の管理に耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されるが、媒介虫は日本未発生であることから、宿主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①宿主植物であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④多年生植物であるいちごを宿主とするため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	低	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②媒介虫となるヨコバイ（Aphrodes bicinctus）が日本に分布していないため、定着後の自然分散の可能性は低い。	極低	極高	①いちごなど日本の主要な作物に植物の変形や黄化、枯死を引き起こし、重大な被害を与える可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②防除法として、健全苗の使用がある。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	主となる媒介虫は不明であり、日本既発種が媒介虫となり得る可能性があるため、有害動植物が寄主／宿主に移動する可能性及び自然分散の可能性に係る評価については不確実性を伴う。	要	
いちご	重要農作物	全地域	ウイルス	Raspberry ringspot virus		高	高	①いちごの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるぶどうは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、トルコ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、さくらんぼ等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①いちごなどの日本の重要作物にえそ斑点、輪点、えそを生じ、やがて感染植物はわい化し枯死に至るなどの重大な被害を生じる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU及びトルコでは禁止対象の有害植物に指定。チェコでは栽培地検査対象に指定。防除法は健全苗の使用、媒介線虫の防除など。	日本全域（理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	線虫による伝搬も行うが、我が国に存在する線虫により伝搬することが可能であるかについては不明である。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いちご	重要農作物	全地域	ウイルス	Strawberry latent ringspot virus		高	高	①いちごの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③潜在感染することがあるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、宿主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③– ④本種は永年作物であるぶどう、もも等に感染することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②種子、土壌中の線虫などで伝染するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①セロリ、もも、ぶどうなど日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EU、トルコ、インドネシア、南アフリカにおいて侵入・まん延を警戒する検疫有害動植物に指定されている。ほ場を休閑地にする、または抵抗性品種を栽培することを2年間行うことで管理できる。すいせんなどは茎頂点培養することで罹病を防ぐことができる。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は葉の裏面に産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるカーネーションは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に150–200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は中距離飛翔が可能なため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①カーネーション等の日本の重要作物に被害を生じさせる可能性があり、蕾、花、葉等に直接被害を与えることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除、化学的防除が確立されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	中	中	①いちご属のマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は葉に卵を産み付けるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるトマトは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③一度に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通して利用可能であるかんきつ属を寄主として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、ばれいしょ、かんきつ等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②南アフリカのA2リストに掲載。農薬、天敵の利用が防除法として実施されている。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ等が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中、貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目メイガ科	高	高	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は茎の内部に食入するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいね、とうもろこしは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種が利用できる寄主植物は年間を通じて存在し、寄生部位が周年存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①落花生、とうもろこし等をはじめとする多くの作物の主要な害虫であり、根や地際部を加害して芯枯れを起こし、減収を引き起こすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的防除法等がある。日本ではいねの害虫であるツトガ科のニカメイガが本種と同部位を加害する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③寄主植物表面に微小な卵を産み付けるが、卵を産み付けられた部位は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	高	高	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではもも の吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Otiorhynchus ovatus	コウチュウ目ゾウムシ科	高	高	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を内部加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいちごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストラリア、スイス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は50個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④幼虫及び成虫が土中等で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①日本の主要な作物であるいちごの葉や成長点、根等を加害し、植物体を枯死させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくいちごを加害する同科のリンゴヒゲナガゾウムシが発生している。化学的防除、耕種的防除及び生物的防除法が開発されている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目ゾウムシ科	中	中	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は根を外部から加害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるいちごは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ニュージーランド等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖するため、繁殖能力は極めて高い。 ④永年植物である樹木を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行により短距離移動すると考えられるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①日本の主要な作物であるいちごに重大な直接的被害を与えるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除法が利用可能である。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体を外部から食害するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	高	高	①いちご属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物（りんご等）が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Tetranychus pacificus	ダニ目 ハダニ科	中	中	①いちご属のマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるさくら属は全国に広く分布しており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④雌成虫は休眠し越冬することから、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は歩行及び風により移動するため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	高	①メロン、大豆、いんげん、さくら、ぶどうなどの作物の葉や芽を加害することにより光合成組織の破壊や褐変、落葉を引き起こすことがあり、直接的影響は高い。 （参考）②オーストラリアにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。化学的防除法、耕種的防除法、生物的防除、IPMが開発されている。国内では同属のアシノワハダニ、カンザワハダニ、ナミハダニが大豆等を加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
いちご	重要農作物	全地域	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であるが、植物体内に産卵するため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性は低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60−70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
いちご	重要農作物	全地域	線虫	Meloidogyne fallax(ニセコロンビアネコブセンチュウ)	ティレンクス目メロイドギネ科	中	中	①いちごのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③根部に内部寄生し、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③産卵数が多いことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は寄主植物周辺の土壌中にも生息することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②自力での移動は短距離に限られるため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①ばれいしょの主要な害虫であり、塊茎表面に根こぶを作り、商品価値を下げることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除法が開発されている。国内ではばれいしょを加害する線虫として、同属のキタネコブセンチュウ、サツマイモコブセンチュウが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	栽培地検査対象の病害虫
いちご	重要農作物	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	中	中	①いちごの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④いちごは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
イチゴ	野菜	北アメリカ	細菌	Strawberry lethal decline phytoplasma		無視	無視	①本種はイチゴの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は潜在感染することがあることから、既存の管理に耐えて生き残る可能性は高い。 ④イチゴは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、本種が日本の宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
イチゴ	野菜	北アメリカ	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目カメムシ科	中	中	①イチゴのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④イチゴは消費用として輸入されるが、本種は中距離飛翔する能力があるため、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主植物である大豆は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④成虫で休眠し越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②中距離飛翔する能力があるため、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物である大豆の葉、茎及び種子を吸汁加害し、重大な被害を与える可能性がある。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、抵抗性品種、IPMが開発されている。我が国では大豆の吸実性カメムシとして、多数の種が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
イチゴ	野菜	北アメリカ	節足動物	Conotrachelus nenuphar	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①本種はイチゴのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中、貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵は果実内に産下され、幼虫は果実の内部に食入することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④イチゴは消費用として輸入され、本種の成虫は主に歩行により移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるさくらんぼ、ももは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は長期間産卵を続けることから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の成虫は冬期、土中で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫の移動は主に歩行によることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①成虫がさくらんぼ、もも等の未熟果に産卵すると、幼虫が果実を食害し熟す前に落果させる等の重大な被害を及ぼす可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はEU、トルコ及びチェコにおいて輸入禁止対象病害虫となっている。モニタリング法、化学的防除法、生物的防除法、誘引剤が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	CPCによると、さくらんぼを除いて本種幼虫が生果実に寄生した状態で輸送される可能性は低いとの記述がある。	要	
イチゴ	野菜	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	中	中	①本種はイチゴのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③微小な卵を果実に産み付けるが、収穫・選別の過程で除去される可能性が低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④イチゴは消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000−1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
イチゴ	野菜	北アメリカ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	中	中	①イチゴの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④イチゴは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
イチゴ	野菜	北アメリカ	節足動物	Otiorhynchus rugosostriatus	コウチュウ目 ゾウムシ科	無視	無視	①本種はイチゴのマイナーな害虫であるが、加害部位は幼虫・成虫とも根・葉・クラウンであり(卵・蛹はホスト根回り周辺の土中)、果実に寄生するとの記述はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	−		−		無視	−				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
イチゴ	野菜	北アメリカ	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①イチゴの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④イチゴは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるかんきつ、ばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②イタリア、中国、南アフリカ、米国、オーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物(りんご等)が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、植物の葉及び花等に被害を及ぼすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除および、生物的防除法がある。国内では同属のクワコナカイガラムシがりんごを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
イチゴ	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①本種はイチゴの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④イチゴは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アンスリューム属	切り花	アジア	節足動物	Chaetanaphothrips signipennis	アザミウマ目アザミウマ科	低	高	①アンスリューム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③植物体外部に寄生するが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アンスリューム属切り花は消費用として輸入されるが、本種は長距離飛翔するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	中	①寄主植物であるバナナは日本の一部(沖縄県等)で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は中程度。 ②オーストラリア、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④日本の一部(沖縄県等)では一年を通じて寄主植物が存在するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①本種はばしょう属等庭園樹の葉、実を加害するため、直接的影響は高い。 (参考)②化学的防除法が開発されている。	日本の一部 (沖縄県等) (理由:本種の寄主植物が分布しているため。)	なし	要	
アンスリューム属	切り花	アジア	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①アンスリューム属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アンスリューム属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アンスリューム属	切り花	アジア	節足動物	Pseudococcus jackbeardsleyi	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①アンスリューム属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アンスリューム属切り花は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はコロンビア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は寄主植物に多数の微小な卵を産み卵嚢を形成するため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑果樹であるかんきつに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種はトマト、かんきつ類等の果実を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のクワコナカイガラムシ、ミカンヒメコナカイガラムシ及びナガオコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アンスリューム属	切り花	アジア	線虫	Radopholus similis（バナナネモグリセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	無視	無視	①本種はアンスリューム属の主要な害虫であるが、通常地上部を加害しないことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			地上部に移動した事例の報告もある。	否	栽培地検査対象の病害虫
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Bactrocera dorsalis species complex (Bactrocera dorsalis)（ミカンコミバエ種群）	ハエ目ミバエ科	中	高	①アボカドの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつ属、ピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②インド、台湾に分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③果実に多数産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により50-100km移動するとの報告があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ、もも、りんご等の果実を食害し、甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②多くの未発生国では発生国からの果実の輸出に当たり、低温処理、蒸熱処理等を義務づけている。ベイトスプレー等の化学的防除、不妊虫放飼、雄除去法、トラップ調査等モニタリングによる予察が知られている。日本ではかんきつを加害する同属のミカンバエがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha fraterculus	ハエ目ミバエ科	中	中	①アボカドのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるかき、ももは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、かき、もも等の果実に寄生して腐敗させ、早期に落果させるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOは本種をA1リストに指定。APPPC、CPPC、NAPPOも重要視している。耕種的防除法（被害果実の収集、廃棄）、化学的防除法（ベイトスプレー）がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha ludens	ハエ目ミバエ科	低	中	①アボカドのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主であるもも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOにおいて侵入を警戒する検疫有害動植物に指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha serpentina	ハエ目ミバエ科	中	中	①アボカドのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主であるりんご、もも、かんきつは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ブラジル、アルゼンチン、コロンビア、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫は80-100個の卵を産卵する。繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①かんきつ属を食害し、中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②オーストラリア、シンガポール、インドネシアにおいて輸入禁止対象病害虫とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Anastrepha suspensa	ハエ目ミバエ科	低	中	①アボカドのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①寄主植物であるもも、なしは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はキューバに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物の生果実に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②Anastrepha属は飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①中南米ではもっとも甚大な被害を与える害虫であり、もも、なしなど日本の重要作物の果実に被害を生じさせるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPO、CPPC、JUNAC、NAPPOは本種を検疫有害動植物に特定している。PFAの設定がフロリダで行われている。マラソン、蛋白質加水分解物を用いたベイトスプレーによる防除が有効とされている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Argyrotaenia citrana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①アボカドのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③果実表面に微小な卵を産み付けることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるぶどう、りんごは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は200個程度の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫及び蛹で、樹上に残った枯葉、芽等で越冬できるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は飛翔により、また若令幼虫は風により中距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんご、ぶどう等の果実を食害し、傷を付けることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除法、越冬場所の除去による耕種的防除法が有効とされている。りんごではチャノコカクモンハマキなど、日本には本種と同様の被害を与えるハマキガ科の害虫が数種、存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Ceratitis capitata（チチュウカイミバエ）	ハエ目ミバエ科	中	中	①アボカドのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は果実内部に産卵するため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるさくら属植物及びピーマンは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、イタリア、ウルグアイ、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主が複数存在し、年間を通じて寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は20kmを飛翔する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①さくら属の生果実、ピーマン等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせ、時には100%の生果実に被害を与える可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②日本、米国をはじめ、本種が分布していない地域では本種は最も重要な検疫有害動植物の一つに指定されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	禁止対象の検疫有害動植物
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①本種はアボカドの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が果実の表面を加害するため、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Nipaecoccus nipae	カメムシ目コナカイガラムシ科	極低	極低	①アボカドの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、中国、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつ属の葉を加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばれいしょ等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性がある。観葉植物、果実、切り花等の商品価値を落とすことから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②エジプトは本種の侵入を警戒している。化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と同じくかんきつ類を寄主植物とする同属のタマコナカイガラムシが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Platynota stultana	チョウ目ハマキガ科	低	中	①アボカドのマイナーな害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫は果実を外部から食害する。収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	高	①本種の寄主植物であるピーマンは全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②メキシコに分布するため、日本の環境への適応性は高い。 ③寄主植物に平均97個の卵を鱗状に付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④常緑樹であるかんきつに寄生し、幼虫で越冬可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①ピーマン、かんきつ、もも、ぶどう生果実などを食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのalert listにおいて警戒すべき害虫として取り扱われている。モニタリングを基にした化学的防除法及び天敵防除が開発されている。国内では同科のナシヒメシンクイがももを加害する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Retithrips syriacus	アザミウマ目 アザミウマ科	低	低	①アボカドの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③外部寄生性の微小害虫であり、収穫・選果の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③微小な卵を葉の中に産み、また単為生殖を行うこともあるため、繁殖能力は極めて高い。 ④寄主植物が年間を通じて存在することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	高	①かき、りんご、洋なし、いんげん、すももの果実、花蕾、葉を食害し、変色、斑点、異常型等の被害を与えるとの情報があり、直接的影響は高い。 (参考)②国内では同科のチャノキイロアザミウマ等がかきを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	部分的に、評価を行うための情報が不足している。 本種のホストは多いが、すべて、data miningとされている。	要	
アボカド	生果実	北アメリカ	節足動物	Selenaspidus articulatus	カメムシ目 マルカイガラムシ科	極低	極低	①アボカドの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるが微小害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種の移動は幼虫による歩行に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主であるばらは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②エクアドル、ペルーに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は70-120個の微小な卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生であるばらに寄生するため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②幼虫は歩行移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①かんきつ、ばら等の葉、茎、果実を吸汁加害し、重要な被害を与える。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除法、生物的防除法のほか、総合防除も報告がある。国内では同科のミカンマルカイガラムシ、アカマルカイガラムシ、キマルカイガラムシがかんきつを加害する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アボカド	生果実	北アメリカ	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①アボカドの主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、収穫・選定の過程で除去される可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④アボカド生果実は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
あぶらな属	雑品	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	
あぶらな属	雑品	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	-		-		無視	-				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	雑品	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①あぶらな属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、種子を食害するとの記載はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	雑品	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、幼虫及び成虫が種子の外部を加害するとの記述はあるが、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	雑品	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①②③輸入検査でのあぶらな属からの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④あぶらな属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵物中で生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
あぶらな属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目 オオコウラナメクジ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目 コウラナメクジ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、種子を食害するとの記載はあるものの、乾燥種子を加害するとの記載はない。このことから発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	雑品	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目 Helicidae科	極低	極低	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、精選等により除去できる可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④あぶらな属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Acrosternum hilare	カメムシ目 カメムシ科	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の開花期及び幼苗期に葉、果実、種子等を食害する外部寄生性の害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Cacoecimorpha pronubana	チョウ目 ハマキガ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に卵を産み付け、生育期に幼虫が葉、花序及び果実を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び蛹は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目 マメゾウムシ科	低	低	①②③輸入検査でのあぶらな属からの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④あぶらな属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目 マメゾウムシ科	高	高	①あぶらな属に寄生するとの情報はないが、貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が種子内を食害する。また、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④あぶらな属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Chrysodeixis chalcites	チョウ目 ヤガ科	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に微小な卵を産み付け、生育期に幼虫が植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び蛹は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－					否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Delia radicum	ハエ目 ハナバエ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に幼虫が茎葉及び根の内部を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－					否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Diabrotica balteata	コウチュウ目 ハムシ科	無視	無視	①アブラナ科のマイナーな害虫であるが、あぶらな属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－					否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Elasmopalpus lignosellus	チョウ目メイガ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に幼虫が茎葉や根を外部から食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Halotydeus destructor	ダニ目Penthaleidae科	無視	無視	①アブラナ科の主要な害虫であるが、あぶらな属への寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に葉、花序等を食害する外部寄生性の害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物に微小な卵を産み付け、生育期に幼虫が葉、花序、果実、種子等を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	無視	無視	①あぶらな属の害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の開花期及び結実期に穂に侵入し種子を加害する外部寄生性の微小害虫であるが、乾燥した種子や茎葉等を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目 カスミカメムシ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物組織の内部に産卵し、生育期に葉、花芽、花、果実、種子等を吸汁加害するが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目 コナカイガラムシ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に茎葉、花序、果実、根等を食害する外部寄生性の微小害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目 オサゾウムシ科	高	高	①あぶらな属に寄生するとの情報はないが、貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③収穫物は乾燥・圧縮され、その過程で影響を受けると考えられるが、処理後に再汚染される可能性があるため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④あぶらな属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に卵塊を産みつけ、生育期に幼虫が植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の葉に卵塊を産みつけ、生育期に幼虫が葉及び果実を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵及び幼虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Thrips angusticeps	アザミウマ目アザミウマ科	無視	無視	①あぶらな属のマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物内部に卵を産み付け、生育期に茎葉等を食害する外部寄生性の微小害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、卵、幼虫及び成虫は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	高	高	①あぶらな属に寄生するとの情報はないが、貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④あぶらな属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①あぶらな属に寄生するとの情報はないが、貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③幼虫が種子内を食害する。また、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④あぶらな属は消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	線虫	Heterodera schachtii（テンサイシストセンチュウ）	ティレンクス目ヘテロデラ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	線虫	Nacobbus aberrans（ニセネコブセンチュウ）	ティレンクス目プラティレンクス科	無視	無視	①キャベツ・カリフラワー等の主要な害虫であるが、寄生は根部・地下部に限定されるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	その他無脊椎動物	Arion hortensis	有肺目オオコウラナメクジ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に植物体全体を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼体及び成体は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	無視	無視	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は寄主植物の生育期に葉、果実、発芽前の種子等を食害する害虫であるが、乾燥した植物体を加害するとの記述はなく、幼体及び成体は収穫後の乾燥・加圧・粉砕等の処理によって死滅すると考えられることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	
あぶらな属	嗜好香辛料等	全地域	その他無脊椎動物	Helix aspersa	有肺目Helicidae科	極低	極低	①あぶらな属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であるため、精選等により除去できる可能性が高いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④あぶらな属は消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、キャベツ、レタス等は全国で栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③平均85個程度の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は冬眠を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の移動は短距離に限られることから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①トマト、キャベツ、レタス等様々な農作物を食害し、変色、腐敗等を引き起こす重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②インドネシア及びオーストラリアにおいては本種は輸入禁止対象病害虫となっている。化学的防除法が開発されており、銅を忌避する性質と併せたIPMも開発されている。トマト、キャベツ、レタスに対しては国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アスパラガス	野菜	アジア	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目アザミウマ科	高	高	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus（TSWV）、Tomato chlorotic spot virus（TCSV）、Groundnut ringspot virus（GRSV）、Tobacco streak ilarvirus（TSV）を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
アスパラガス	野菜	アジア	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目アザミウマ科	低	低	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は風に乗って長距離を飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アスパラガス	野菜	大洋州	節足動物	Epiphyas postvittana	チョウ目ハマキガ科	中	中	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入され、本種は飛翔により中距離移動する能力があることから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるりんごは日本で広く栽培されており、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランドに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に卵塊を多数付着させるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は幼虫態で越冬可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①りんごの葉や生果実を食害する重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②生物的防除、化学的防除法、IPMなどが開発されている。国内ではりんごの害虫として多くのハマキガ科が存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アスパラガス	野菜	大洋州	節足動物	Frankliniella schultzei	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が極めて多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔できることから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、ケニア、ウルグアイ等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風により長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるトマト、レタス、大豆、たばこ等に対して被害を及ぼし、吸汁により植物体の奇形、退色、褐変等をもたらすため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対する耕種的防除、化学的防除及び総合的防除が開発されている。日本には同属が数種存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Tomato spotted wilt virus (TSWV)、Tomato chlorotic spot virus (TCSV)、Groundnut ringspot virus (GRSV)、Tobacco streak ilarvirus (TSV) を媒介することが知られており、本種の拡大に伴い被害が大きくなる可能性がある。	要	
アスパラガス	野菜	大洋州	節足動物	Helicoverpa punctigera	チョウ目 ヤガ科	中	中	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が極めて多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は飛翔により中距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は中程度。	極高	①本種の寄主であるトマトは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②本種はオーストラリアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌成虫の総産卵数は1,500 – 1,800個に達するため、当該種の繁殖能力は極めて高い。 ④本種は休眠性を有することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	低	極高	①トマト、大豆等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種に対しては化学的防除法が知られる。日本には本種の寄主植物であるトマトを加害する同科のアカエグリバ、ヨトウガ他5-6種が存在している。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アスパラガス	野菜	大洋州	節足動物	Limothrips cerealium	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が極めて多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主であるイネ科牧草は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、米国、オーストラリア、ニュージーランド等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産卵するため、繁殖能力は極めて高い。 ④冬期間にイネ科の多年生植物上で生存可能であることから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は風により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①英国において、穀類を加害するアザミウマとしてもっとも知られている。幼虫及び成虫が穀実を吸汁し退色させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②天敵として、ダニの一種であるAnystis baccarumの記載がある。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アスパラガス	野菜	大洋州	節足動物	Phlyctinus callosus	コウチュウ目 ゾウムシ科	極低	極低	①アスパラガスの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④アスパラガスは消費用として輸入され、本種の成虫は歩行により移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①寄主植物であるぶどう、にんじん、もも、りんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③単為生殖を行う可能性があり、雌成虫は最大350個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土壌中で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は歩行移動することから、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①本種は日本の主要作物であるりんご、ぶどうに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②化学的、生物的、耕種的防除法が開発されている。ユリ科では同目のカタボシクビナガハムシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ワタミヒゲナガゾウムシ、ヤサイゾウムシ、シラフヒョウタンゾウムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	本種は米国で頻繁に検査で発見されているが、定着には至っていないため、定着の可能性の評価結果には不確実性を伴う。	要	
アスパラガス	野菜	大洋州	節足動物	Thrips imaginis	アザミウマ目 アザミウマ科	高	高	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が極めて多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は風に乗って長距離を飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるりんごは日本で広く栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②ニュージーランド、オーストラリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③本種の雌成虫は多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫が風にのって長距離飛翔できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種は日本の主要な作物であるりんご等に対して被害を及ぼし、オーストラリアでは60-70%、収穫量の減少をもたらしたこともある。吸汁により果実を奇形にさせることもあるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②本種は農薬により容易に防除できる。日本には本種と同じように花に付着するアザミウマとして、ネギアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ等が存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アスパラガス	野菜	大洋州	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	極低	極低	①アスパラガスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性の害虫であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④アスパラガスは消費用として輸入され、本種の移動は短距離に限られることから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アスパラガス	野菜	中・南アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	高	高	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アスパラガス	野菜	中・南アメリカ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	中	中	①アスパラガスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
アスパラガス	野菜	中・南アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①アスパラガスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③茎に卵塊が産み付けらるが、収穫・選別の過程で除去される可能性は低く、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アスパラガス	野菜	北アメリカ	節足動物	Helicoverpa zea	チョウ目ヤガ科	高	高	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例があり、発見件数が多いため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドルに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は1000-1500個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は土中の蛹で休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は数百kmを移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	高	極高	①本種の分布する米国ではコドリンガに次いで経済的に重要な害虫とされており、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOは本種をA1リストに指定して侵入を警戒している。耕種的、化学的、生物的防除法が開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アスパラガス	野菜	北アメリカ	節足動物	Heliothis virescens	チョウ目ヤガ科	低	低	①②③輸入検査でのアスパラガスからの発見事例はあるが、発見件数が極めて少ないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性、輸送中・貯蔵中に生き残る可能性及び既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は低い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物である大豆、レタス、トマト、とうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ウルグアイ、ブラジル、コロンビア、アルゼンチン、エクアドル、ペルー等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌の総産卵数は450-2000個に達するため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は高温及び低温時には休眠することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離移動することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①広食性であり、とうもろこし等の日本の主要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的、化学的、生物的防除法が開発され、IPMも開発されている。日本には本種と近縁のオオタバコガが存在する。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アスパラガス	野菜	北アメリカ	節足動物	Lygus lineolaris	カメムシ目カスミカメムシ科	中	中	①アスパラガスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は植物組織の内部に産卵することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①本種の寄主植物であるいんげんは全国で栽培されていることから、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グルジア、米国等に分布することから、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は成虫で越冬するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要な作物であるいんげんに重大な被害を生じさせる可能性があるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、生物的防除法、化学的防除法が開発されている。我が国ではももの吸実性カメムシとして、同科のミナミアオカメムシが知られている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	Erwinia amylovoraを媒介する可能性がある。	要	
アスパラガス	野菜	北アメリカ	節足動物	Spodoptera frugiperda	チョウ目ヤガ科	中	中	①アスパラガスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産みつけられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、収穫・選別の過程で除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④アスパラガスは消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は高い。	極高	①寄主植物であるたまねぎは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、ブラジル、コロンビアに分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵塊を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④多年生植物であるカーネーションを加害することから、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により長距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①日本の主要な作物であるたまねぎの葉や茎を加害するため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOのA1リストに指定されている。化学的防除法が開発されている。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
アスパラガス	野菜	北アメリカ	その他無脊椎動物	Deroceras reticulatum	有肺目コウラナメクジ科	極低	極低	①アスパラガスのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は外部寄生性であり、収穫・選別の過程で除去される可能性が高いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は中程度。 ④アスパラガスは消費用として輸入され、本種は短距離移動することから、寄主植物に移動する可能性は極めて低い。	極高	①本種の寄主植物であるこむぎ、大豆、ばれいしょ等は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②オーストリア、スイス、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を土中に産み付ける。繁殖能力は極めて高い。 ④本種は卵あるいはふ化後の幼体時に土中で越冬を行う。本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種は短距離移動するため、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①こむぎ、ばれいしょ等の葉を食害し、著しい減収を引き起こす等、重要な被害があり、直接的影響は極めて高い。 （参考）②ベイトペレットによる化学的防除、線虫を用いた生物的防除法が考案されている。国内ではチャコウラナメクジが同様の被害を及ぼす。	日本全域 （理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
あずき	重要農作物	全地域	真菌及び粘菌	Phymatotrichopsis omnivora		低	低	①マメ科の主要な病原体であるが、あずきへの感染の情報は不明であるため、発生国の原産地で品目に感染している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種は潜在感染することがあるため、既存の管理に耐えて生き続ける可能性は高い。 ④あずきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①宿主植物であるもも、りんごは全国で栽培されているため、本種が日本の宿主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③- ④本種は土壌中で生存可能なため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①感染部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②土壌伝染することから、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①りんご、ももの葉の変色、枯死、根の腐敗、茎内部の変色等を引き起こし、りんご等の果樹園では50%を超える樹体が枯死した例もあることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA1リストに設定している。チェコ及びシンガポールでは本種を検疫有害動物としている。	日本全域 （理由：本種の宿主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あずき	重要農作物	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	無視	無視	①あずきのマイナーな害虫であり、乾燥子実を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			なし	否	
あずき	重要農作物	全地域	節足動物	Empoasca fabae	カメムシ目ヨコバイ科	低	低	①マメ科の主要な害虫であるが、あずきへの寄生については不明であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③本種の卵は葉裏の葉脈内に産み付けられるが、産み付けられた葉は異常を示さないため、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④あずきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるばれいしょは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産みつけるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種の寄主範囲は極めて広く、周年寄生部位が存在するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は風により長距離移動する能力を有することから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	低	極高	①日本の重要作物であるばれいしょの重要な害虫であり、葉を吸汁して萎凋させることから、直接的影響は極めて高い。 （参考）②耕種的防除、化学的防除、IPMが開発されている。日本では同属のマメミドリヒメヨコバイ、キマダラヒメヨコバイがばれいしょに同様の被害を及ぼす。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
あずき	重要農作物	全地域	節足動物	Spodoptera littoralis	チョウ目ヤガ科	中	中	①あずきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③葉に卵塊が産み付けられるが、卵を産み付けられた葉は異常を示さず、傷、腐敗、その他の異常により一緒に除去される可能性が低いことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は高い。 ④あずきは栽植用植物として輸入されることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物であるとうもろこしは全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②スペイン、アルジェリア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に20-1,000個の卵を卵塊で生み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は常緑であるかんきつ属を寄主植物として利用するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②成虫は飛翔により長距離移動できるため、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種は日本の主要作物であるとうもろこしをはじめ、数多くの農作物に直接的かつ壊滅的な被害を起こす可能性のある害虫の1種であるため、直接的影響は極めて高い。 （参考）②EPPOでは本種をA2リストに指定している。生物的防除法、化学的防除法、IPMが開発されている。日本には本種の寄主であるナス科植物を加害する同属のシロイチモジヨトウ及びハスモンヨトウが存在する。	日本全域（理由：本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。）	なし	要	
あずき	重要農作物	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	無視	無視	①ささげ属の害虫としての情報は不確実であり（data mining）、乾燥子実を食害するとの記載はあるが、生植物を加害するとの記載はない。このことから、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－			なし	否	
あずき	豆類	全地域	細菌	Curtobacterium flaccumfaciens pv. flaccumfaciens（インゲンマメ萎ちよう細菌病菌）		無視	無視	①あずきの主要な病原体であり、発生国の原産地で品目に感染している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥、精選により影響を受けると判断される情報はないことから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④あずきは消費用として輸入されること及び本種の伝搬様式から、宿主植物に移動する可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	栽培地検査対象の病害虫

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
あずき	豆類	全地域	節足動物	Callosobruchus analis	コウチュウ目マメゾウムシ科	中	中	①あずきのマイナーな害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は中程度。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④あずきは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である大豆は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②南アフリカ、ケニア等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③雌は約200個の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	極低	極高	①大豆種子の内部を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②寄生蜂が知られ生物的防除が試みられている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
あずき	豆類	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	低	低	①あずきの害虫としての情報は不確実であり(data mining)、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は低い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③乾燥後、再寄生する可能性があり、種子内を食害することから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④あずきは消費用として輸入され、本種は貯蔵された豆のみで生活環を完結できることから寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	極低	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アーモンド	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Caryedon serratus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害しながら生育し、また貯蔵害虫のため再汚染の可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アーモンドは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵食品を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①寄主植物である落花生、いんげん属は全国で栽培されているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②米国、フランス等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③寄主植物に多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②歩行により、短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①落花生種子を食害するため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除、耕種的防除などが防除法として開発されている。また、寄生蜂が知られている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アーモンド	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Sitophilus granarius	コウチュウ目オサゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③卵、幼虫、蛹が種子内に寄生。成虫は精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アーモンドは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培される。本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②フランス、米国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③有性生殖により多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね等の日本の重要作物に重大な被害を生じさせる可能性があることから、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種はインドネシア及び中国では輸入禁止対象に、インドでは検疫証明書への追記対象となっている。化学的防除等が開発されている。日本には本種と同じく貯蔵食品を加害する同属のコクゾウムシが存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
アーモンド	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Trogoderma granarium	コウチュウ目カツオブシムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③40℃でも生存が可能であり、また体サイズの関係上精選の過程である程度除去できる可能性はあるが、貯蔵害虫のため再汚染の可能性がある。既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アーモンドは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し、生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいねは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②韓国等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産み付けるため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、本種が日本で生き残る可能性は極めて高い。	中	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②短距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は中程度。	低	極高	①いね、こむぎ、おおむぎ、とうもろこし等の作物の種子を寄主とし、加害する害虫であり、直接的影響は極めて高い。 (参考)②EPPOのA2リストに記載されているほか、オーストラリア、中国等多くの国において本種は輸入禁止対象害虫である。日本国内には貯蔵穀類を加害する同属の害虫であるヒメマダラカツオブシムシがいる。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	

品目	用途	輸出地域	区分	学名	分類	侵入の可能性					まん延の可能性		侵入及びまん延の可能性の評価の結論	経済的重要性		危険にさらされている地域	不確実性	病害虫危険度管理の要否	備考
						評価	入り込みの可能性		定着の可能性		評価	理由		評価	理由				
							評価	理由	評価	理由									
アーモンド	嗜好香辛料等	全地域	節足動物	Zabrotes subfasciatus	コウチュウ目マメゾウムシ科	高	高	①貯蔵食品の主要な害虫であるため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③種子内を食害し、また貯蔵害虫のため再汚染の可能性があることから、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④アーモンドは消費用として輸入されるが、本種は貯蔵穀物を加害し生活環を完結できることから、寄主植物に移動する可能性は極めて高い。	極高	①本種の寄主であるいんげんは全国で栽培されるため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②アルゼンチン、ペルー、ブラジル等に分布するため、日本の環境への適応性は極めて高い。 ③多数の卵を産むため、繁殖能力は極めて高い。 ④貯蔵食品は年間を通じて利用可能であるため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②飛翔により中距離移動する能力があり、定着後の自然分散の可能性は高い。	中	極高	①いんげんまめの重要な害虫。直接的影響は極めて高い。 (参考)②化学的防除方法がある。同属他種及び他属の形態的類似種が存在する。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
NZ材	木材	ニュージーランド	節足動物	Gnathotrichus sulcatus	コウチュウ目キクイムシ科	中	高	①まつ属、とがさわら属の主要な害虫であり、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は高い。 ②輸送中・貯蔵中に生き残る可能性に関する記述はない。 ③木材は有害動植物の管理手続きを受けずに輸入されることが多いため、既存の管理手続きに耐えて生き残る可能性は極めて高い。 ④NZ材は消費用として輸入されるが、本種の成虫は長距離飛翔により移動するため、寄主植物に移動する可能性は高い。	高	①本種の寄主である、まつ属は日本に広く分布しているため、本種が日本の寄主植物を利用できる可能性は極めて高い。 ②グアテマラに分布していることから、日本の環境への適応性は高い。 ③雌成虫は最高60個の卵を産むことから、繁殖能力は極めて高い。 ④本種は年間を通じて利用可能な、まつ属の幹に寄生するため、日本で生き残る可能性は極めて高い。	極高	①寄生部位は商品として流通するため、定着後の人為的移動の可能性は極めて高い。 ②本種の成虫は長距離飛翔する能力があることから、定着後の自然分散の可能性は極めて高い。	中	極高	①本種はまつ属に被害を及ぼすため、直接的影響は極めて高い。 (参考)②本種の防除法として、総合的病害虫管理(IPM)が利用されている。	日本全域 (理由:本種の寄主植物は日本に広く分布しているため。)	なし	要	
NZ材	木材	ニュージーランド	節足動物	Pseudococcus calceolariae	カメムシ目コナカイガラムシ科	無視	無視	①本種はまつ属の主要な害虫であるが、主幹に寄生しないため、発生国の原産地で品目に寄生している可能性は無視できる。 ＊無視できるとされたことから、以降の評価は中止する。	－		－		無視	－				否	